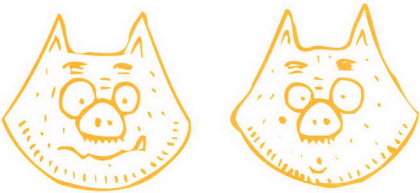
ポプラポケット文庫



ポプラ社

作・絵　原ゆたか（はら　ゆたか）
1953年、熊本県に生まれる。1974年KFSコンテスト・講談社児童図書部門賞受賞。主な作品に、『ちいさなもり』「プカプカチョコレー島」シリーズ、「よわむしおばけ」シリーズ、「ほうれんそうマン」シリーズ、「かいけつゾロリ」シリーズ、「おばけのユータくん」シリーズ、「魔法のおみやげ」シリーズなどがある。

このお話の主人公かいけつゾロリは「ほうれんそうマン」シリーズの著者みづしま志穂氏の御諒解のもとにおなじキャラクターで新たに原ゆたか氏が創作したものです。

収録作品について
『かいけつゾロリの大きょうりゅう』（ポプラ社　1990.8）
『かいけつゾロリのきょうふのゆうえんち』（ポプラ社　1991.2）

2006年5月　第1刷

ポプラポケット文庫050-4

ゾロリ2in1　かいけつゾロリの大きょうりゅう きょうふのゆうえんち

作・絵　**原ゆたか**
発行者　坂井宏先
発行所　株式会社ポプラ社
東京都新宿区大京町22-1・〒160-8565
振替　00140-3-149271
電話（編集）03-3357-2216　（営業）03-3357-2212
（お客様相談室）0120-666-553
FAX（ご注文）03-3359-2359
インターネットホームページ http://www.poplar.co.jp
印刷所　瞬報社写真印刷株式会社
製本所　株式会社ブックアート
Designed by 濱田悦裕

©原ゆたか　2006年　Printed in Japan
ISBN4-591-09255-0　N.D.C.913　183p　18cm

落丁本・乱丁本は送料小社負担でお取り替えいたします。
ご面倒でも小社お客様相談室宛にご連絡下さい。
受付時間は月～金曜日、9:00～18:00（ただし祝祭日は除く）

読者の皆さまからのお便りをお待ちしております。
いただいたお便りは、編集部から著者へお渡しいたします。

かいけつゾロリのきょうふのゆうえんち

ゾロリーランドのレストラン

ザ・ちゃみせ では ぜひ これを たべていこう。

★この びんぼうくさい ていしょくを たべると ゆめも きぼうも なくなるぜ。

かけたちゃわん

ひえた ごはん

めざし 1ぴき

めるい わかめの みそしる

こほれた みそしる

つながった たくわん

ゾロリーランド ていしょく

460えん

ゾロリせんべい

のり

1まい 100えん

おじいちゃん おばあちゃんへの おみやげは この2つに きまりだね。

イシシ・ノシシの ゴマあじ あられ

1ふくろ 380えん

ごま

こんぶ

ゾロリ・ペロペロキャンデー

たかいはなを なめて ひくく しよう

1ぽん 50えん

ジャンクルシムガム

1こ 50えん

★かみはじめると ねばねば べとべとして くちが あかなく なるぞ。

ジェットトースターの くろこげパン

1まい 20えん

★たくさんたべると ガンになるぜ たべすぎに ちゅういしよう。

ゾロリのちょうせん

(おまけページ・番外編)

の答え

みんな、ぜんぶ わかったかな？

☆おまけページ・2

ゾロリーランド キャラクターグッズ

これを売って、ひともうけしようと思ったのに……

ジャングルクロースのわにのせんたくばさみ

5こで 600えん

★これで せんたくものを はさむと やぶれるので きをつけよう!!

メリーゴロンラウンドめがね

2000えん

★これを かければ メリーゴロンラウンドに のらなくても めがまわって フラフラさ.

ゾロリぼくとう

★おともだちへの おみやげは これだ.

1000えん

ゾロリこけし

大 ―700えん
中 ―400えん
小 ―300えん

ゾロリペナント

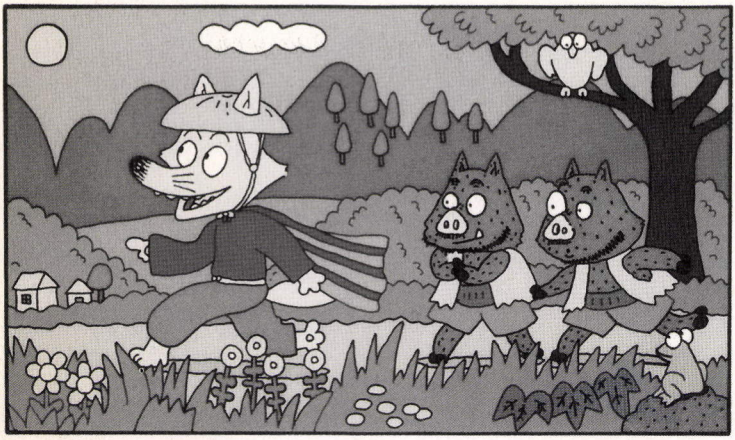
★これを はると おしゃれな おへやに へんしんだ.

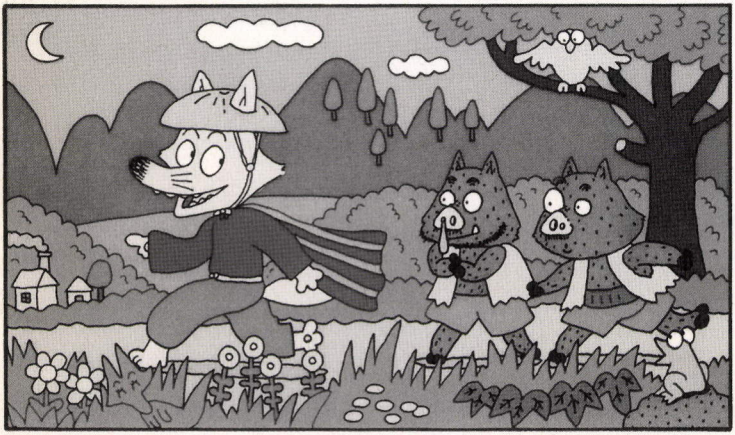
ゾロリーランドきねん

480えん

●ゾロリのちょうせん●

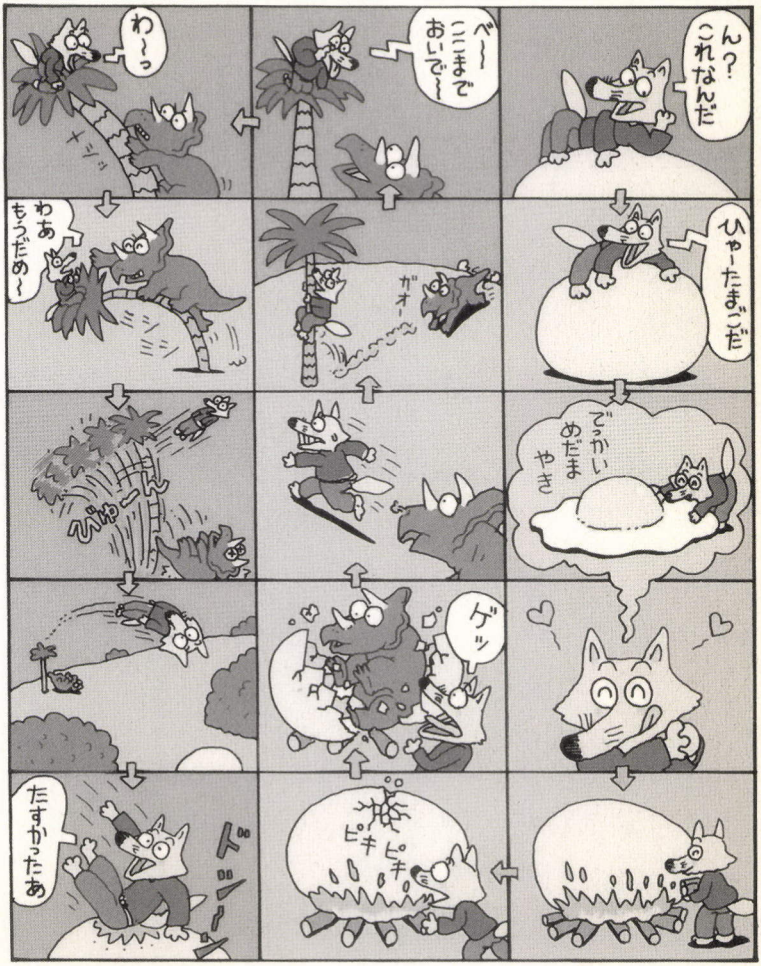
上と下の絵は、15こもちがってるよ。きみにわかるかな？





☆おまけページ・番外編

●ゾロリちゃんと大きょうりゅう●



はじめにもどる

そ、そうか？
おれさまのいだいさ、
わかってくれたかなあ。
よーし、今度も
みんなをあっと
いわせてやるぞーっ。
温泉にはいったら、
なんだかファイトが
もりもりわいてきたぞ。
うーん、ゾロリせんせは
しっぱいしても、
くよくよしないところも、
すごいところだな。
しゅ
しゅ
☆おんせんの
じょうきで
ふかす おんせん まんじゅう
☆あとで げんきを
つけるために たべる
おんせん たまご

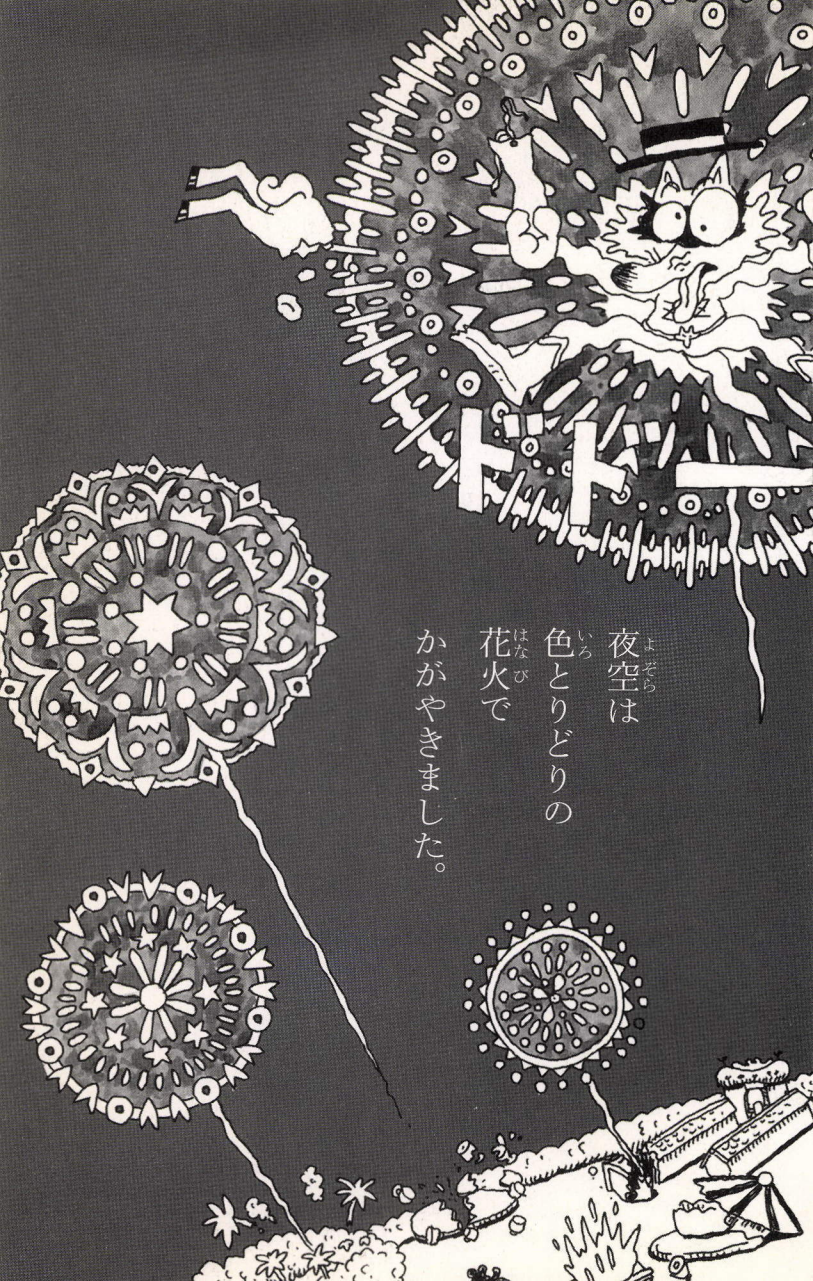
イシシとノシシは、ゾロリせんせのからだのきずをなおして、元気をだしてもらうため、温泉にやってきました。

あーあ、おまえたちがむだなページを使わなきゃ、もうちょっとちゃんとした計画がねれたのに。プリプリ。

でも、ゾロリせんせのスケールの大きさに、きっとみんなもびっくりしてると思うだよ。

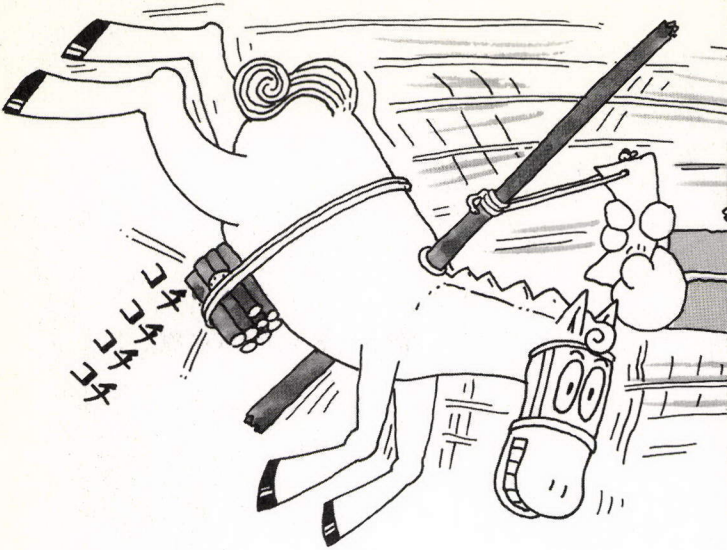
◎これは ゾロリーランドの きねん しゃしんです。
てんせんの なかに きみの しゃしんを はれば
きみも ゾロリーランドに あそびに いったと おもわれるぜ
ともだちに じまん しよう!!

つぎの朝、ばくだん花火でぼろぼろになった
ゆうえんちに、まっ黒こげの
ゾロリはすわっていました。
しっかりにぎりしめたパスポートも
灰になって、もうなにが書いて
あったのかもわかりません。
お城からは、アーサーと
エルゼの、たのしそうな
わらい声がきこえてくるのでした。

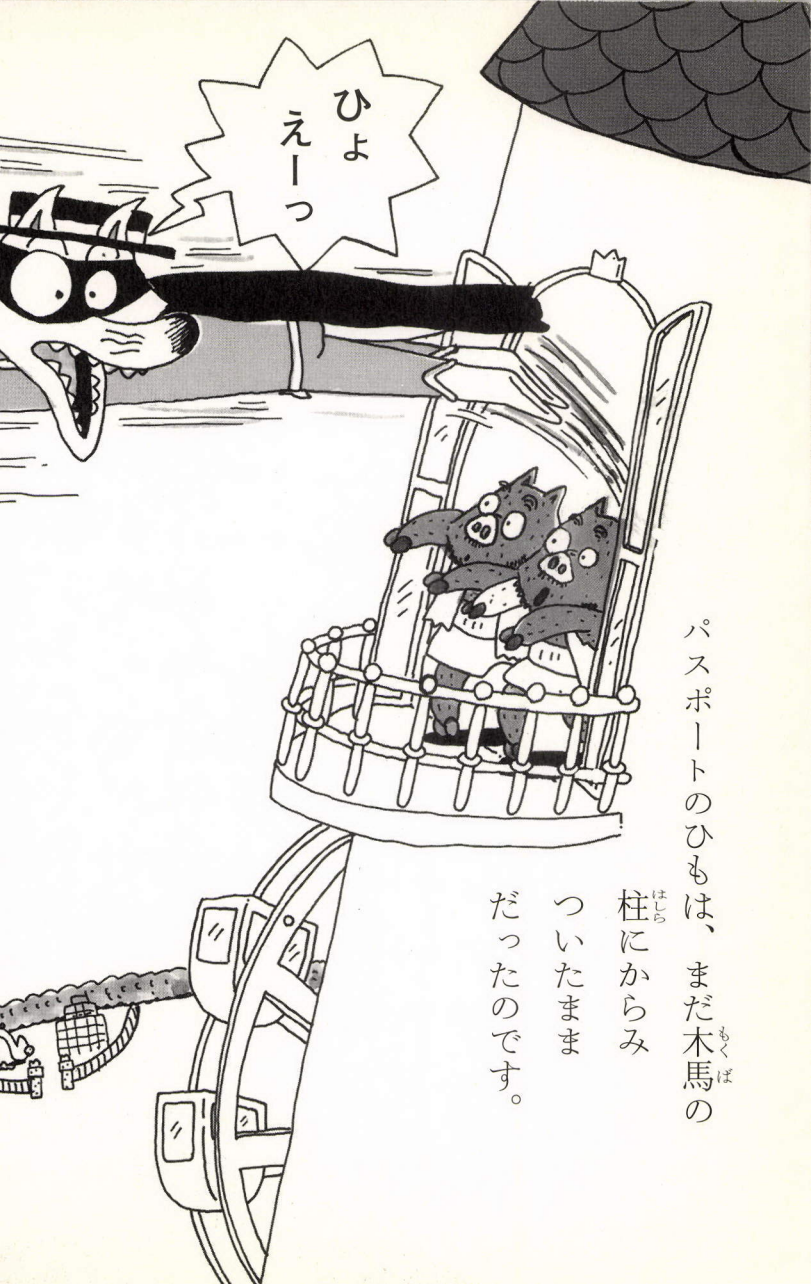


夜空は
色とりどりの
花火で
かがやきました。

——七時です。
ゾロリーランド中にとびちった木馬のばくだん花火が、いっせいに
ばくはつして、
ロマンチックね、アーサー。
ああ、すてきな夜になったね、エルゼ。
ゾロリせんせ、かわいそうー。
でも、きれいだね。

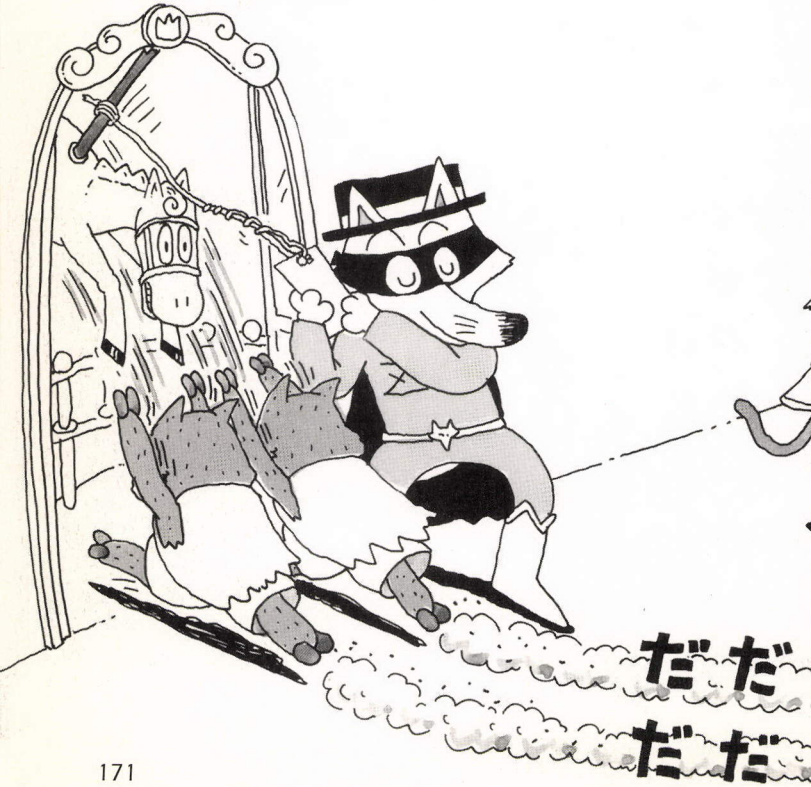


たいせつな
パスポートを
しっかりだきしめていた
ゾロリは、もちろん
木馬(もくば)といっしょに、
くらくなった空(そら)へ、ほうり
だされました。
　そのときが
ちょうど——



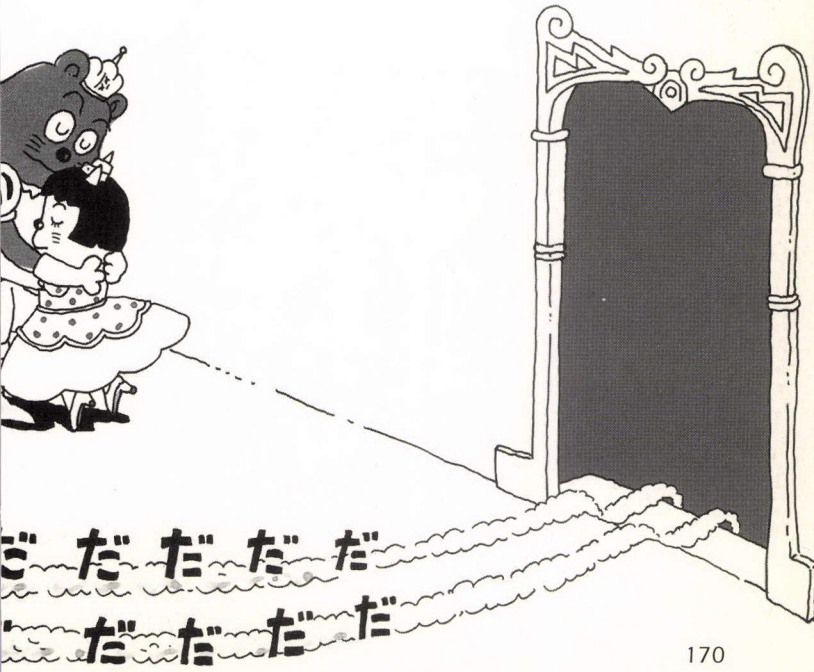
パスポートのひもは、まだ木馬の
柱にからみ
ついたまま
だったのです。

かかえると、
力のかぎり
遠くへと
なげすてました。
でもね……。

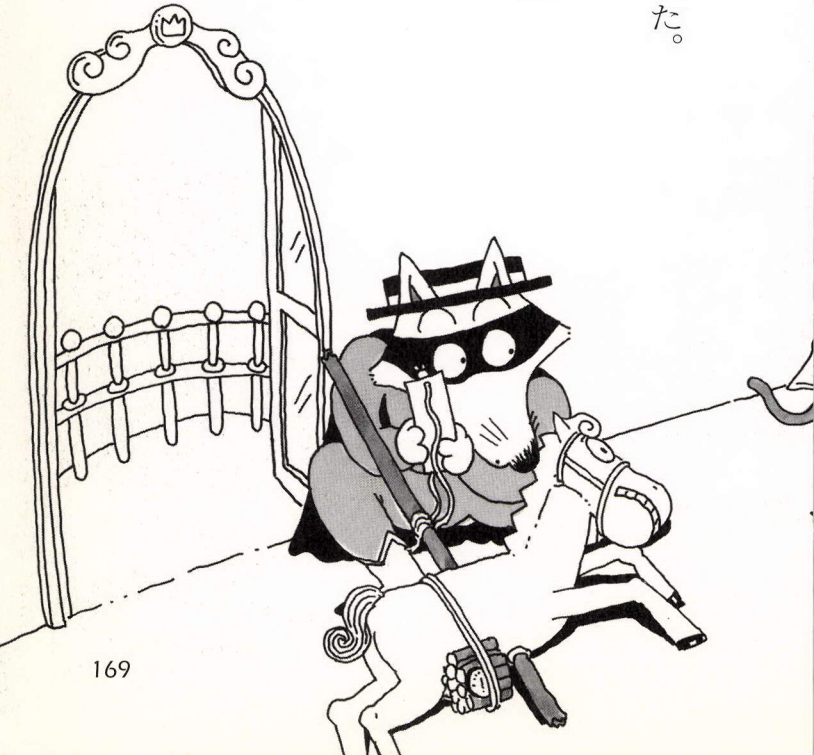


「いち　にの
さあ——ん!!」

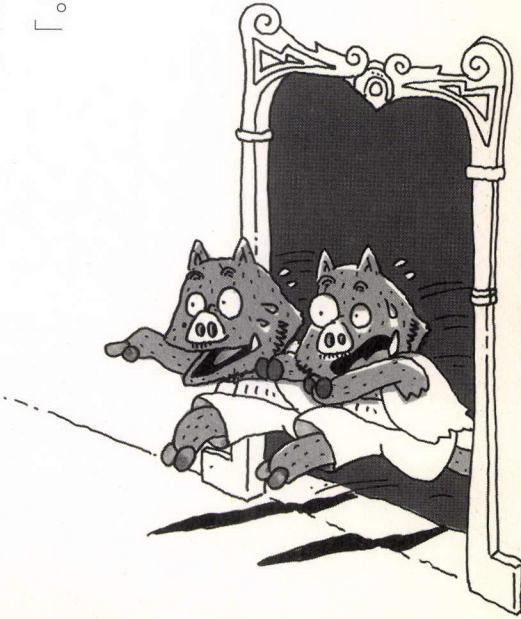
イシシと
ノシシは、
木馬(もくば)を



「あっ、そうか、わすれてた。
せっかく手にいれた城が
ばくだん花火でこなごなに
なっちゃ、たまらんぜ。
イシシ、ノシシ、
いますぐこの木馬を
まどからほうり
だすんだーっ。」
「へーい。」



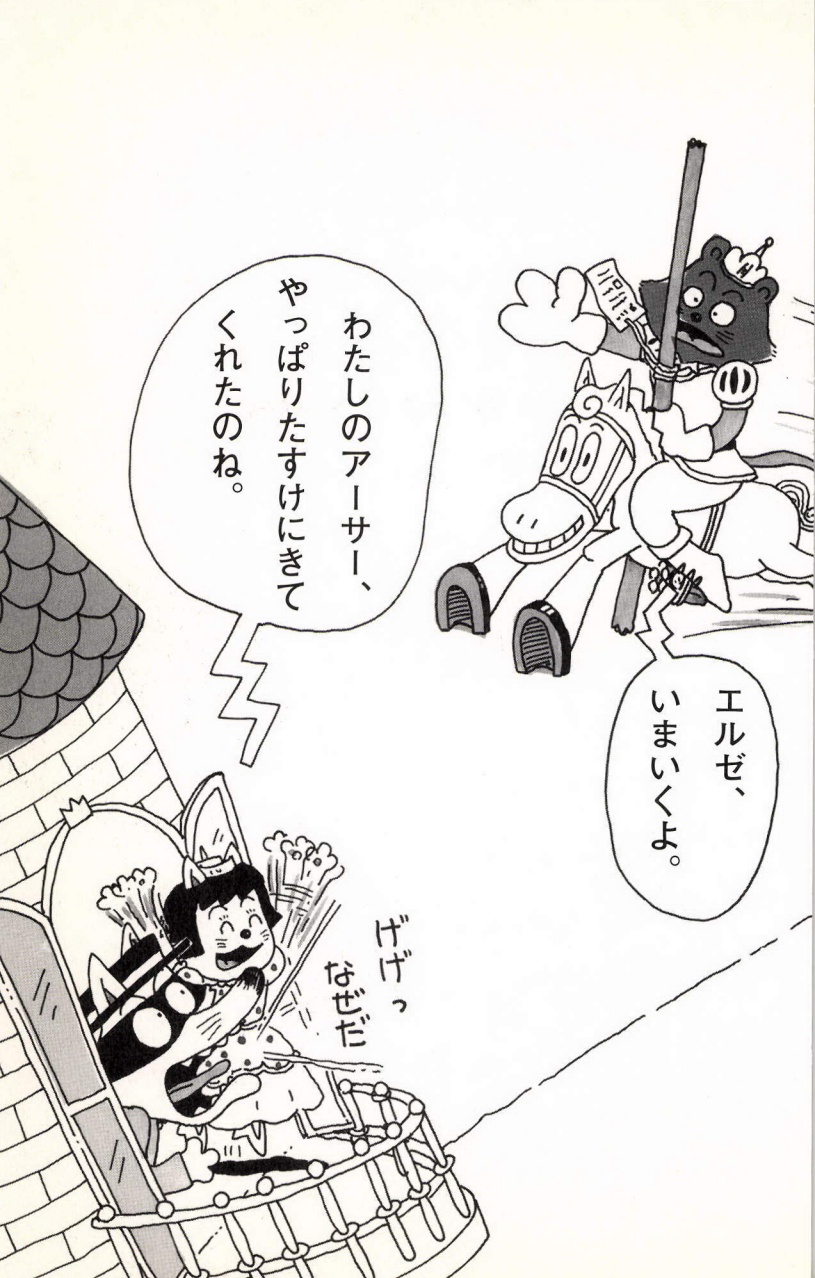
――イシシとノシシです。
「ゾロリせんせ、
だいじょうぶですか。」
「ニヒニヒ、ほら、このとおり。
パスポートを手にいれたからな。
もうこの城は、おれさまのものさ。」
「ちがうだ。そ、その木馬のばくだん
花火が、あと十秒で
ぼくはつするだよ。」



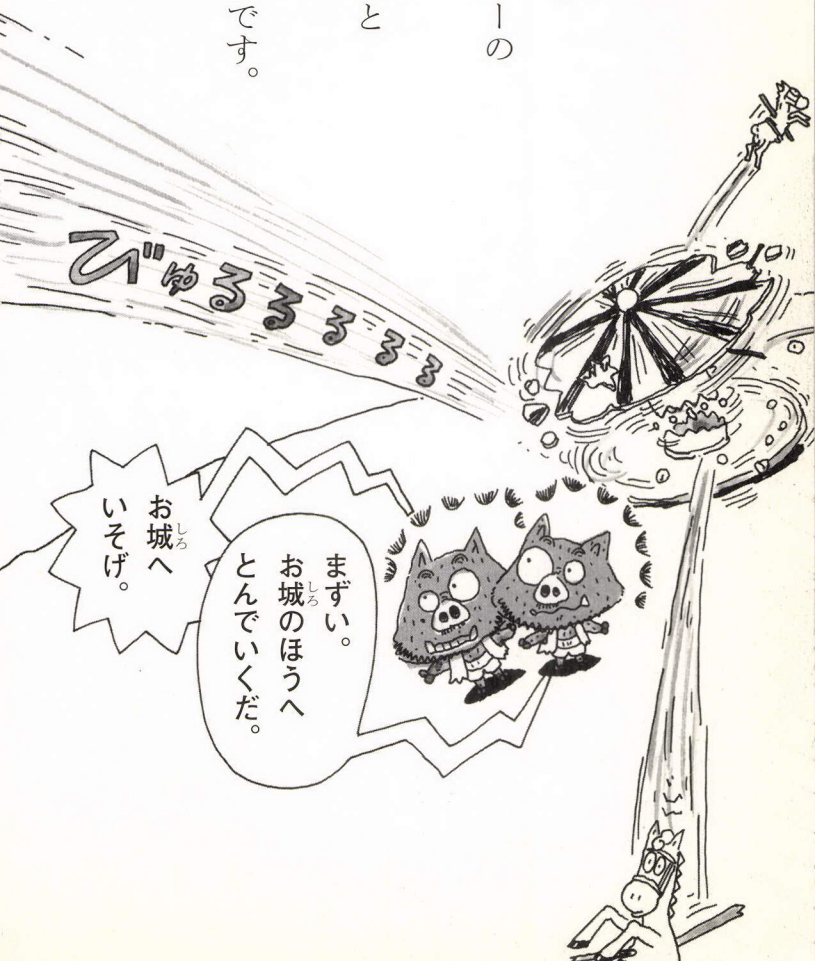
ぼくにとって、エルゼが
なによりもたいせつなんだ。
こんなお城、
くれてやるさ。

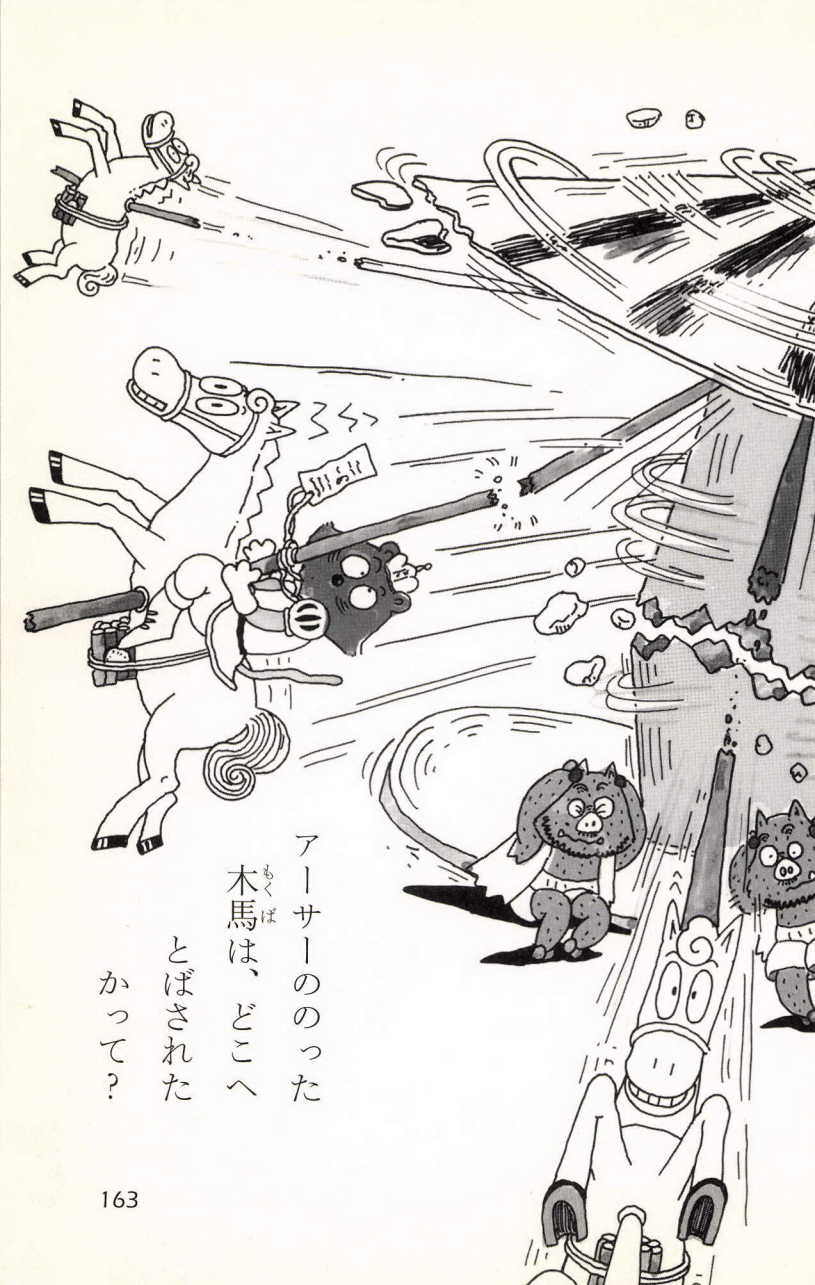
と、アーサーが
きっぱりいいきったとき、
ダダダダダダダ
かいだんをかけあがってきたのは——

ドタン！
お城のまどからとびこんできたアーサーは、
パスポートのひもをひきちぎり、
エルゼのもとへとかけよりました。

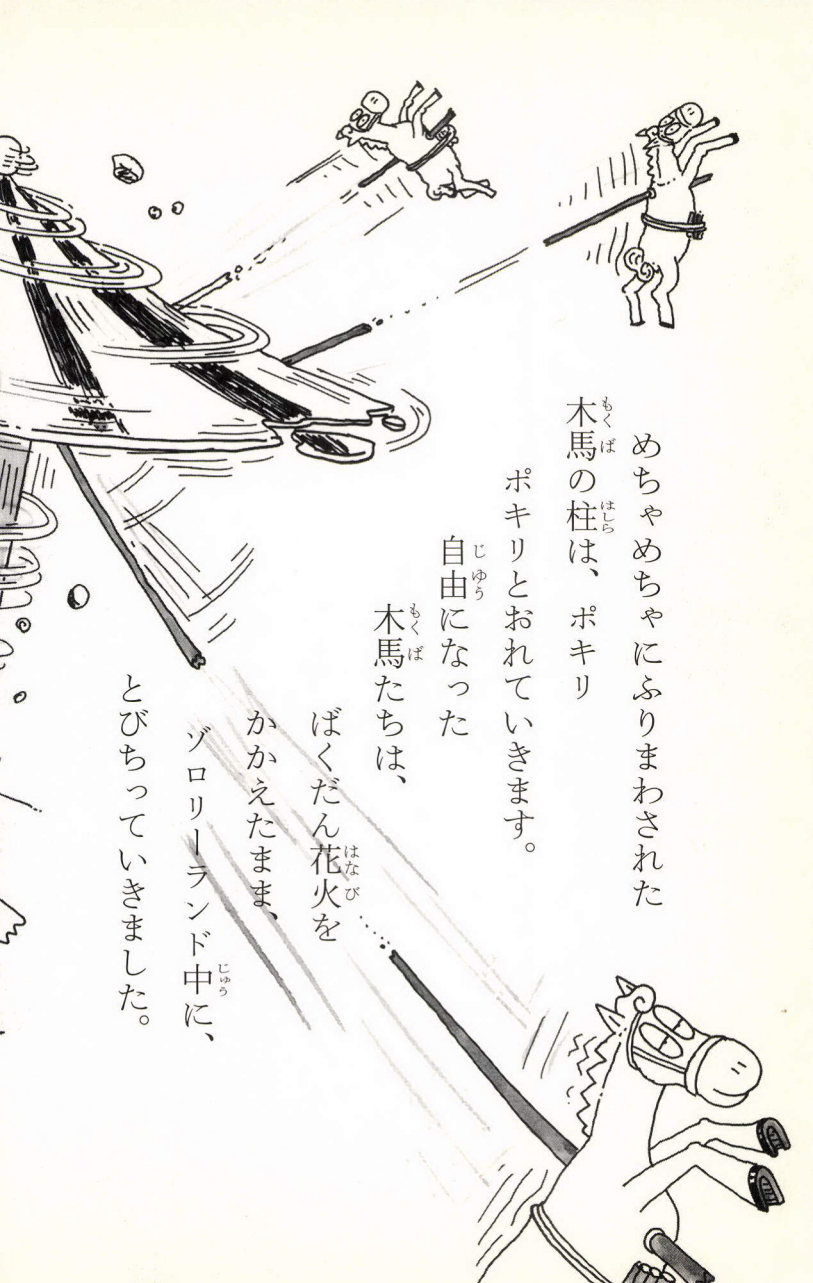

エルゼ、いまいくよ。
わたしのアーサー、やっぱりたすけにきてくれたのね。
げげっ なぜだ

エルゼを
たすけたいと
思う、アーサーの
愛の力が、
木馬をお城へと
まっすぐ
むかわせたのです。



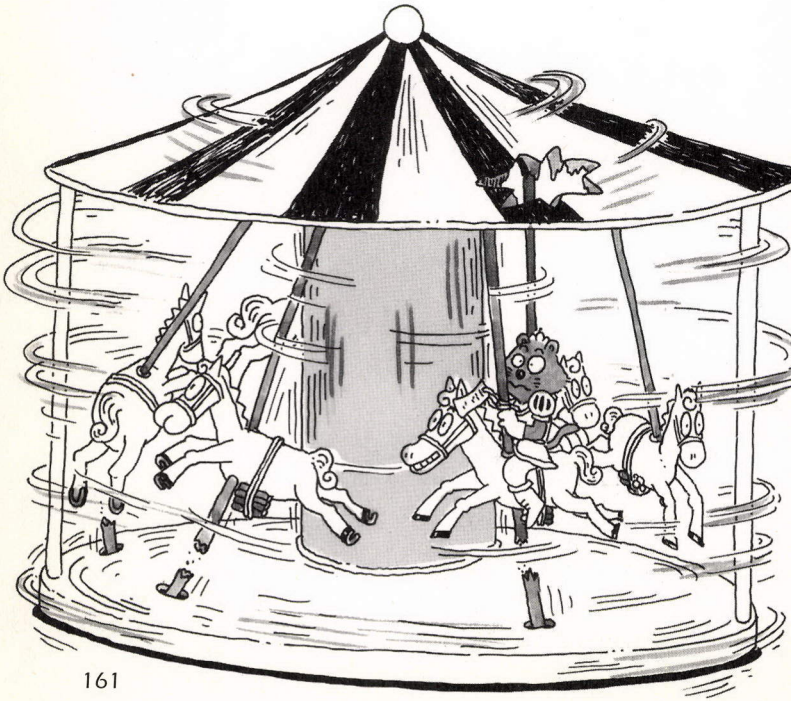


アーサーののった
木馬は、どこへ
とばされた
かって？



めちゃめちゃにふりまわされた
木馬の柱は、ポキリ
ポキリとおれていきます。
自由になった
木馬たちは、
ばくだん花火を
かかえたまま、
ゾロリーランド中に、
とびちっていきました。

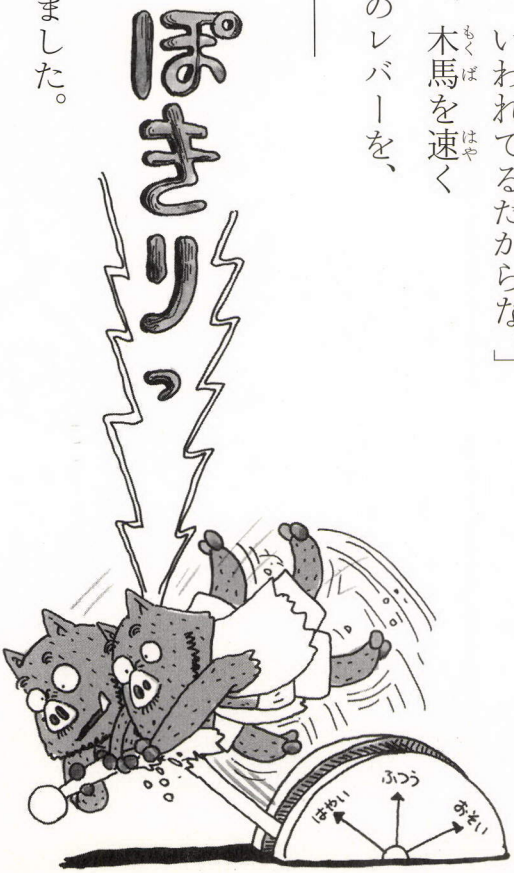
すると、
メリーゴロンラウンドは、
ぐるん　ぐるん
ぐりん　ぐりん、
くるったように
まわりはじめ、だれも
とめることができなく
なったのです。



「おらたち、ゾロリせんせにアーサーの目をまわさせてから、パスポートをとってくるようにって、いわれてるだからな。」

ふたりは、木馬を速くまわすためのレバーを、力いっぱい――

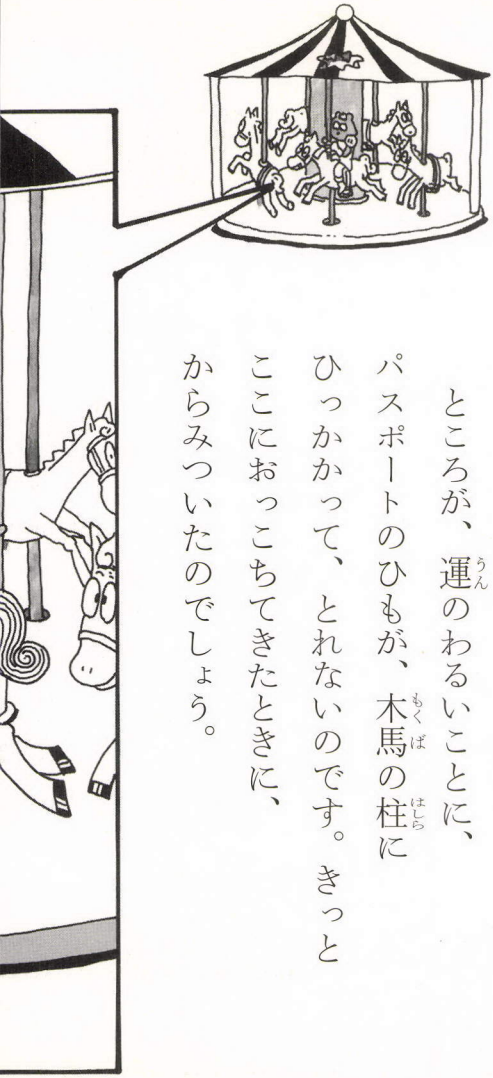
たおしすぎました。



うーん、いま、このひもをほどいたら、すぐたすけにいくからね。まってるんだよ、エルゼ。
そうはいくもんか。なあ、ノシシ。
おう！そうともよ、イシシ。

メリーゴロンラウンド

ゾロリーランドのメリーゴーラウンドだ。
のんびりまわるお馬さんと思ったら、
大まちがいだ。けいば馬より速くまわるかもよ。

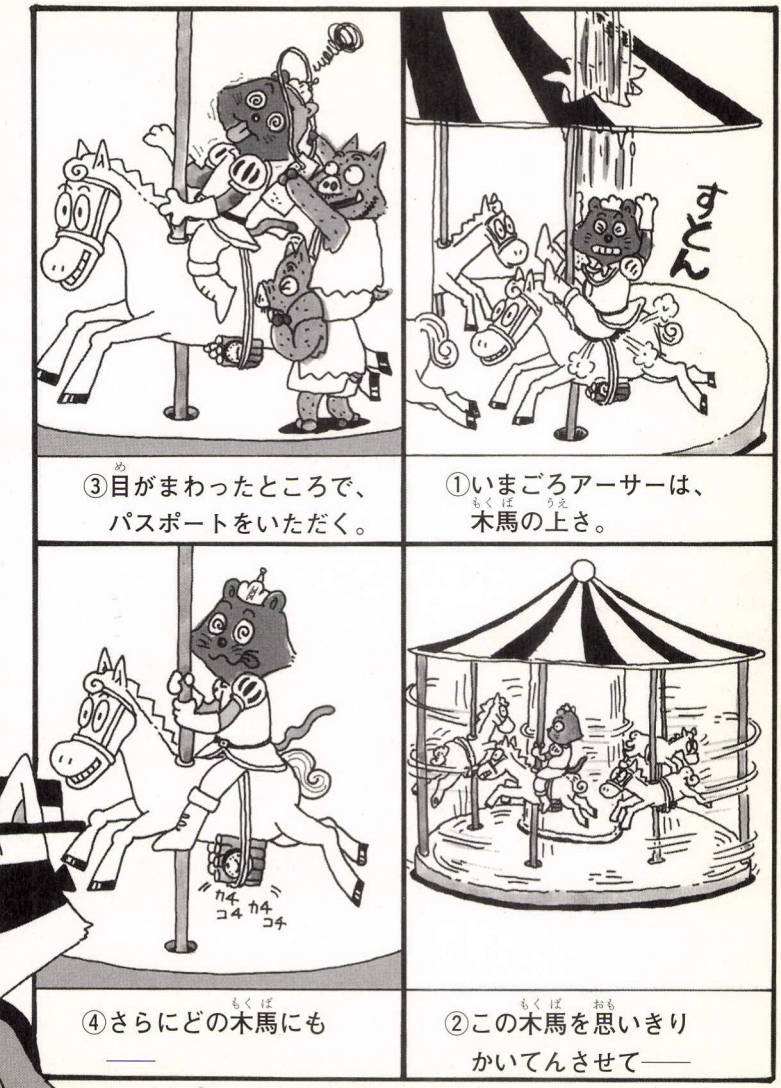


「えっ、ばくはつだって？」

アーサーは、木馬からとびおりようとしました。

ところが、運のわるいことに、パスポートのひもが、木馬の柱にひっかかって、とれないのです。きっとここにおっこちてきたときに、からみついたのでしょう。

"コチコチ"
コチコチ
⑤強力なばくだん花火が、しかけてあってね。
⑥7時きっかりに大ばくはつするのだ。
えっ
アーサー、たいへんよ。その木馬から、早くおりるのよ。ばくはつしちゃうわ——。



①いまごろアーサーは、
木馬の上さ。

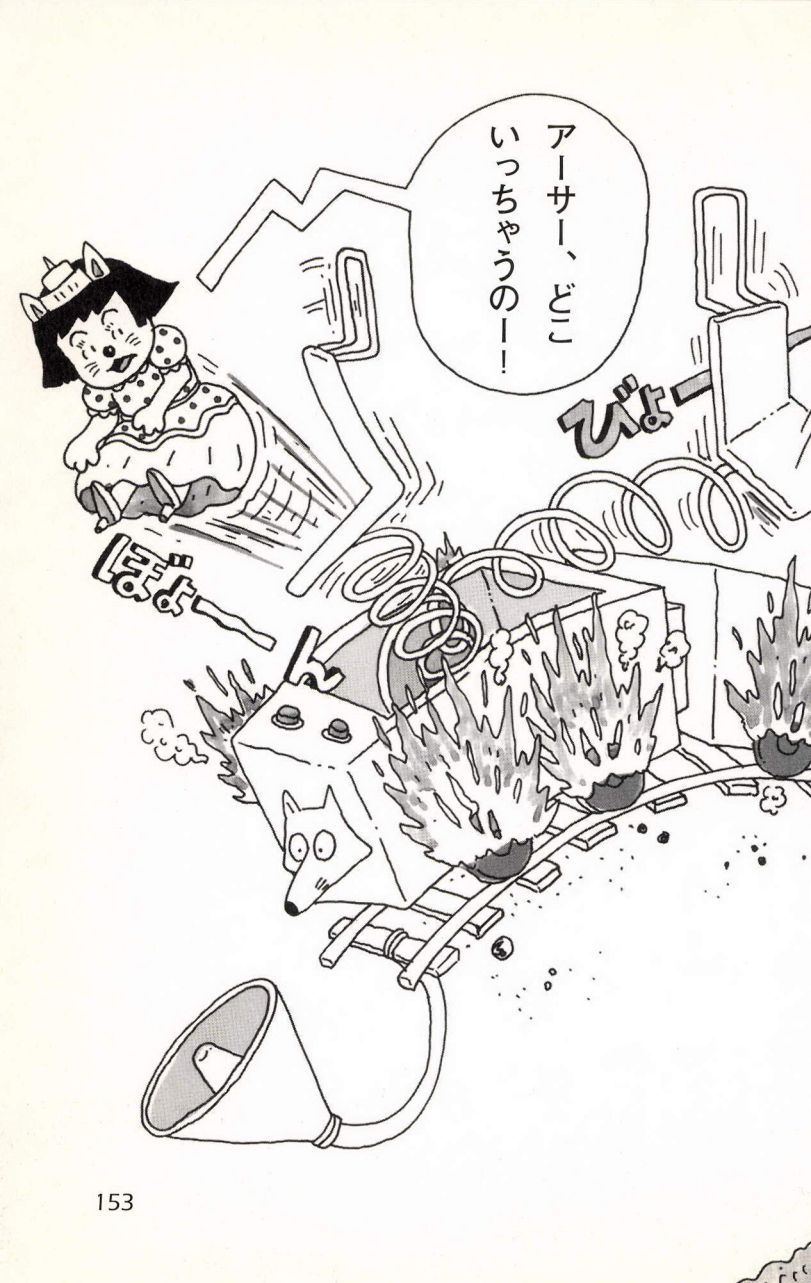
②この木馬を思いきり
かいてんさせて——

③目がまわったところで、
パスポートをいただく。

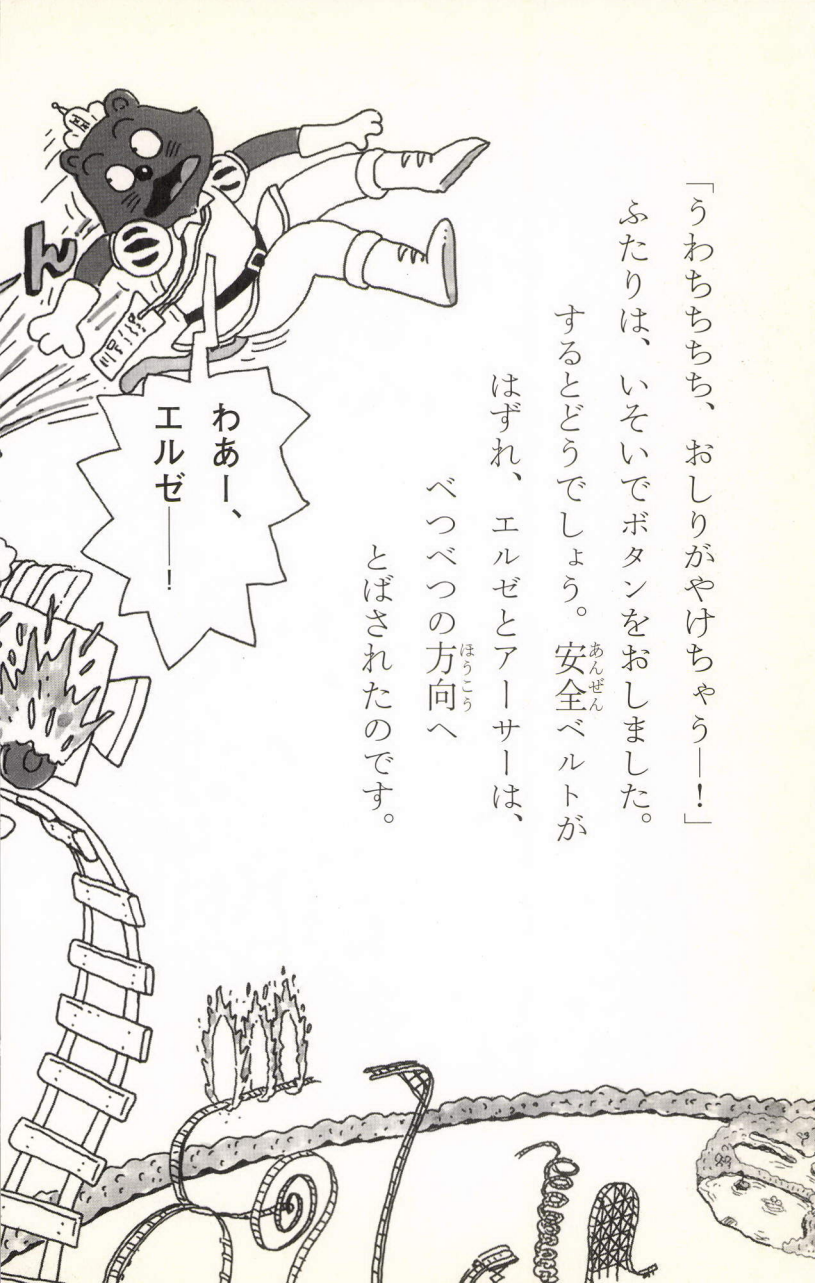
④さらにどの木馬にも
——

ゾロリのまちかまえる
お城へと、とばされて
いったのです。

アーサーは、イシシ、ノシシの
まちかまえる
メリーゴロンラウンドへと
とばされ、エルゼは


アーサー、どこいっちゃうのー！
びよー
びよー

「うわちちちち、おしりがやけちゃう――！」
ふたりは、いそいでボタンをおしました。
するとどうでしょう。安全ベルトが
はずれ、エルゼとアーサーは、
べつべつの方向へ
とばされたのです。



そこへ、
スピーカーから、
ゾロリの声が
きこえてきました。

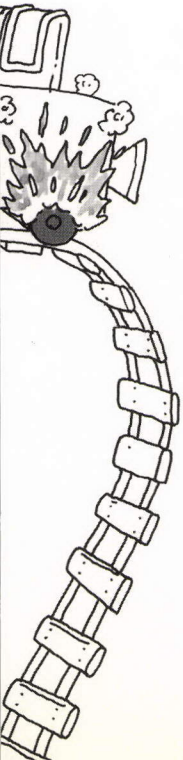
キキキキキーッ

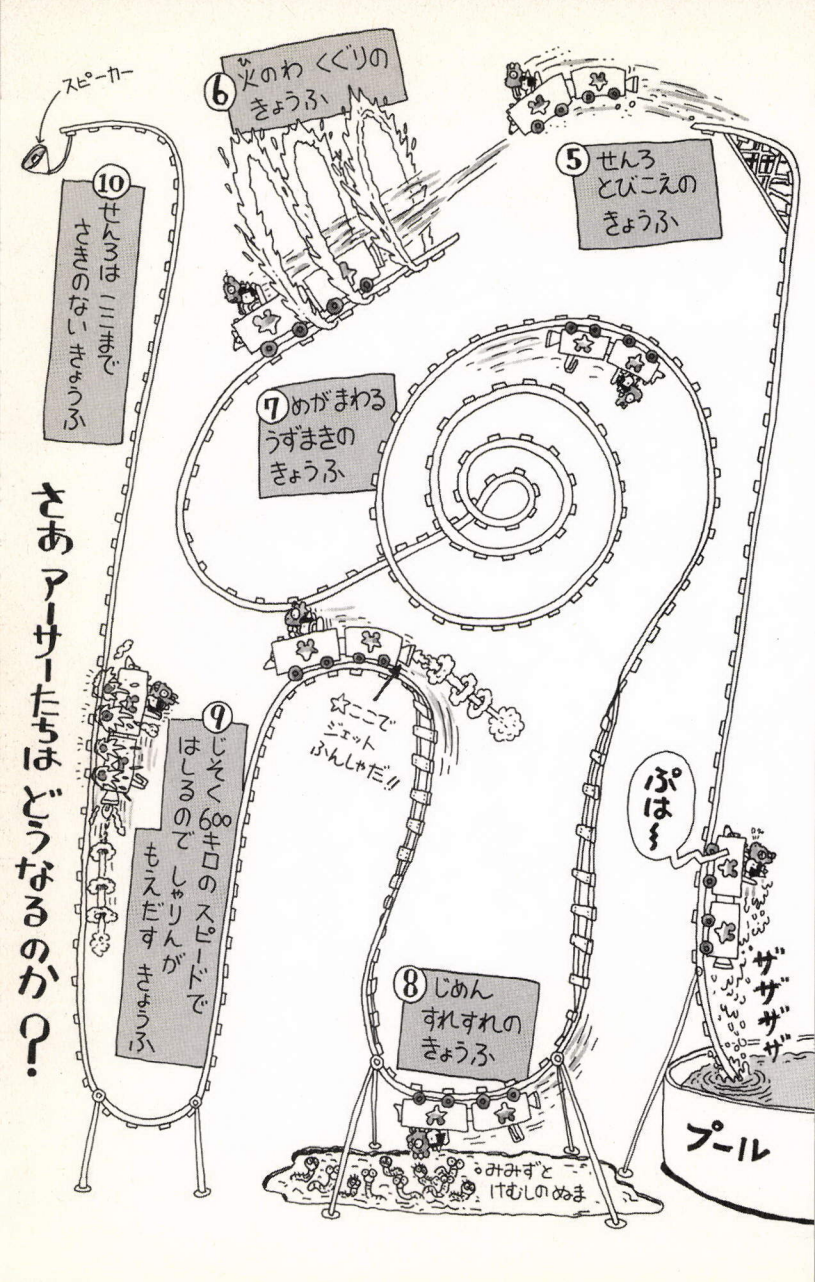
線路のなくなるぎりぎりのところで、急停車しました。

「ふーっ、たすかった。」

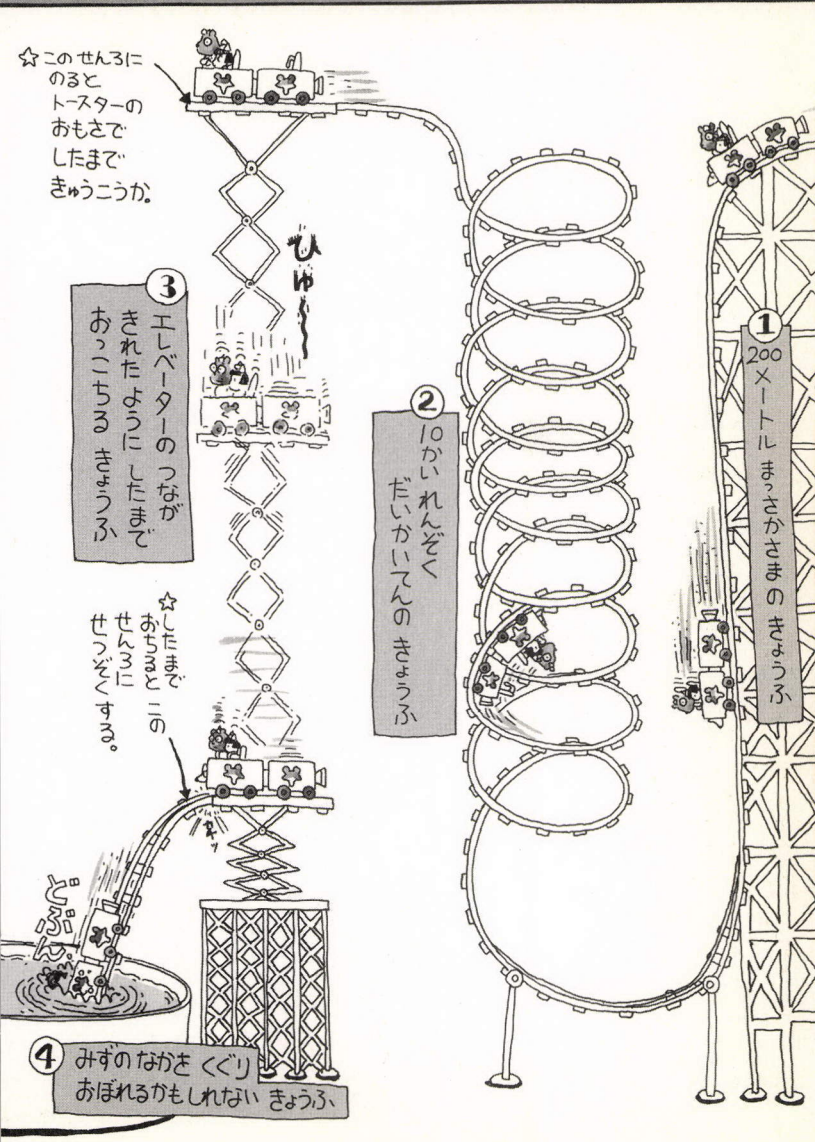
「ね、ねえ、アーサー。車輪がもえて、おしりがあつくなってきたわよ。」

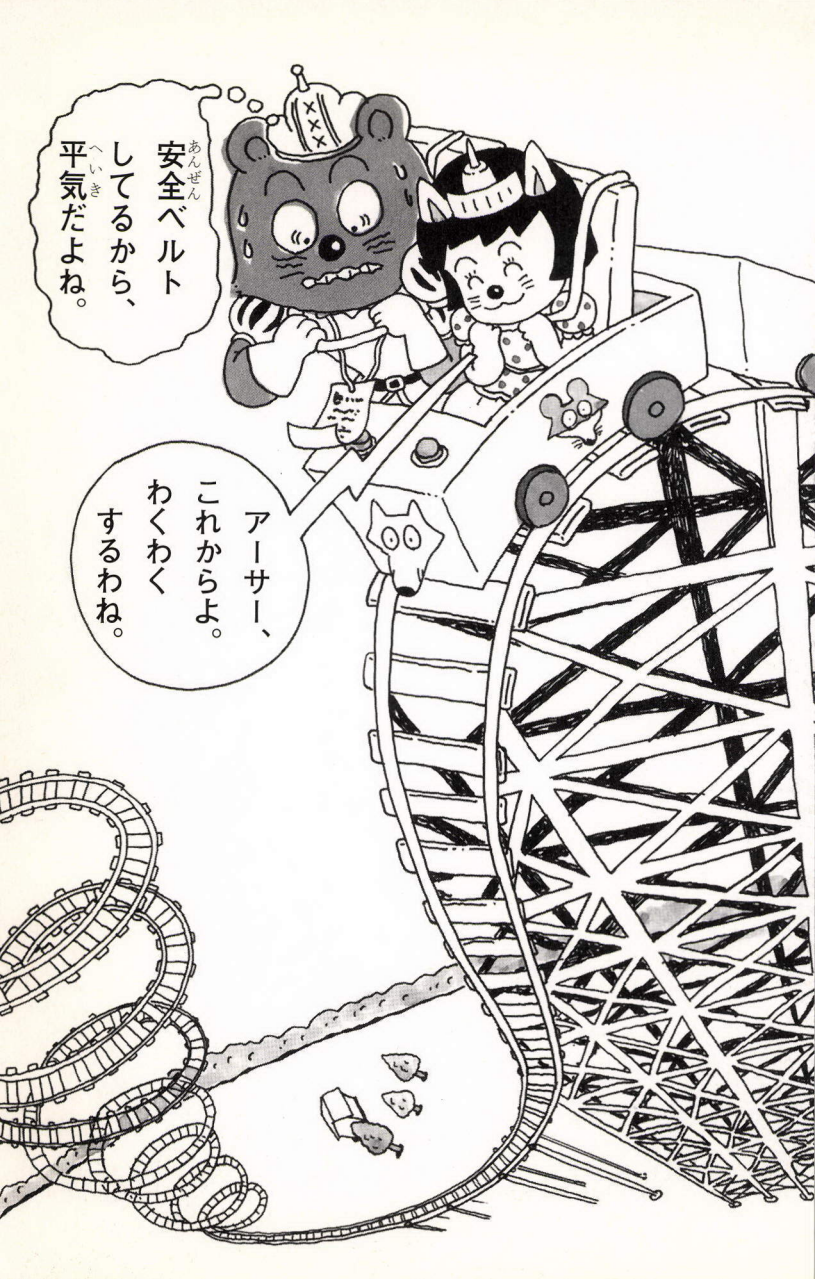
「あちちち、ほんとだ。で、でも、安全ベルトがはずれなくて、にげだすこともできないぞ。」



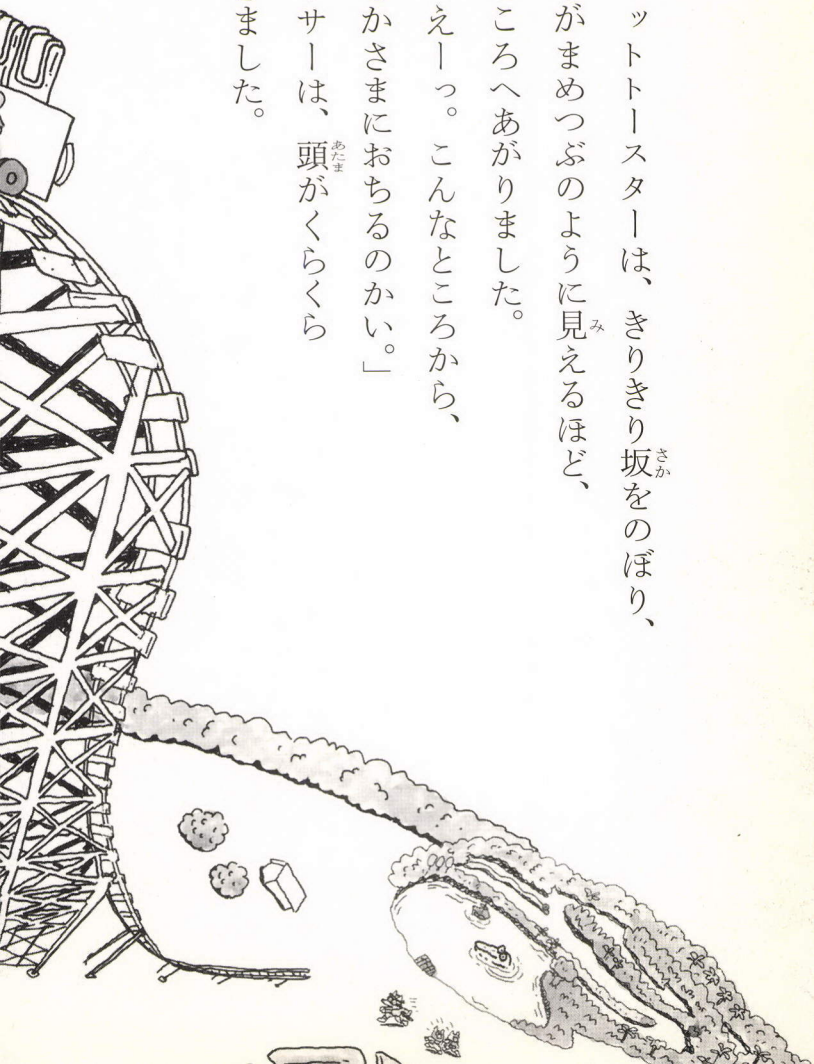

スピーカー
⑥火のわ くぐりの きょうふ
⑤せんろ とびこえの きょうふ
⑩せんろは ここまで さきのない きょうふ
⑦めがまわる うずまきの きょうふ
☆ここで ジェット ふんしゃだ!!
⑨じそく600キロの スピードで はしるので しゃりんが もえだす きょうふ
⑧じめん すれすれの きょうふ
ぷは〜
ザザザザ
プール
みみずと けむしのぬま
さあ アーサーたちは どうなるのか?

ゾロリーランドのジェットトースター 10のきょうふ!!

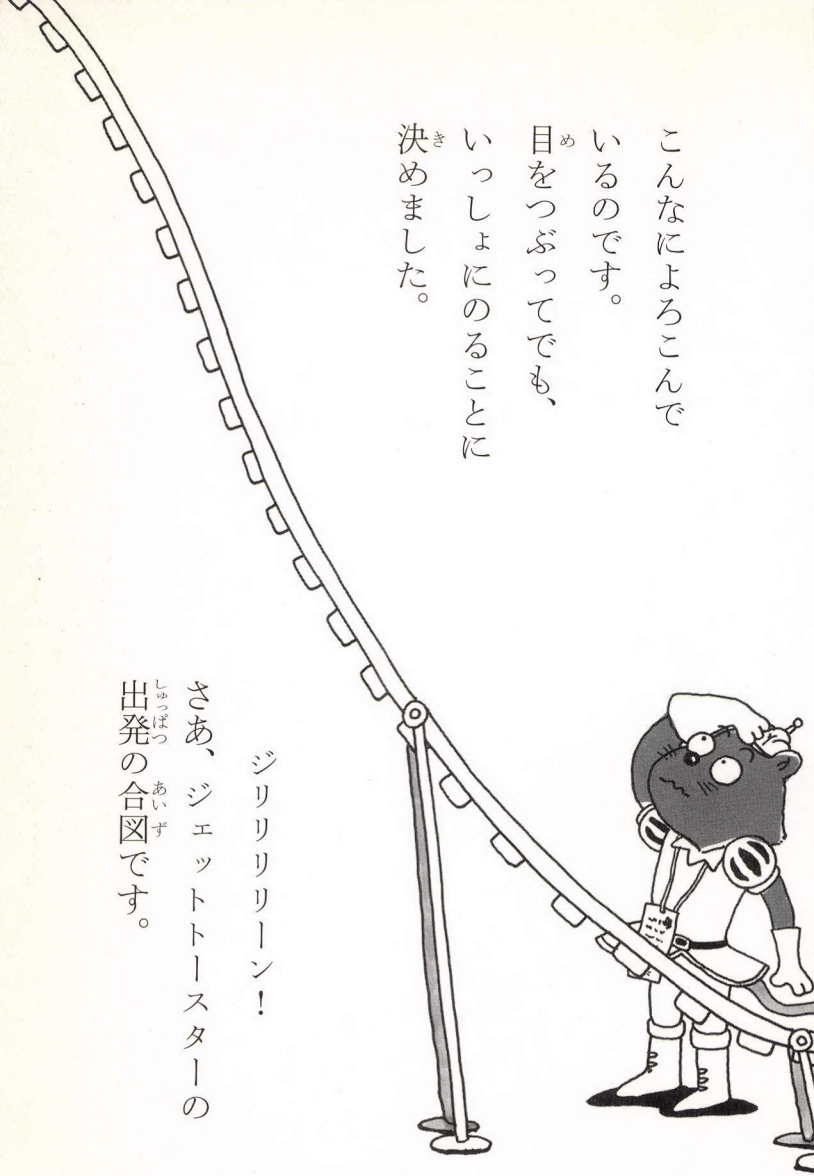



安全ベルトしてるから、平気だよね。
アーサー、これからよ。わくわくするわね。

ジェットトースターは、きりきり坂をのぼり、
家や木がまめつぶのように見えるほど、
高いところへあがりました。
「ひょえーっ。こんなところから、
まっさかさまにおちるのかい。」
アーサーは、頭がくらくら
してきました。



こんなによろこんで
いるのです。
目をつぶってでも、
いっしょにのることに
決めました。



ジリリリリーン！

さあ、ジェットトースターの
出発の合図です。

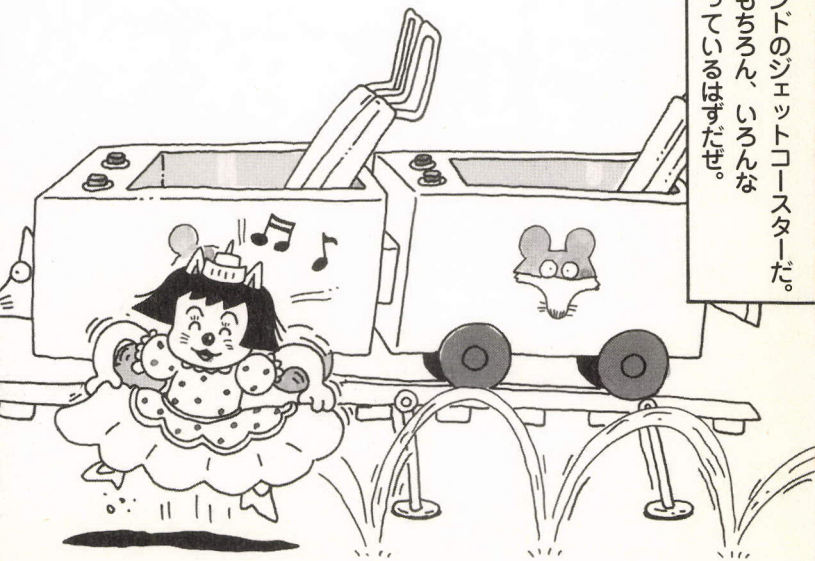
ジェットトースター

ゾロリーランドのジェットコースターだ。スピードはもちろん、いろんなしかけがまっているはずだぜ。

「これよ、これ。ゆうえんちにきて、これにのらなきゃうそよね。」

エルゼは、ピョンピョンはねまわります。

アーサーは、高いところが、大の苦手です。でも、エルゼが



ふーっ、たすかった。
あー、スリルがあって、とてもたのしかったわ。そうそう、スリルといえば、あれにのらなきゃね、アーサー。

ひらり
ひえ〜
ばちん
ざざざざ
ちぇっ、にげられちまったぜ。
——いのちからがら、岸にたどりつきました。

あちゃー！

ばきっ

わあー、こわーい。

こっちじゃない。あっち、あっち。

きゃ〜

ばしゃばしゃ

アーサーは、足で水をけり、ものすごいスピードでにげだし——

くくっ、もうちょっとだ。

ひょい

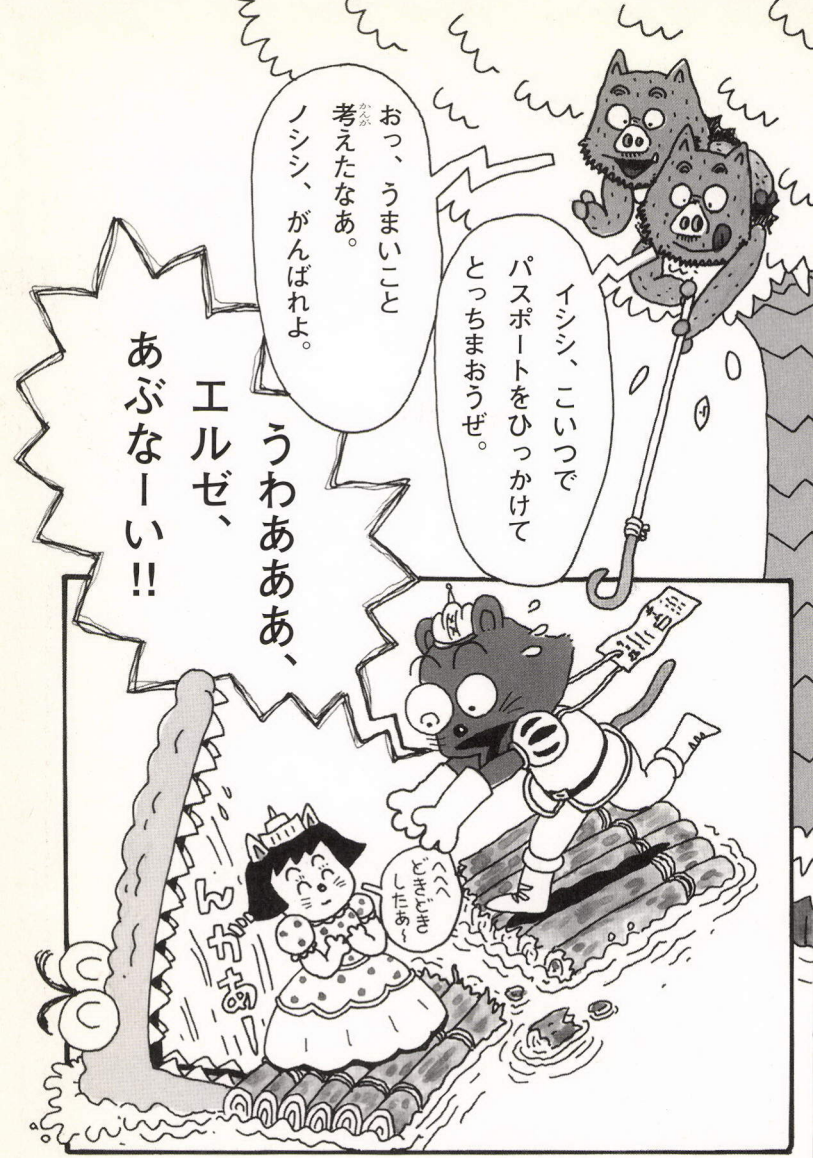
ぱりん

エルゼ、きみをまもってあげるから。しっかりつかまってるんだよ。

おっ、イシシ、ひっかかったど。

あらっ、アーサー、ワニがうしろにまわったわ。

すい


イシシ、こいつでパスポートをひっかけてとっちまおうぜ。
おっ、うまいこと考えたなあ。ノシシ、がんばれよ。
うわあああ、エルゼ、あぶなーい!!
へへ どきどきしたあ〜
んがあ!

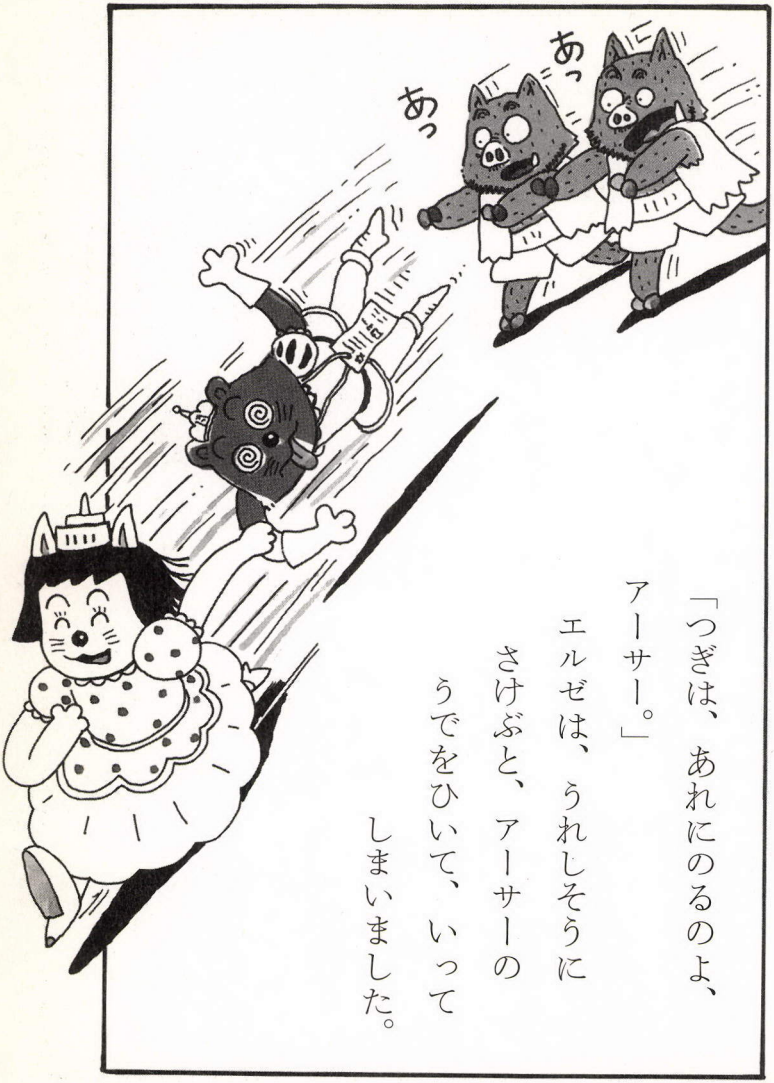
——ワニの
ひとかみで、いかだは
まっぷたつです。
バリーン
ニヒニヒニヒ。
ほんもののワニは、
迫力があるだろ。
もう三日間、なにも
食べさせてないからな。
きみたち、お昼ごはんに
なってあげてくれよ。
ひぇ〜

「エルゼ、
あんなするどい
歯でかまれたら、
ひとたまりもないよ。」
「アーサーったら、こわがりね。あれは
つくりものよ。だいじょうぶ、だいじょうぶ。」
「そ、そうだよね。ぼくも、そう思う……。」
アーサーが、いいおわらないうちに——

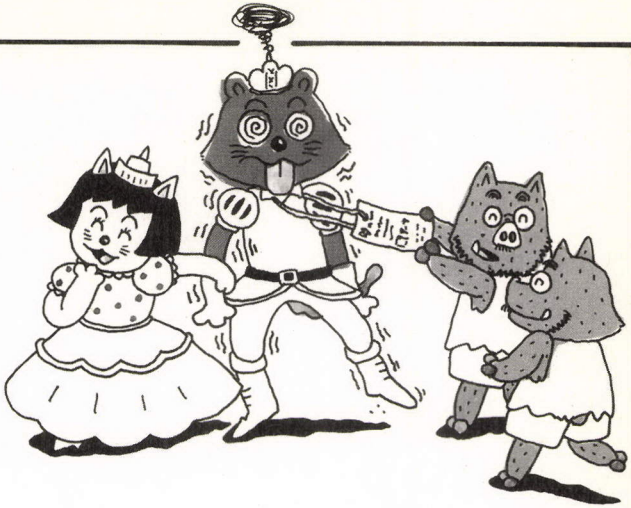
アーサーとエルゼは、
やっとのことで、ワニの池に
たどりつきました。しかし
そこには、一ぴきのワニが
大きな口をあけて、
まちかまえて
いたのです。

ワニの池
さきまわり
さきまわり。

ジャングルクロース
アーサーたちをつれて、ワニの池まで、ジャングルのぼうけんをおたのしみください。ただし、けがをしてもわがゆうえんちは、いっさいせきにんをもちません。
ほら、これ、たのしそうでしょ。しゅっぱーつ。
ふーっ、やっと目がまわらなくなった。
・このさおでこいでね
スタート



「つぎは、あれにのるのよ、アーサー。」
エルゼは、うれしそうにさけぶと、アーサーのうでをひいて、いってしまいました。



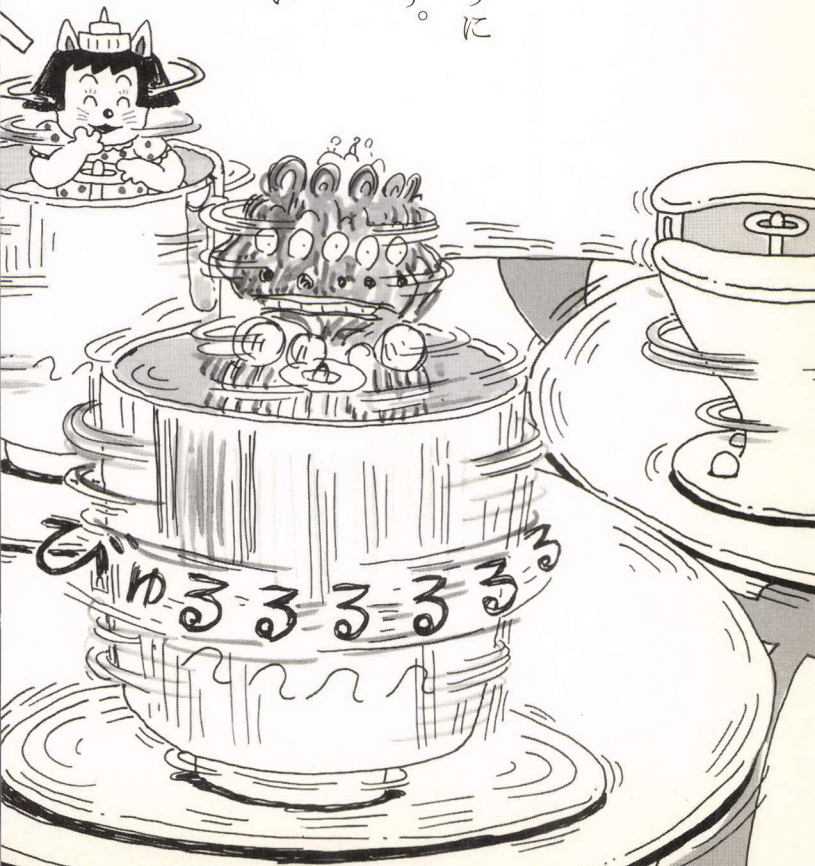
「あー、たのしかったわね。
アーサー。」
もちろん、アーサーは
目がまわって、ふらふらです。
「さあ、いまだ!!」
イシシとノシシが、
アーサーの首からさがって
いる、パスポートのひもを、
はずそうと近づいたときです。

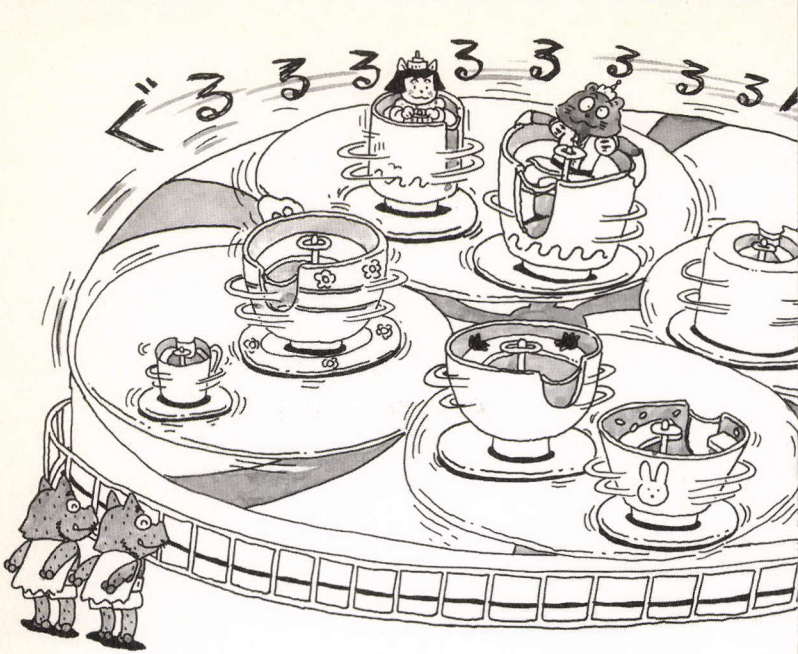
まあ、アーサーったら、はりきってるわね。

「ニヒニヒ。アーサーが、目をまわしておりてきたところで、パスポートを取りあげるんだ。わかったな、イシシ、ノシシ。」

「へーい、おやすいご用だ。」

びゅるるん
びゅるるんと、
くるったこまのように
まわりだしたのです。
アーサーの
すがたも、見(み)えない
ほどです。





いよいよ、スタートの
ベルがなりました。
ゾロリが、ボタンを
おすと、くるり
くるりんと、カップは
ダンスをおどるように
まわりはじめました。
しばらくすると、
アーサーの
お茶わんだけが……

ゾロリたちがおいついてきて、いいました。

「ニヒニヒ。くるくるまわる、おれさまのほろにがい『コーヒーカップル』、ゆっくりおたのしみください。」

ジリジリジリ――

めおと茶わんとはなんだ!!

⊙だんなさまようの大きいちゃわんと
おくさまようの ちいさいちゃわんの
2つで ひとくみに なっている
ふうふで つかう ちゃわんのことだ。

きみの うちにも あるか
しらべて みよう!!

ねえ、アーサー。
わたしたち、この
めおと茶わんが
いいわね。
わたしがこの
小さいので、
あなたがあの
大きいのね。

ようしきトイレ
こんなの
のりたくないぞ

だんなさまよう

おくさまよう

めおとぢゃわん

ミルク・ピッチャー
ねずみよう

ふたりが、お茶わんに
のりこんだときです。

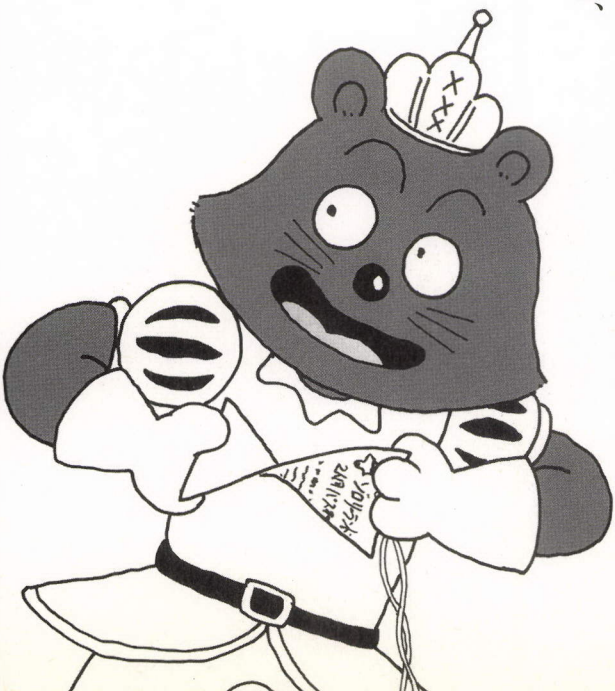
コーヒー カップル

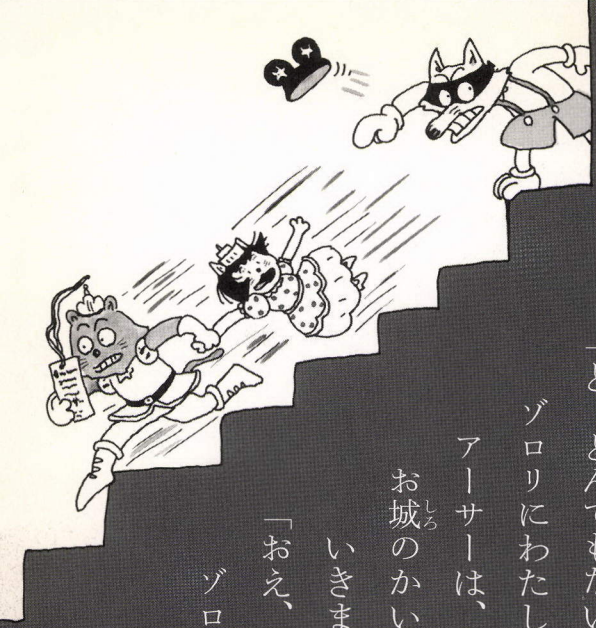
ゾロリーランドのコーヒーカップだ。
くるくるまわって、たのしいのりものだけど、
ただそれだけかな？

エルゼをおいかけて
やってきたのは、『コーヒーカップル』
というのりものです。

いないのよ。
ぜーんぶのってから
やぶったって、おそく
ないと思うわ。」
「で、でも。」
「あ、ほら、あれよ。
いちばんはじめは、
あれにのりたいわ。」
エルゼはかけだしました。

城のそとへでると、アーサーはいいました。
「さあ、いそいでパスポートを、
びりびりにやぶいて
しまわなきゃ。」
「まあ、アーサー。
なんてもったいない
ことをいうの。まだ、
わたしたち、のりものに
なにひとつのって





「さあ、イシシ、ノシシ。パスポートを取りあげろ。」
「と、とんでもない。このたいせつなお城を、
ゾロリにわたしてなるもんか。」
アーサーは、エルゼのうでをつかむと、
お城のかいだんをかけおりて
いきました。
「おえ、おうんだー!!」
ゾロリの声が、城中に
こだましました。

ゾロリーランド
2人用パスポート

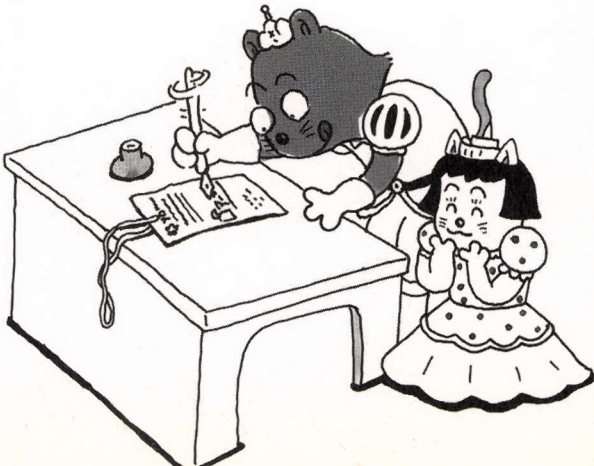
☆このパスポートは カップルで
ゾロリーランドの のりものが
きょう 1日中
のりほうだいです
おたのしみ ください

ゲストのサイン アーサー

●ただし ここに サインを したら
アーサーの おしろを ゾロリーランドに
よろこんで きふ します。
主さまは やくそくを やぶっちゃ だめよ。

ちゅうい ゾロリは「の」の じを よく かきまちがえるんだ。
いくつまちがっているか かぞえてごらん。

ひっかかったな、アーサーくん。
サインをするときは、よーく
読んでから、するものだよ。」
ゾロリーマウスがねずみの
ぼうしをぬぎすてました。
「あっ、お、おまえは、ゾロリ。」
アーサーは、あわてて、パスポートを
読みかえしてみました。すると、下のほうに、
小さな文字で、おどろくべきことが、書いてあったのです。

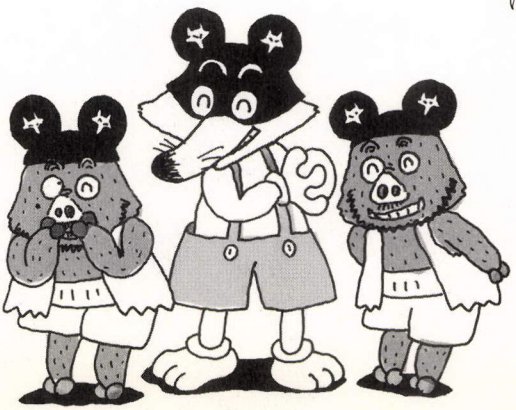


「あっ、そうそう。アーサー王、パスポートには、あなたのものだというしょうこに、サインをしていただかないと、こまるのですが。」

「アーサー、早くサインをして、のりものにのりましょ。」

エルゼにせかされたアーサーは、パスポートにサインをしました。

「フッフッフッ。まんまと



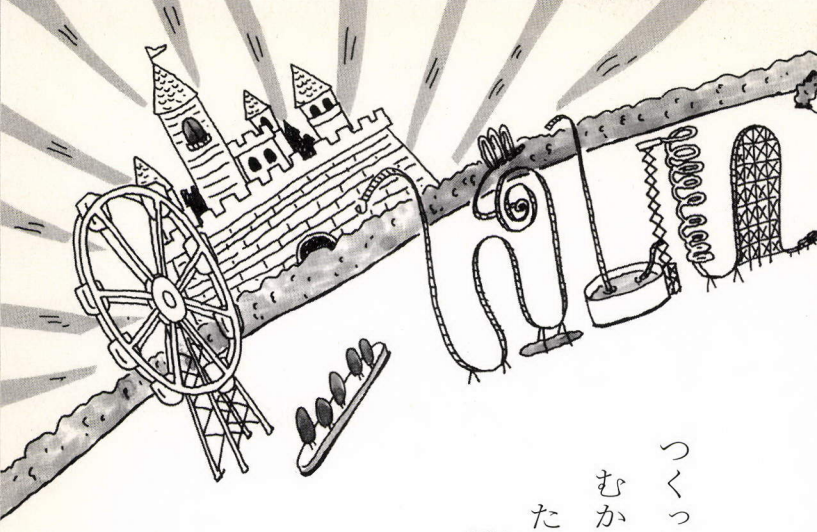
「まあ、すてき!!」
エルゼは、大よろこびです。
「さあ、どうぞ。これが
ゾロリーランドにあるのりもの
すべてが、一日中のりほうだいに
なる、パスポートです。」
ゾロリーマウスは、アーサーに
手わたしました。
「どうもありがとう。」

ジャジャジャーン！
ゾロリーランドの
とってもかわいいマスコット、
ゾロリーマウスでーす。
おとなりに、とつぜん
ゆうえんちをぶったててしまって、
もうしわけございません。
おわびのしるしに、おふたりを
さいしょのお客さまとして、
ごしょうたいしたいと
思いましてね。

「ねえ、早(はや)く
ゆうえんちにつれて
いって、つれていって。」
エルゼがだだを
こねていると、まどの
そとのかんらん車(しゃ)から、
まってましたとばかりに
とびこんできたのは——

そのころ、アーサーのお城では――

「アーサー、きてきて。
なんという幸せかしら。
おとなりに、ゆうえんちが
できたのよ。」
まどからそとを見ていた
エルゼ姫が、こうふんしながらいいました。
「なんだって、このあいだから、工事の音が
うるさいと思っていたら、そんなものを
つくっていたのか。」



つくったのだからな。ニヒニヒ。」
むかし、ゾロリは、アーサーと
たたかって負けた、いやな
思い出が、いくつもあるのです。
「今度こそ、あのお城を
おれさまのものに、してみせるぜ。」
ゾロリは、自信にみちた
ほほえみを、口もとに
うかべたのでした。

かんらん車のむこうに、りっぱなお城が
たっているではありませんか。
「あっ、おら、あのお城、
見たことあるだよ。」
「あれは、にっくき黒ひょうの
アーサー王がエルゼ姫と
いっしょに住んでる、お城だ!!」
「そのとおり。あのお城を手にいれるため、
わざわざとなりにこのゾロリーランドを

「おまえたち、なにをぼんやり
見ているのだ。お城はつくらなくても、
ちゃんと、あそこにあるじゃないか!!」
ゾロリがゆびさすほうを見てみると……

「ゾロリせんせ、こんな
りっぱなゆうえんちには、
やっぱしシンデレラ姫が
住むようなお城が、
ほしいですよね。」

天才ゾロリが10日間でつくりあげた

ゾロリーランド

かんらんしゃ

プール

ジェットトースター

ちゅうい

⊙トイレは そとにしかありません いったん そとにでて ようを たしてください。はいる ときは また ゾロリーランドの けんを かって はいってね。

きょうの イベントじょうほう

☆ きょうの はなびたいかいは きっかり 7じに はじまります。 おたのしみに。

イシシとノシシの じどう こうえんコー

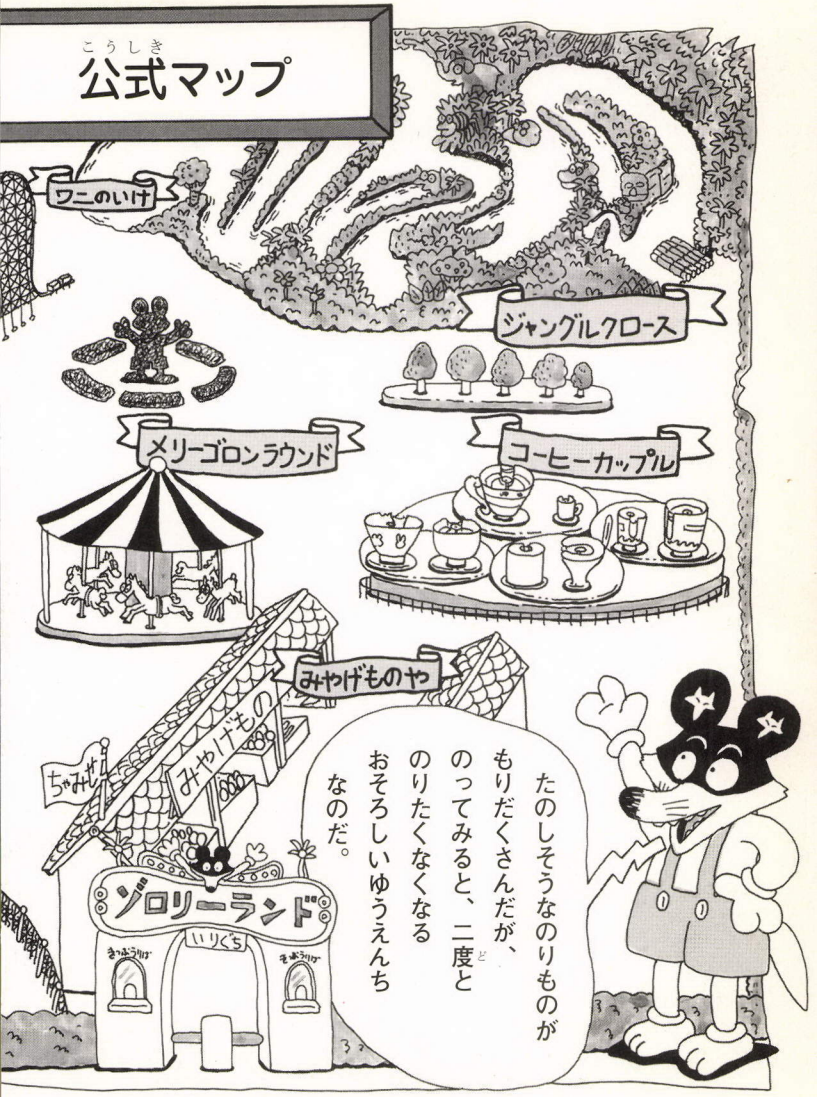
トイレ

スケールが大きいもんな。でも、なにかがたりないみたいだなあ。

あっ、そうだ!!

やっぱり、ゾロリせんせはいだいなお方だ。

公式マップ



たのしそうなのりものがもりだくさんだが、のってみると、二度とのりたくなくなるおそろしいゆうえんちなのだ。

すごいすごいって、どんなにすごいのか、
見(み)てみなきゃわからないよね。
それでは、ごらんにいれましょう。

できた　できたぜ　ほら　できた
どうだ　見てみろ　ゾロリの　力
たった　十日で　このとおり
つくりあげたぜ　ゆうえんち
その名も　ゾロリ
ゾロリーランド
ゾロリせんせー
ごめんなさい
こんなに　すごーい
ゆうえんち
ーランド
りぐち
きっぷうりば

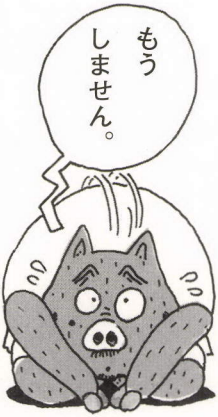
かいけつゾロリのきょうふのゆうえんち

◎イシシとノシシは はんせいのため
わくのそとで せいざさせられています。

おわび

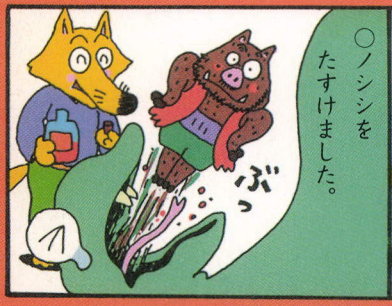
ゾロリファンのみなさまへ

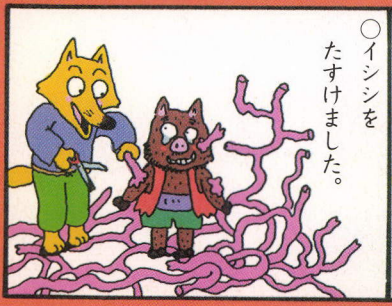
かいけつゾロリを読みたくて
この本を買っていただいたのに、
イシシ、ノシシが、勝手に
11ページもむだにして
しまいました。これから
このようなことがないよう、
きびしくしかっておきましたので、
おゆるしください。

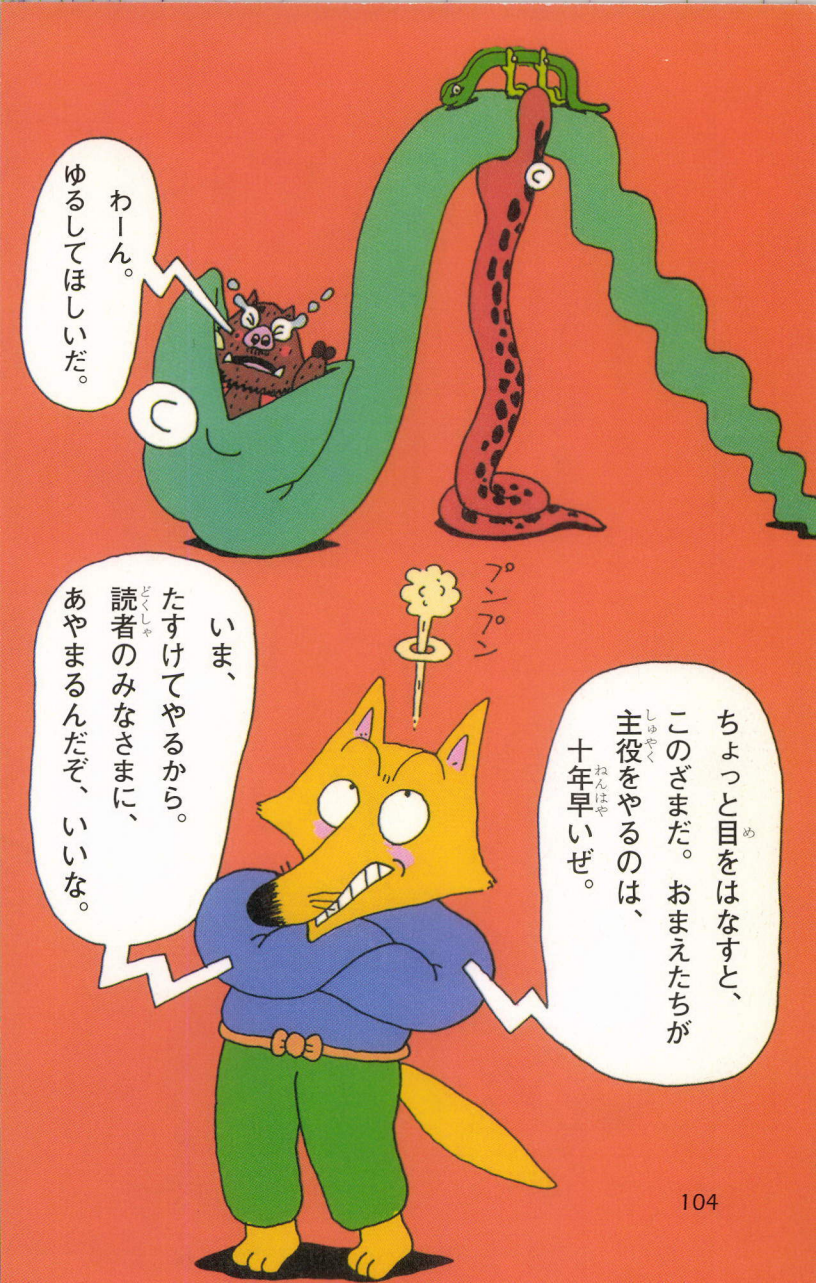


さあ、つぎのページから
かいけつゾロリを
おたのしみください。

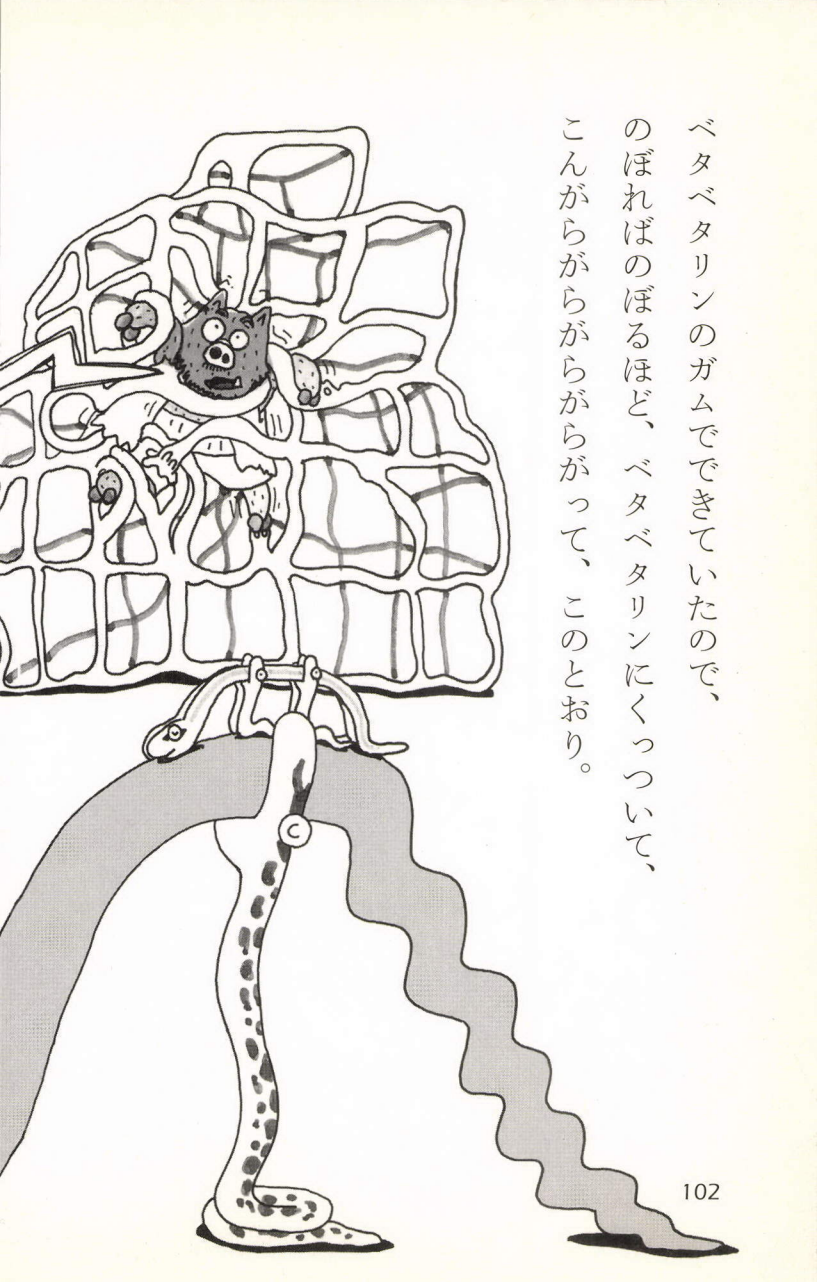
すんません、ゾロリせんせー。
あやまるから、早く
たすけてほしいだー。





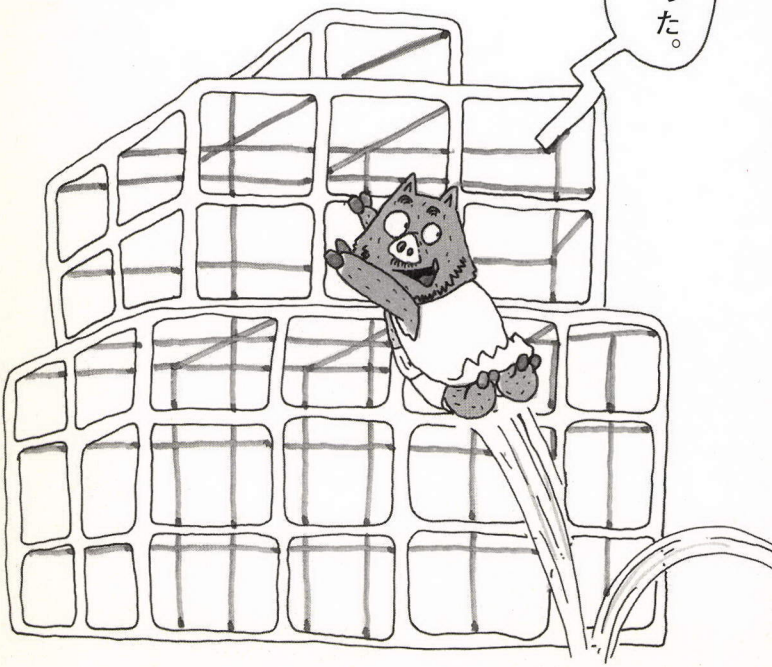

わーん。
ゆるしてほしいだ。
プンプン
ちょっと目をはなすと、
このざまだ。おまえたちが
主役をやるのは、
十年早いぜ。
いま、
たすけてやるから。
読者のみなさまに、
あやまるんだぞ、いいな。

うわあーん。
たすけてー。
みうごきができなくて
苦しいよ――。
うわあーん。
たすけてー。
へびのおなかで
とかされるよ――。
うるさーい。
おれさまが気もちよく
おねんねしていたのに。
ん？　ど、読者の
みなさまが、こっちを
見てるぞ。お、おい、もう
お話はじまってるのか？

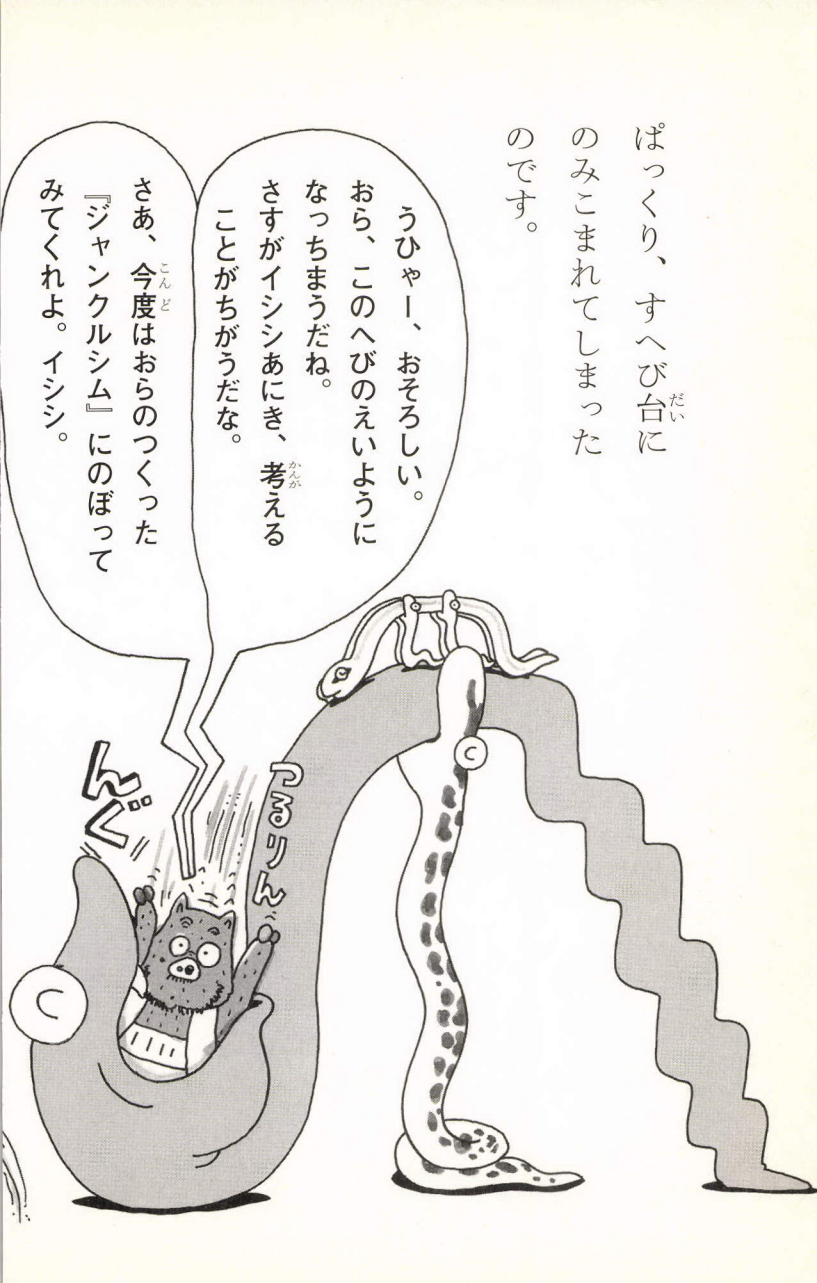


ベタベタリンのガムでできていたので、
のぼればのぼるほど、ベタベタリンにくっついて、
こんがらがらがらがって、このとおり。

イシシは、
ノシシのつくった
『ジャンクルシム』に
とびついて、
のぼりはじめました。
ところが、このジャンクルシムは……

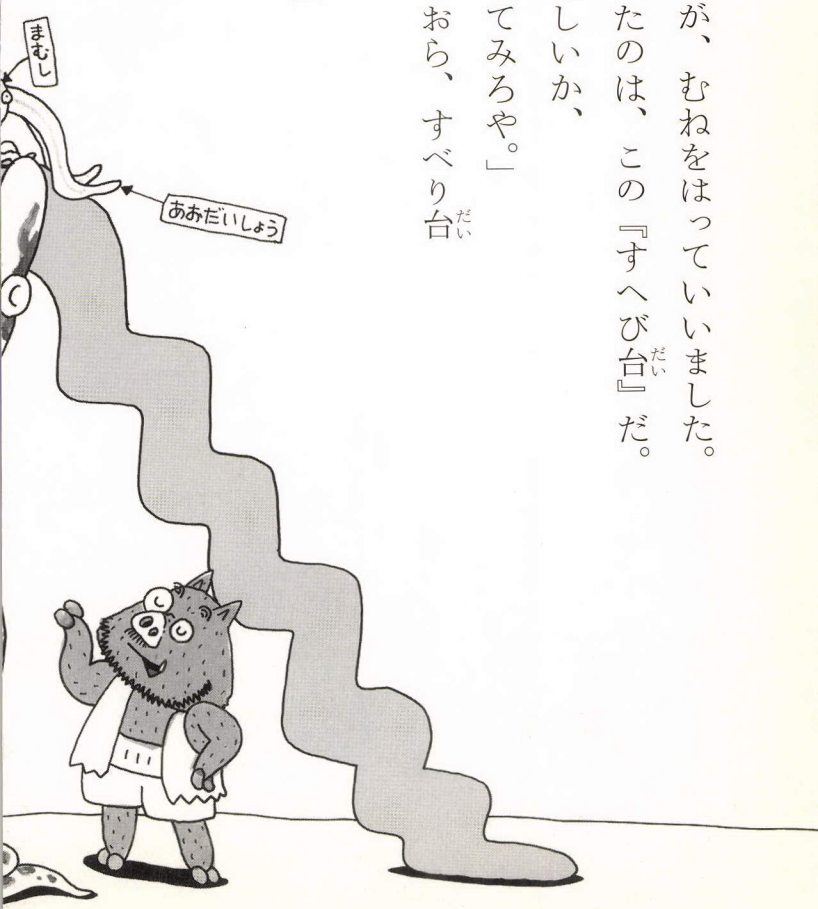


ぱっくり、すへび台にのみこまれてしまったのです。



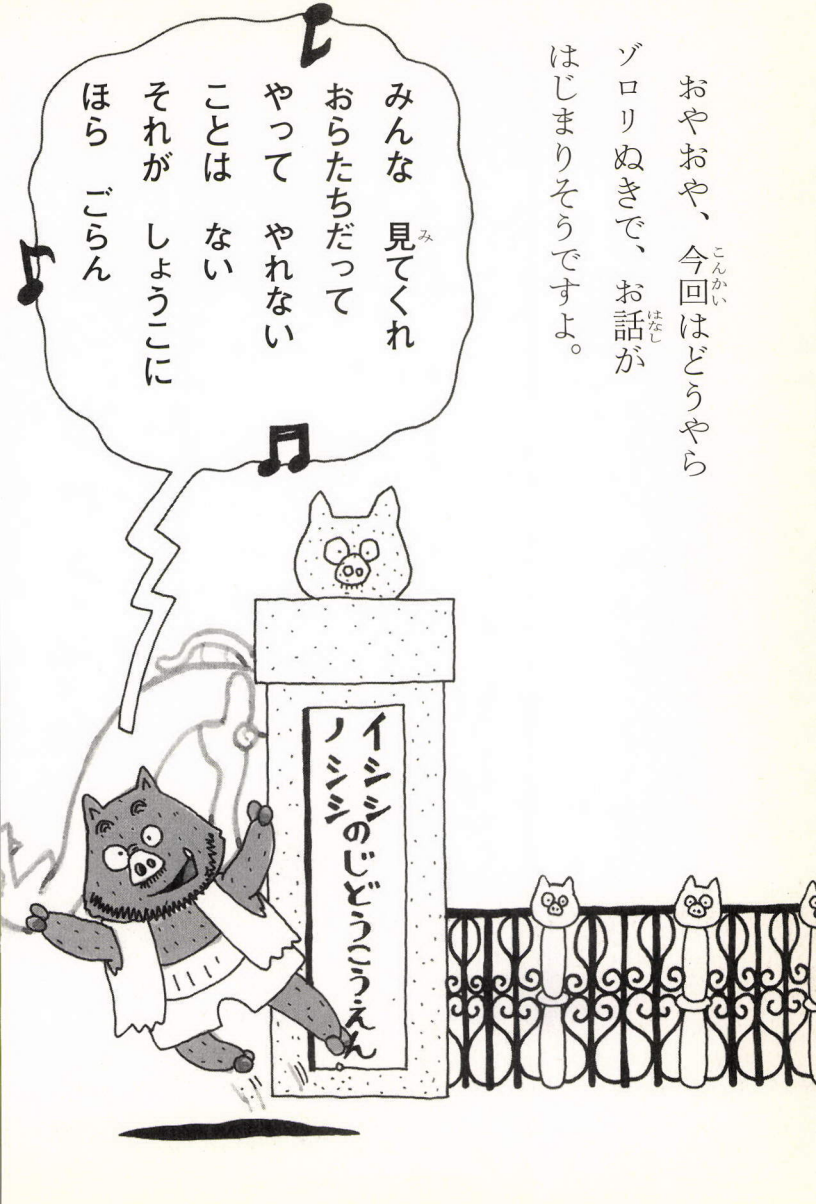
ノシシは、ぬるっとした
『すへび台』にこしをおろすと、
つるるるる――っ
いきおいよくすべっていきました。
すると、そうです。みんなが
考えたとおり……

まず、イシシが、むねをはっていいました。
「おらがつくったのは、この『すへび台』だ。
どんなにおそろしいか、
ノシシ、すべってみろや。」
「がってんだ。おら、すべり台
大すきなんだ。
すべりまーす。」

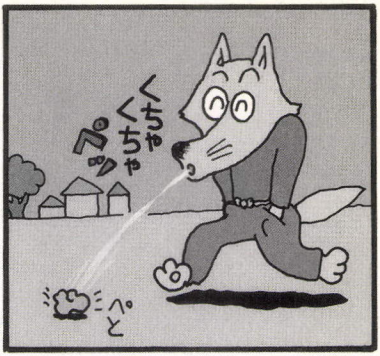


イシシとノシシが、いったいどんな
ものをつくったのか、見てみたいでしょ？

おやおや、今回はどうやら
ゾロリぬきで、お話が
はじまりそうですよ。



イシシとノシシの きょうふのじどうこうえん


くちゃくちゃペッ
ぺと

げっ、自分ですてた
ガムを、ふんじゃったぜ。
にちゃあ

おい、みんな
ガムはな、
ちゃんと、紙に
つつんで、ごみばこに
すてるんだぜ。
にちゃにちゃ
べだべだ

かいけつゾロリのきょうふのゆうえんち

★ゾロリのアニメビデオを、見たことがある。

はい

○きみはゾロリとあいしょうがいいぞ。おとなになっても、読みつづけるとラッキーだ。さあ、きみにこの本をささげよう。

どうぞ、ごゆっくりお読みください。

いいえ

★ゆうえんちは大きらいだ。

いいえ

○元気そうだけど、まだまだきみらしくないぞ。ゾロリを読んで、もっと元気になろうじゃないか。なあ、きみ!!

ほら、ページをめくる!!

はい

★このごろ年をとったなあと、思う。

いいえ

はい

★チョコレートを、いちども食べたことがない。

いいえ

○すこし、勉強づかれじゃないか。そんなときは、ゾロリの本を読んで、ひろうかいふくだ!!

さあ、読みはじめよう!

はい

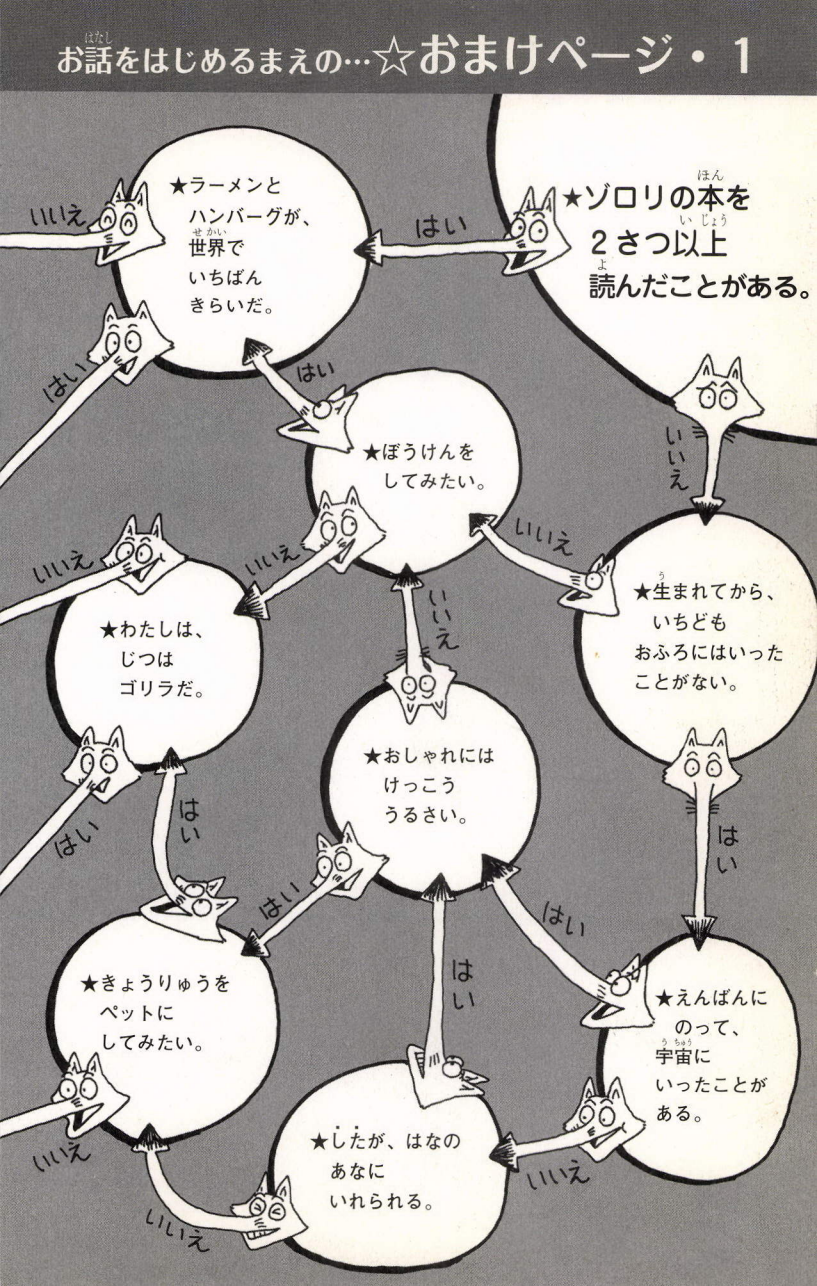
★ぼくは、勉強がいちばんすきだ。

はい

○きみきみ、元気がないぞ。このままじゃ、あぶない。ゾロリの本をぜんぶ読もう。

すぐに読むのだ!!

お話をはじめるまえの…☆おまけページ・1



かいけつゾロリの大きょうりゅう

おれさまも、どうしてぜつめつしたかを、考えてみたぜ。

みんな、おれさまの説が正しいと思うだろう。

おばけブルブル説

◎なつに おばけが いっぱい でてきて きの よわい きょうりゅうは しんぞうまひで ぜんめつ してしまった。

ひえ〜っ

なつやすみしゅくだい説

◎なつの しゅくだいが おおすぎて イライラして ぜつめつ してしまった。

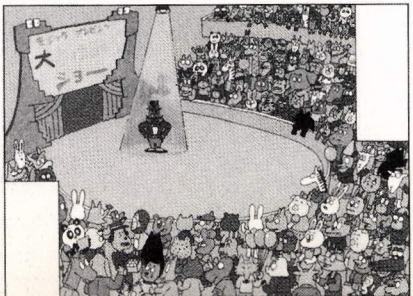
ピーナッツ説

◎きょうりゅうの あ〜だで はなの あなに ピーナッツを つめる あそびが はやり あそんでいる うちに いきが できなくなり みんな しんでしまった。

ピーナッツ

87ページの答え

12ページと13ページの答え

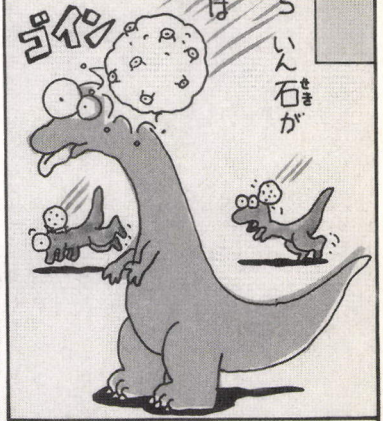


☆おまけページ・2

きょうりゅうは、どうしてぜつめつしたのか？

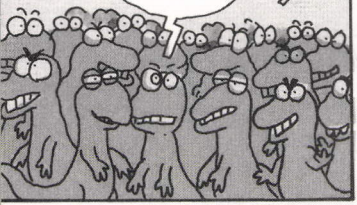
○いん石説

⊙うちゅうから いん石が ふってきて きょうりゅうは ぜつめつして しまった。



○イライラ説

⊙きょうりゅうが どんどん ふえて えさの しょくぶつが へり、みんな イライラし ストレスが たまって ほろびてしまった。



○火山ふんか説

⊙かざんが ばくはつし、きおんが あがって きょうりゅうは ぜつめつしてしまった。

○べんぴ説

⊙みんな べんぴに くるしんで ぜつめつして しまった。

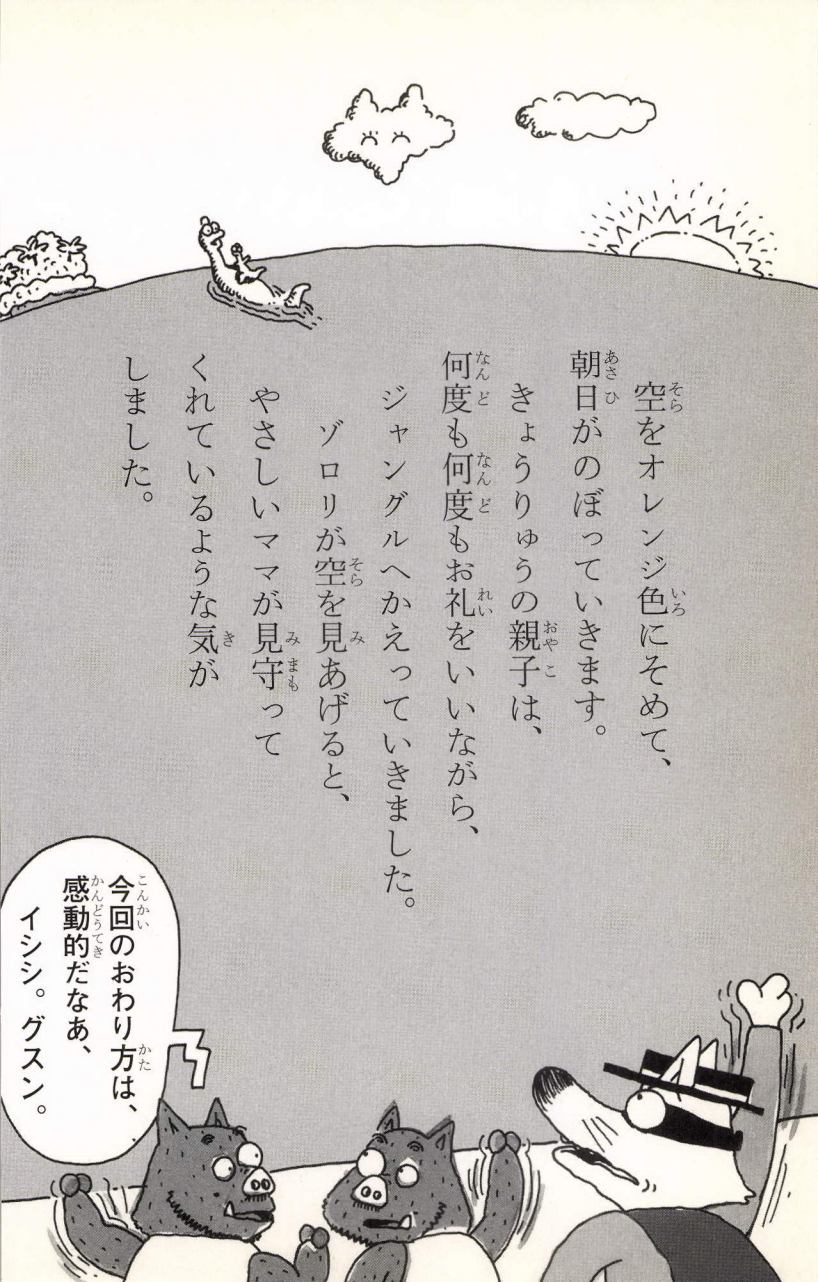
・きょうりゅうの ぜつめつした なぞは いろいろな 説が あって まだ ほんとうには わかっていないんだぜ きみが おとなに なって この なぞを ときあかしてくれよな。

いじわるの王者がまたいいことをしちまったぜ。しかたないさ、おれさまママのふた文字にはよわいんだ。
ところでおれさまをわらってるきみ、そう、きみだって、おれさまのいうことをきかずに、きょうりゅうのおりをあけたりして、ドジふんだんだぜ。気をつけてくれよ！

今度のゾロリせんせの本、泣けるだな。思わず読書感想文書きたくなるな。
今年の夏のすいせん図書はこの本に決まりだな。グス！
かいけつゾロリの大きょうりゅう

☆きょうりゅうとの きねんさつえい

（ママが いないから ゾロリちゃん ちょっと さびしそうだけど
このしゃしんの どこかで ママが みまもっているよ）



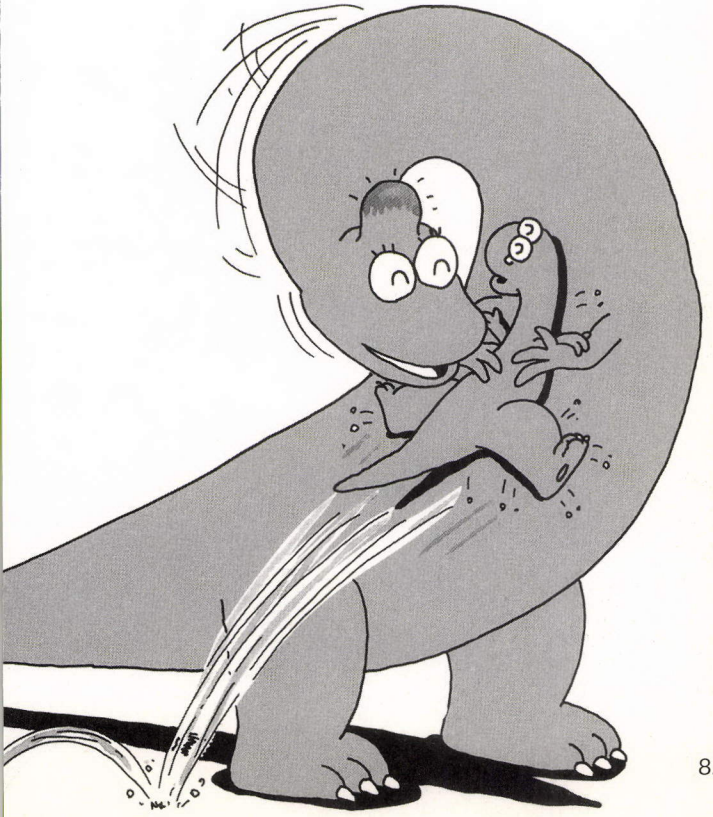
空をオレンジ色にそめて、
朝日がのぼっていきます。
きょうりゅうの親子は、
何度も何度もお礼をいいながら、
ジャングルへかえっていきました。
ゾロリが空を見あげると、
やさしいママが見守って
くれているような気が
しました。

「ゾロリせんせ。
きょうりゅうのママに
お礼として、町で大あばれ
してもらうってのは、どうです。」
「そうだ、そりゃいいだな。」
「ぶあかもーん。そんなこと
したら、まただれかに
つかまっちゃうじゃないか。ママさん
たちは、早いとこ、ジャングルに
もどったほうがいいぜ。」

「ぼうやをたすけることが
できました。いろいろと、
ありがとうございました。」

「うん、ぼく平気だよ。
ママは頭、
だいじょうぶ？」
「ええ、
だいじょうぶよ。
ママはつよいんだから、
こんなこぶなんて、
なんでもないわ。」

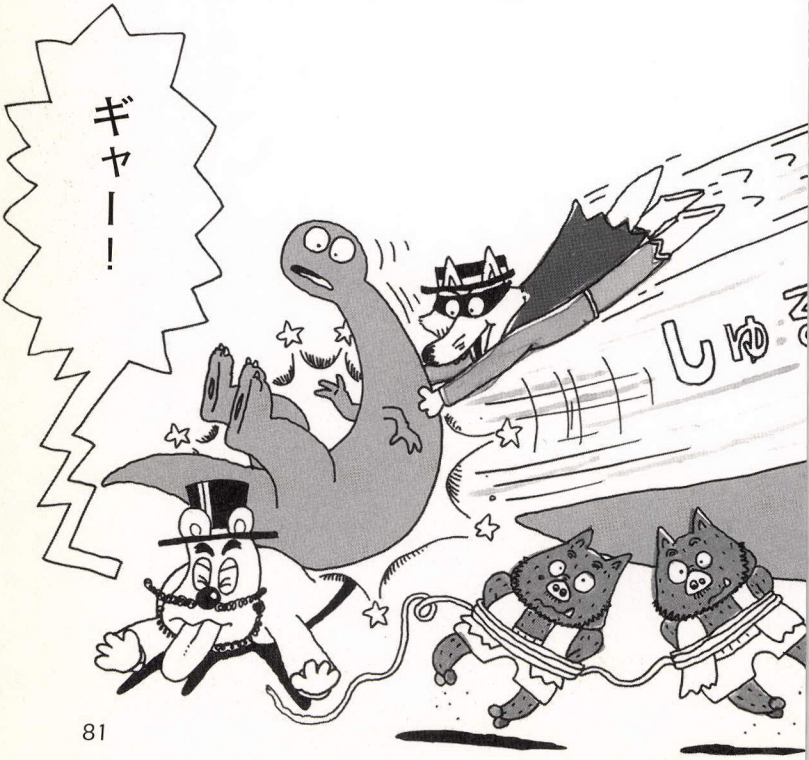
「ママ――!!」
きょうりゅうの
ぼうやは、
ママのところへ
かけよりました。
「よかった、
よかったわ。
けがは
しなかった？」

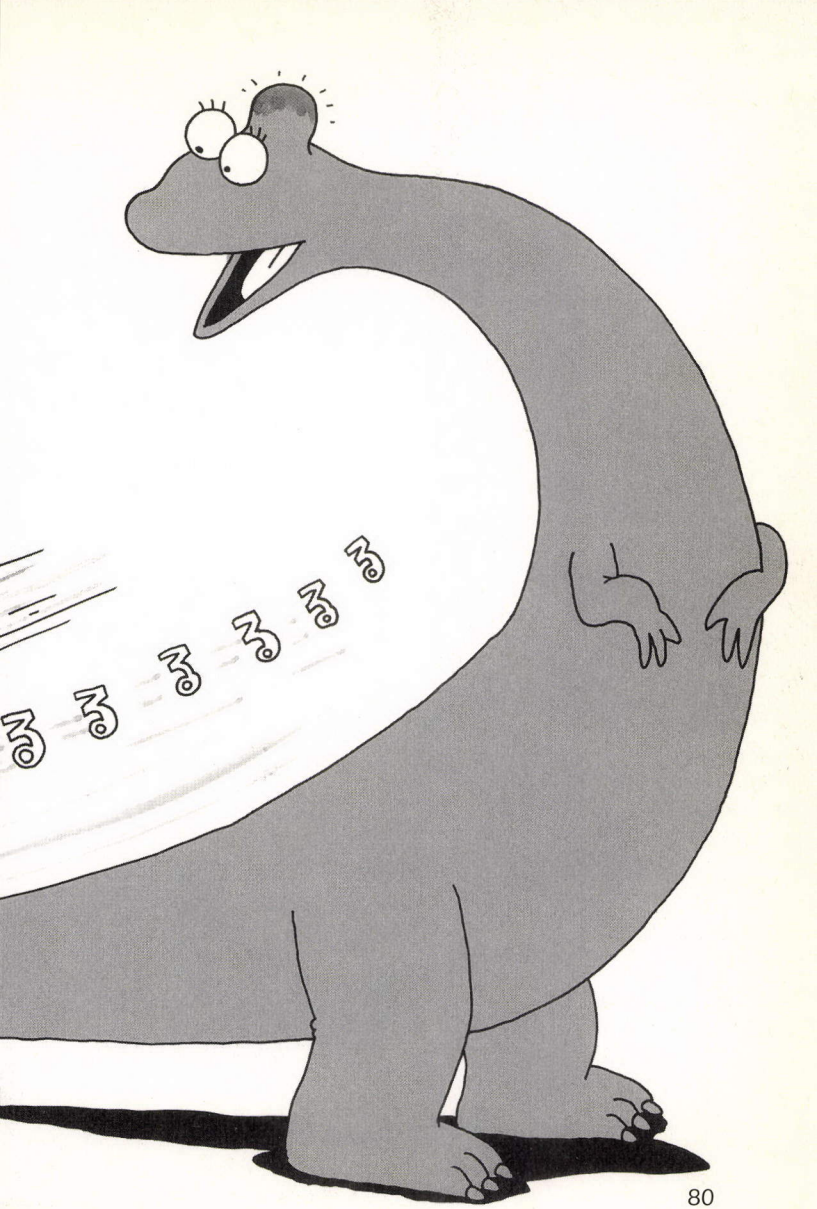


ドシーン!!

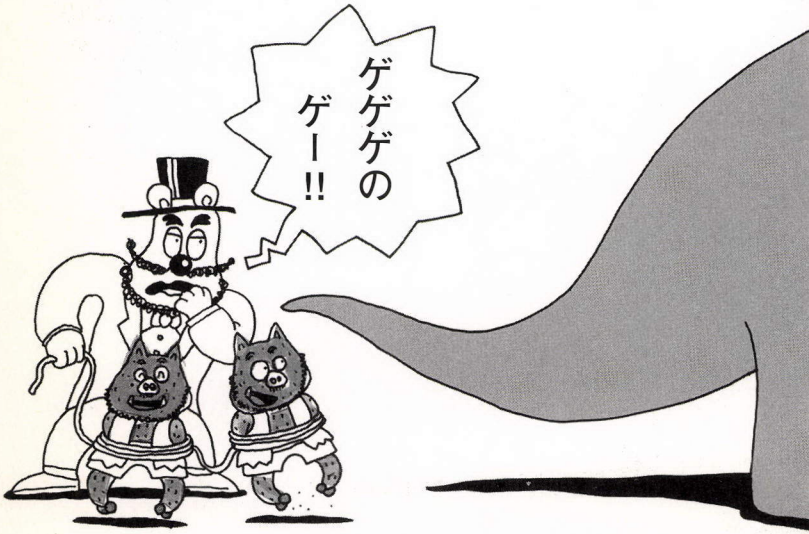
なんと、モジャラにぶつかったのです。

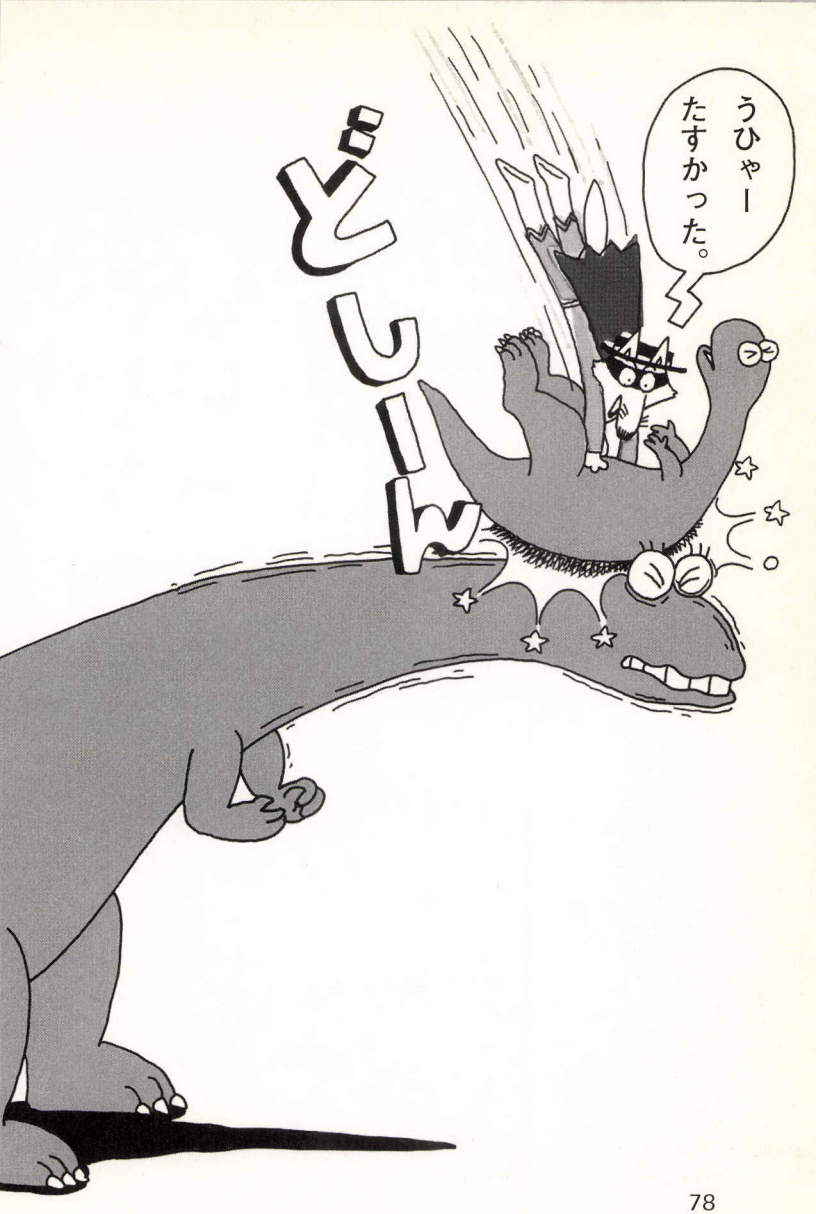
モジャラは、ぼうやの下じきになって、のびてしまいました。





ききいっぱーつ。
ふたりは、
ママの頭の上に、
着地したのです。
そして、そのまま
せなかをすべり台の
ようにすべって——




うひゃー
たすかった。
どしーん

ビュルルーン――！

きょうりゅうのママは、
自分の首を、
ぼうやとゾロリに
すばやく
のばしました。

ママはうでをおもいきり
のばしましたが、とても
とどきそうにありません。
ああ！　ぼうやもゾロリも、
ペッチャンコに
なってしまうので
しょうか。

ところが、なんて運が
わるいんでしょう。海から、
とつぜんふいた
大風が、ふたりを
ふきとばしたのです。

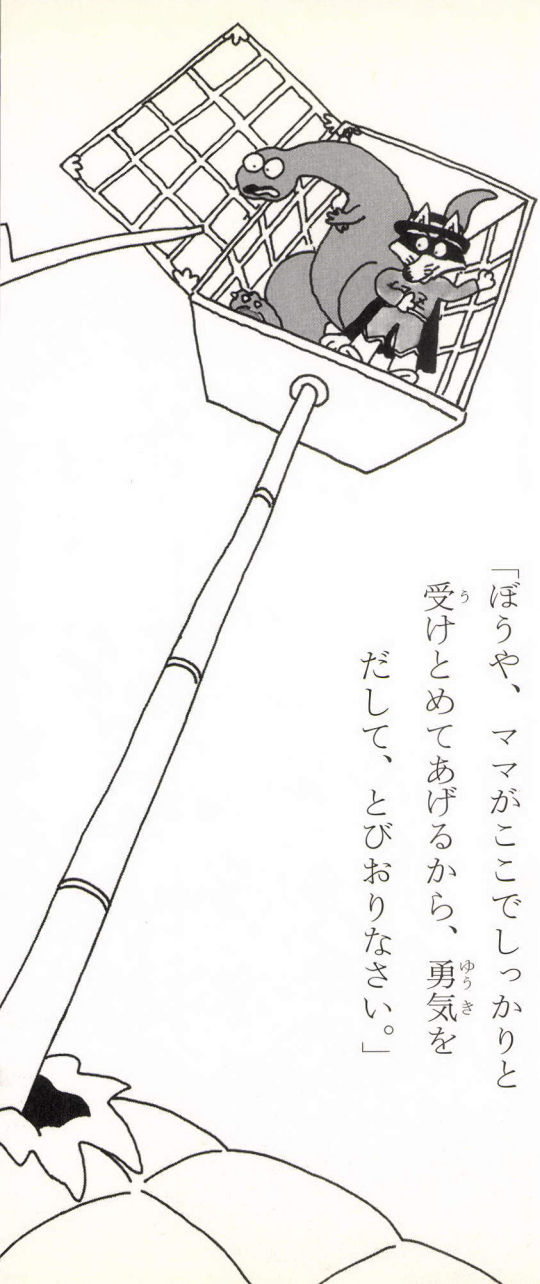
さあーん！

ひゅーん

ゾロリは、泣いているきょうりゅうのぼうやにいいました。

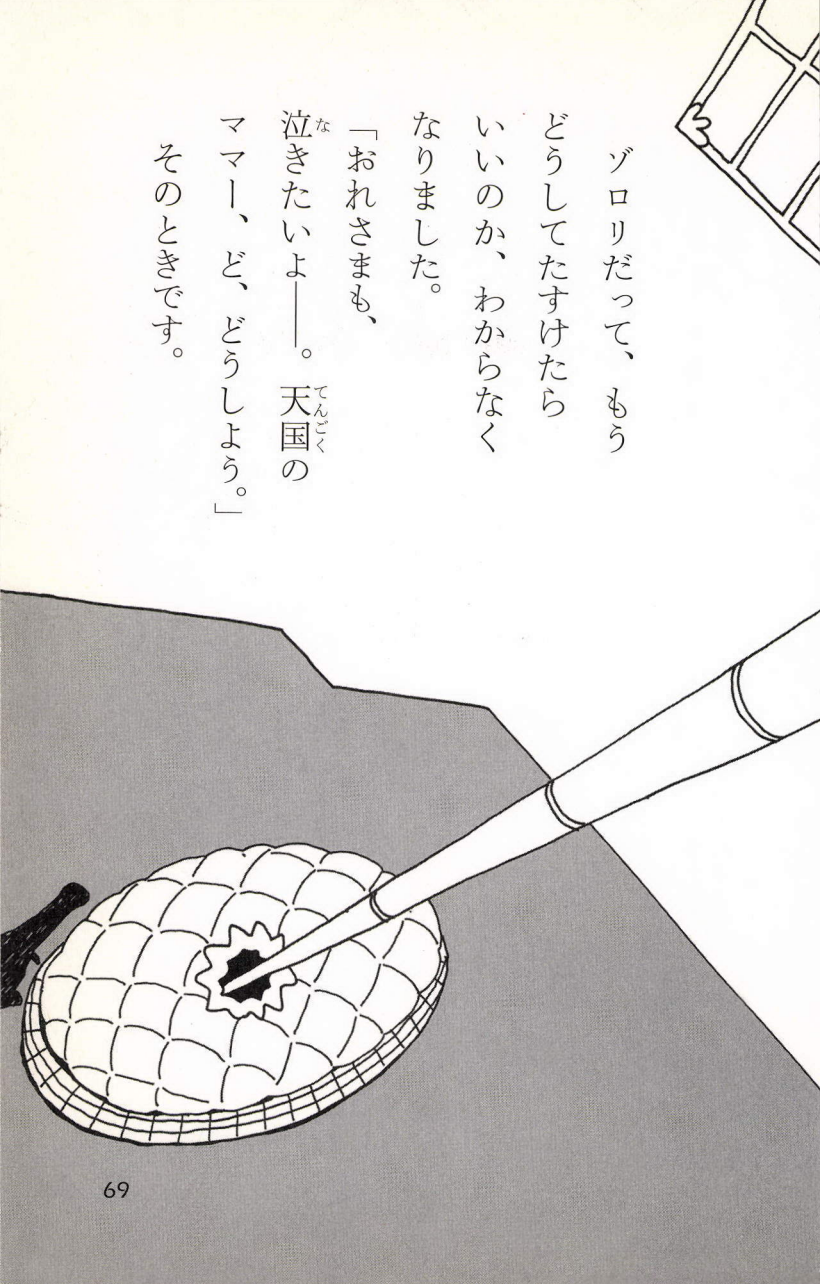
「こわくなんかないぜ。ママはいつだって、ぼうやの味方さ。おれさまは、よーく知ってるんだ。ママは、ぼうやをしっかり受けとめてくれるさ。さあ、おれさまといっしょに、ママのうでの中に、とびこもうぜ。」

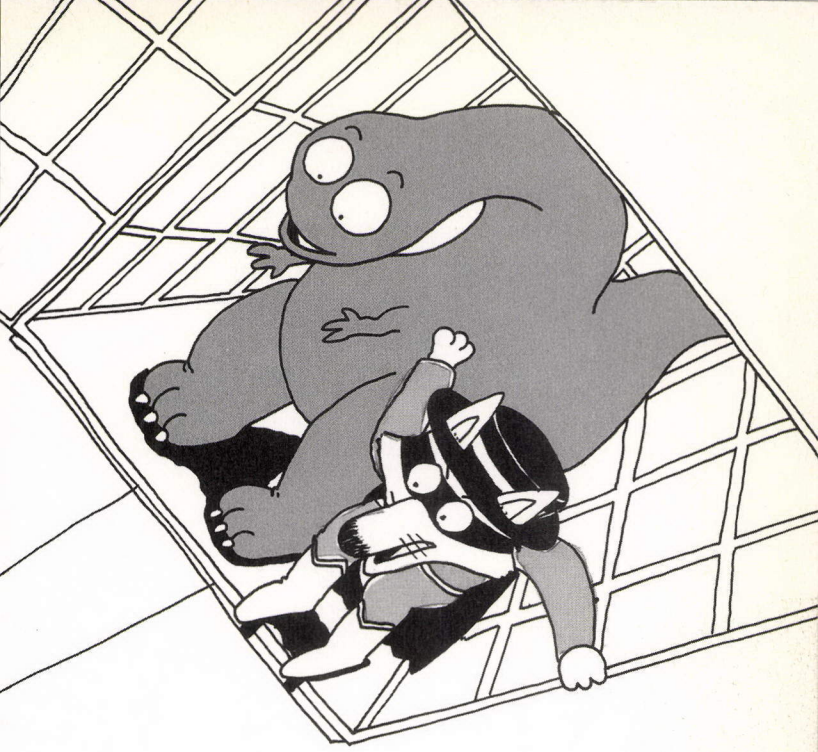
で、でも、
ママー、ぼく
こわいよー。
ありゃっ
でっかい
きょうりゅうが
こんなところに…



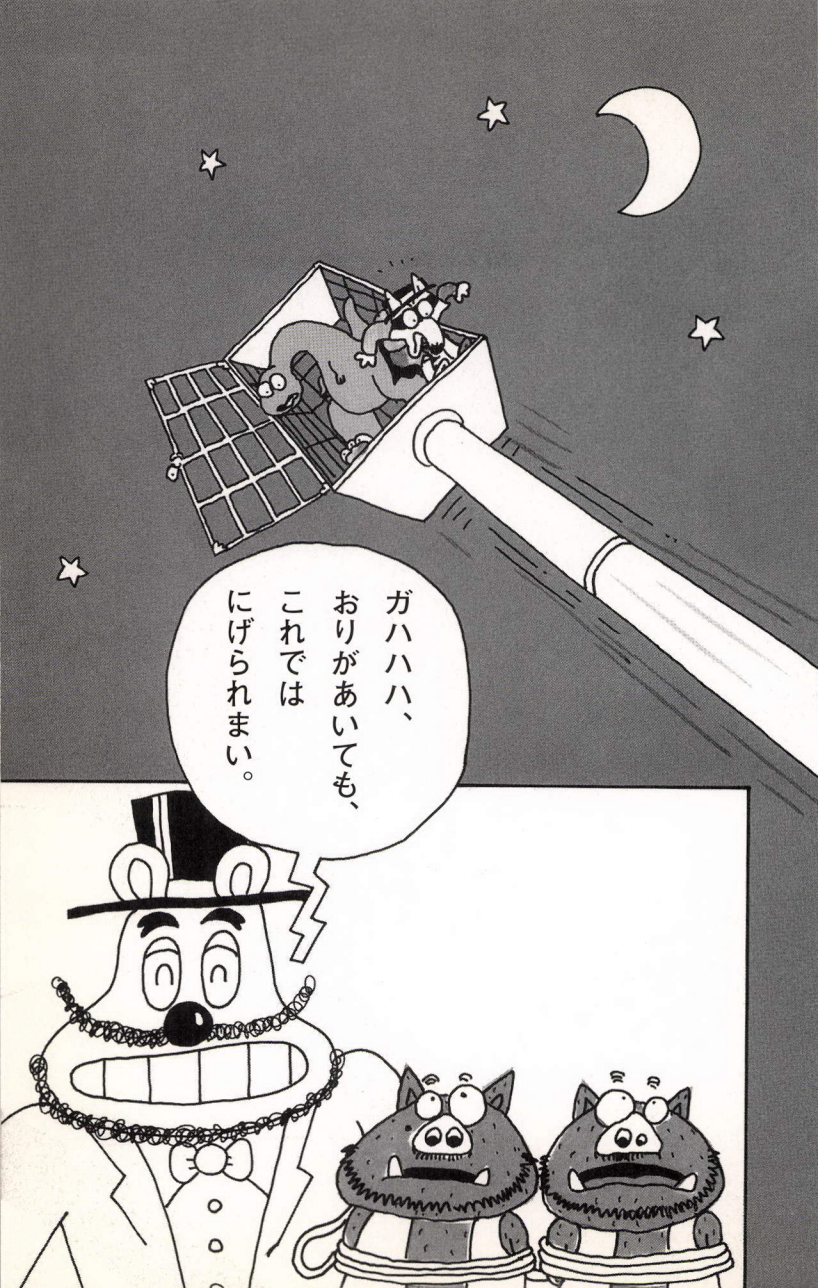
こわれたドームのかげからあらわれたのは、
そうです、あのきょうりゅうのママです。
「ぼうや、ママがここでしっかりと
受(う)けとめてあげるから、勇気(ゆうき)を
だして、とびおりなさい。」

ゾロリだって、もう
どうしてたすけたら
いいのか、わからなく
なりました。
「おれさまも、
泣きたいよ――。天国の
ママー、ど、どうしよう。」
そのときです。

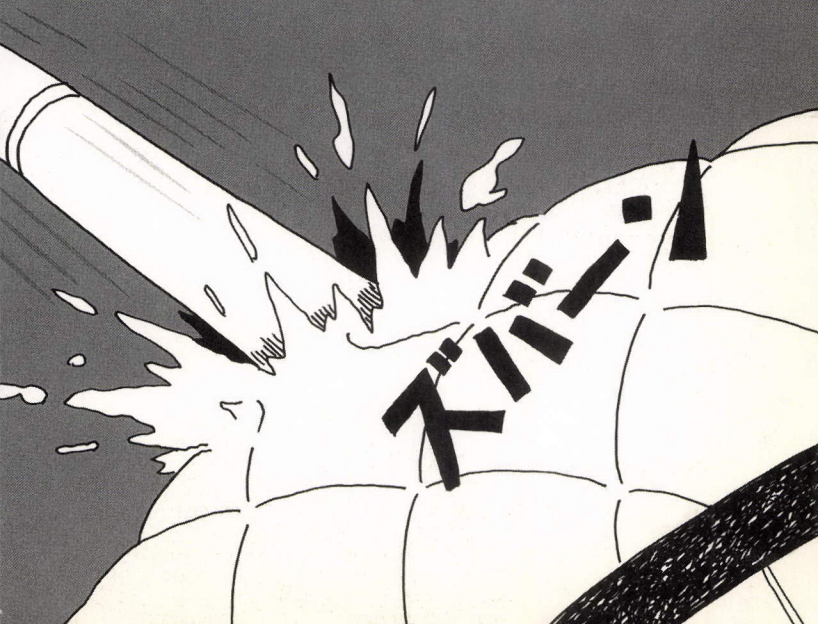


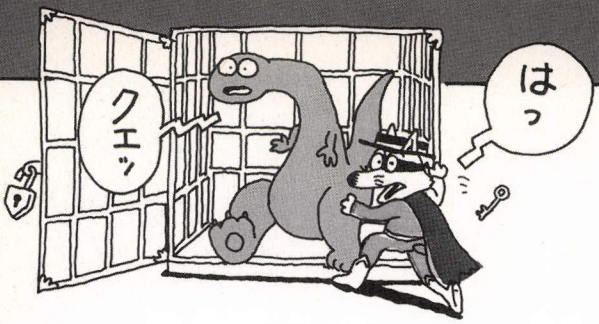


「うわーん、こんな
ところから
とびおりたら
ペッチャンコだ。
こわいよ、ママ――。」
きょうりゅうの
ぼうやは、
泣きだしました。

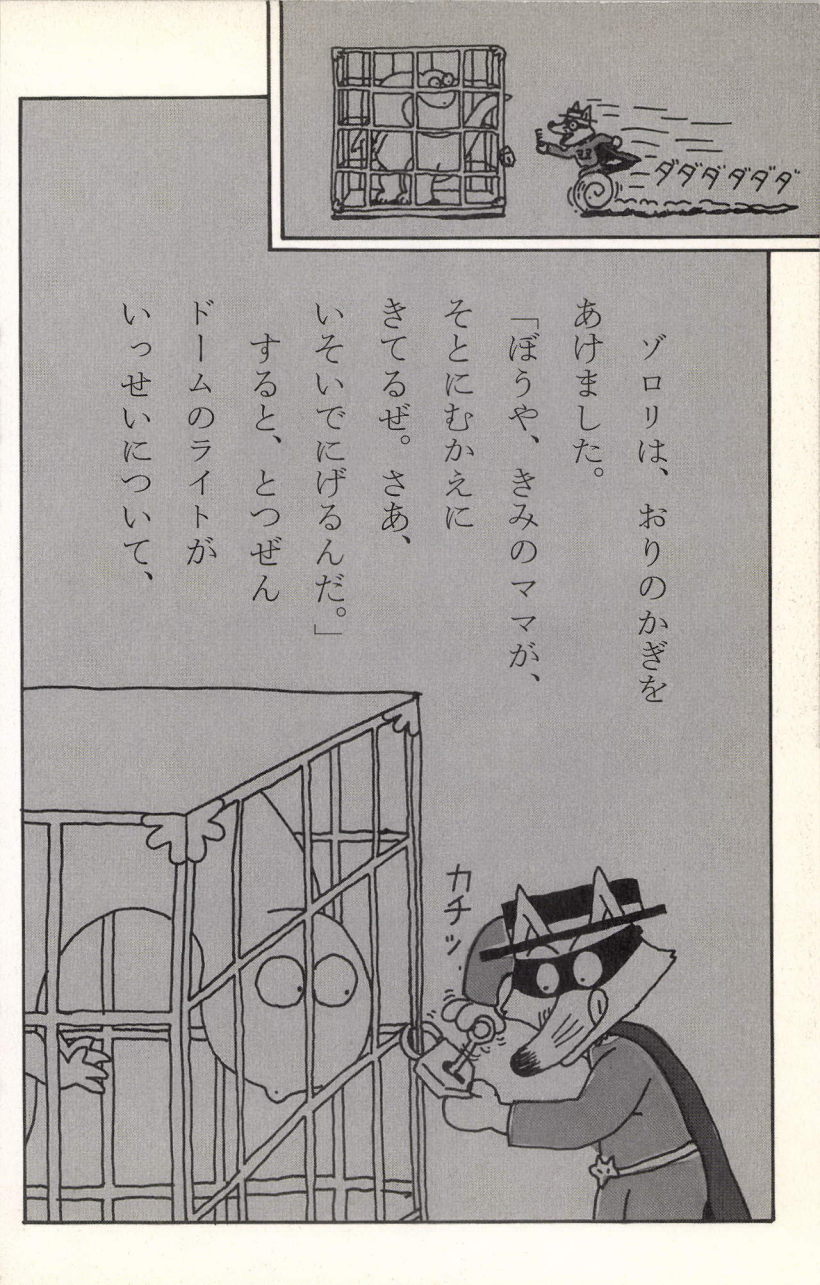

ガハハハ、
おりがあいても、
これでは
にげられまい。

ズバーン!!
おりは、きょうりゅうの
ぼうやとゾロリを
のせたまま、ドームの
天井をつきやぶり、
夜空にむかって、いきおいよく
のぼっていったのです。





イシシとノシシをつかまえた
モジャラがあらわれました。
「フフフ、そうかんたんに
にげられて、たまるものか。
これを見ろ！」
といって、モジャラが
かべのレバーを下に
おろすと——



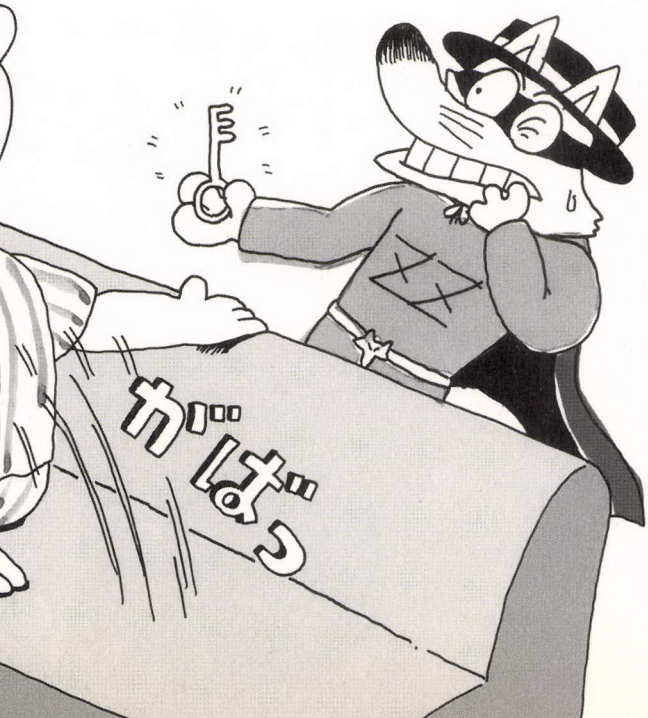
ゾロリは、おりのかぎを
あけました。
「ぼうや、きみのママが、
そとにむかえに
きてるぜ。さあ、
いそいでにげるんだ。」
すると、とつぜん
ドームのライトが
いっせいについて、

かぎをつかんだゾロリは、
かべをけやぶり、ぶたいにある
きょうりゅうのおりへと、
いそぎました。

ゾロリせんせ、いまのうちだ。早くきょうりゅうのぼうやをたすけるだ!!
なんだって、きょうりゅうをぬすみにきやがったな。
ダダダ
レシピ
レシピ

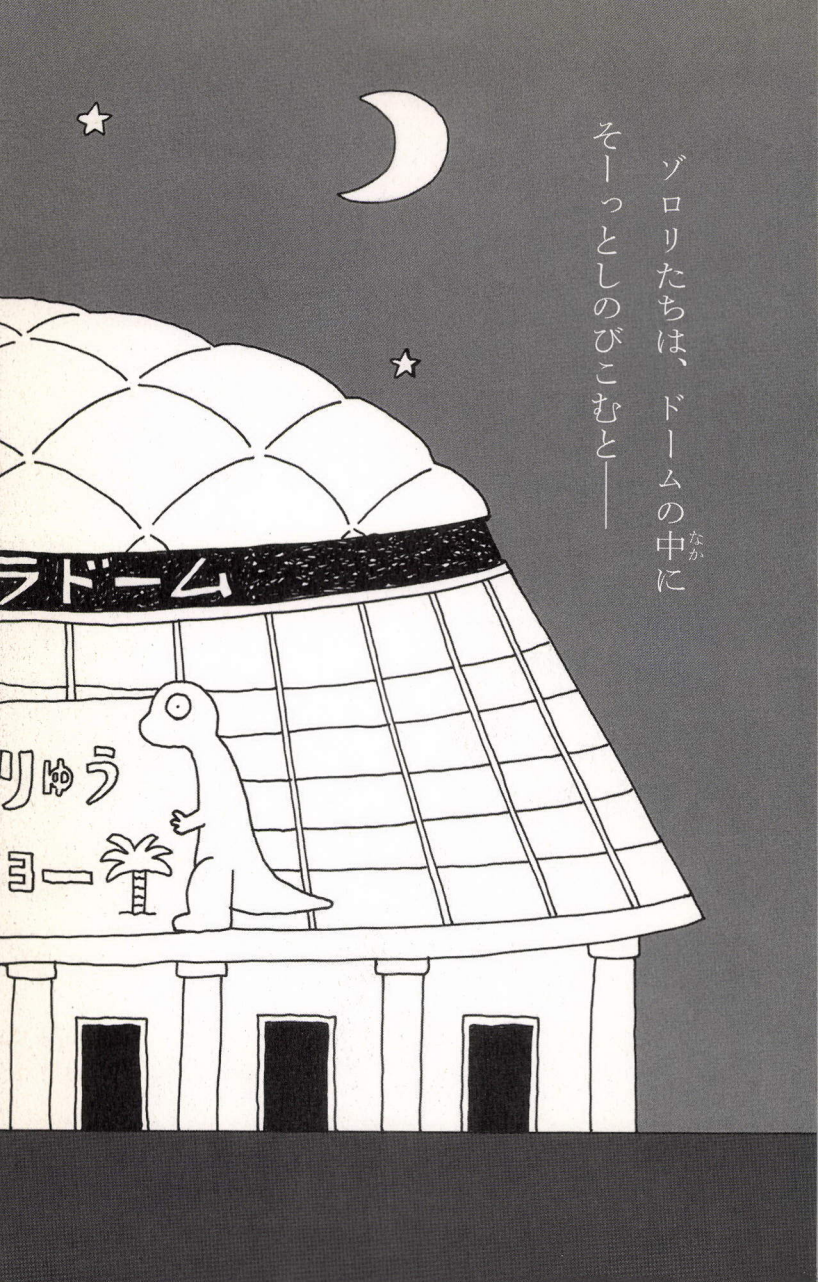
ギュロロロロ…
グォロロロロ…
だれだぁ、おれのへやにしのびこんだのは――!!

ゾロリがそーっとおへそから
かぎをぬきとったときです。
ギュロロロ　ゴロロ――
キュ――ロロロ――
おいしそうなくだものを
見てしまった、イシシと
ノシシのおなかが、
けたたましく
なりだしたのです。



モジャラ
だんちょう
あっ、ノシシ、
くだものが
いっぱいあるだ。
そういえば、おらたち
きのうから、なーんも
食べてないだな。

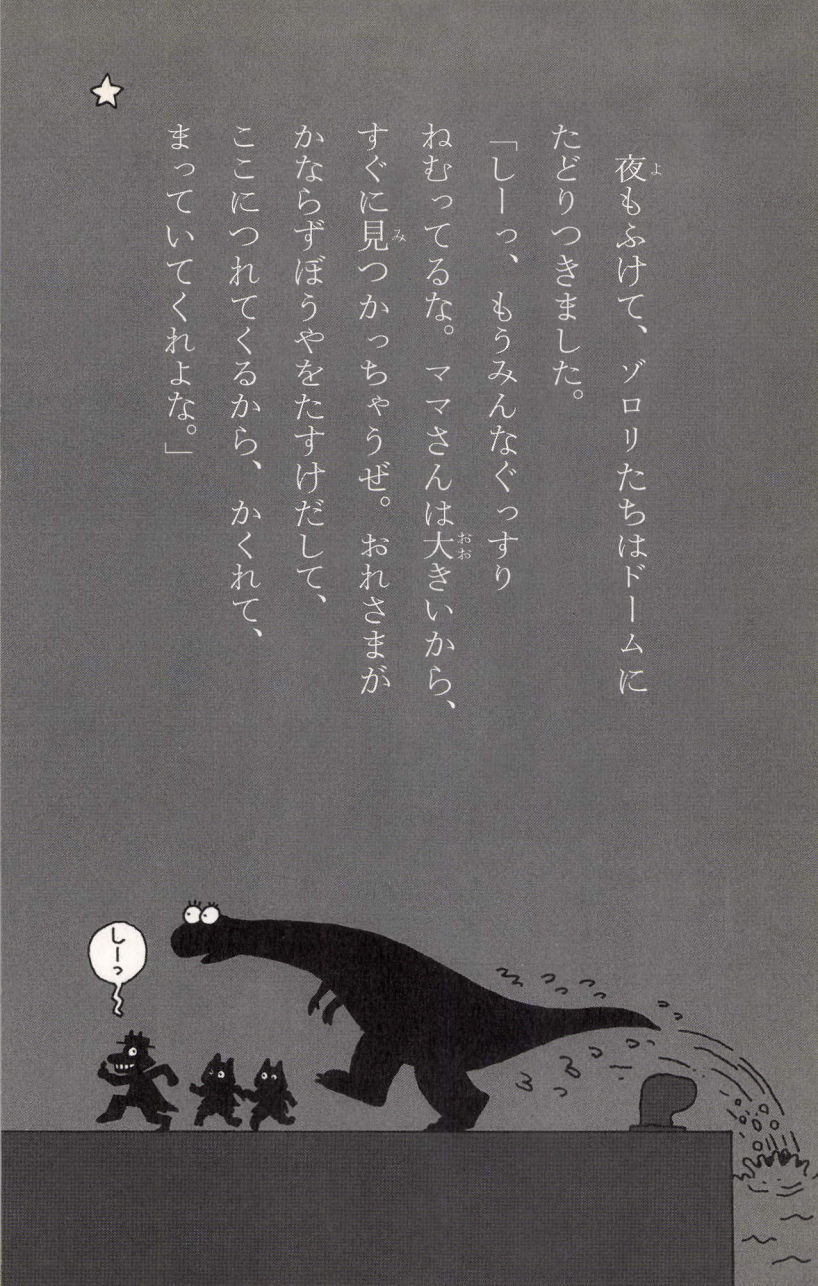
ゾロリはすぐにモジャラのへやをさがしました。
きっとモジャラが、きょうりゅうのおりの
かぎをもっているはずです。



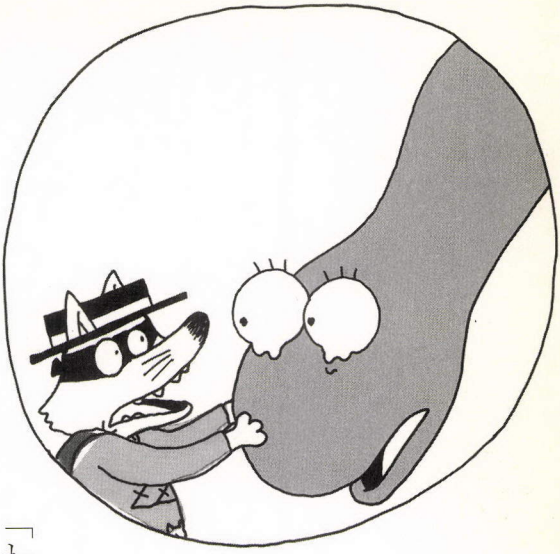
ゾロリたちは、ドームの中に
そーっとしのびこむと――

夜もふけて、ゾロリたちはドームにたどりつきました。

「しーっ、もうみんなぐっすりねむってるな。ママさんは大きいから、すぐに見つかっちゃうぜ。おれさまがかならずぼうやをたすけだして、ここにつれてくるから、かくれて、まっていてくれよな。」

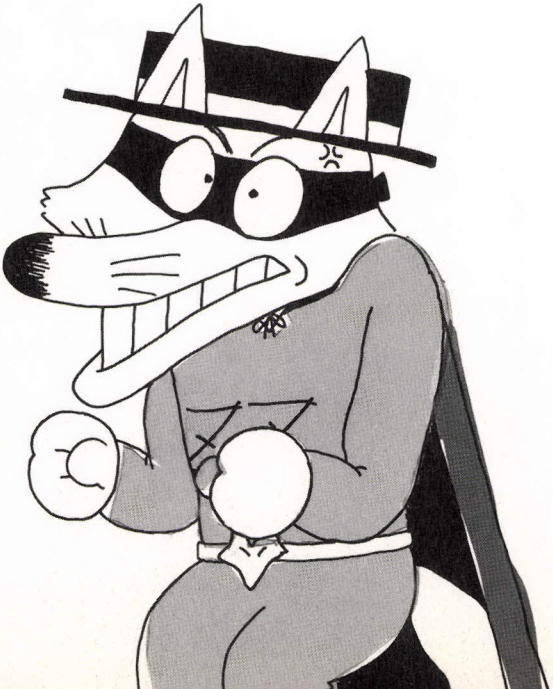


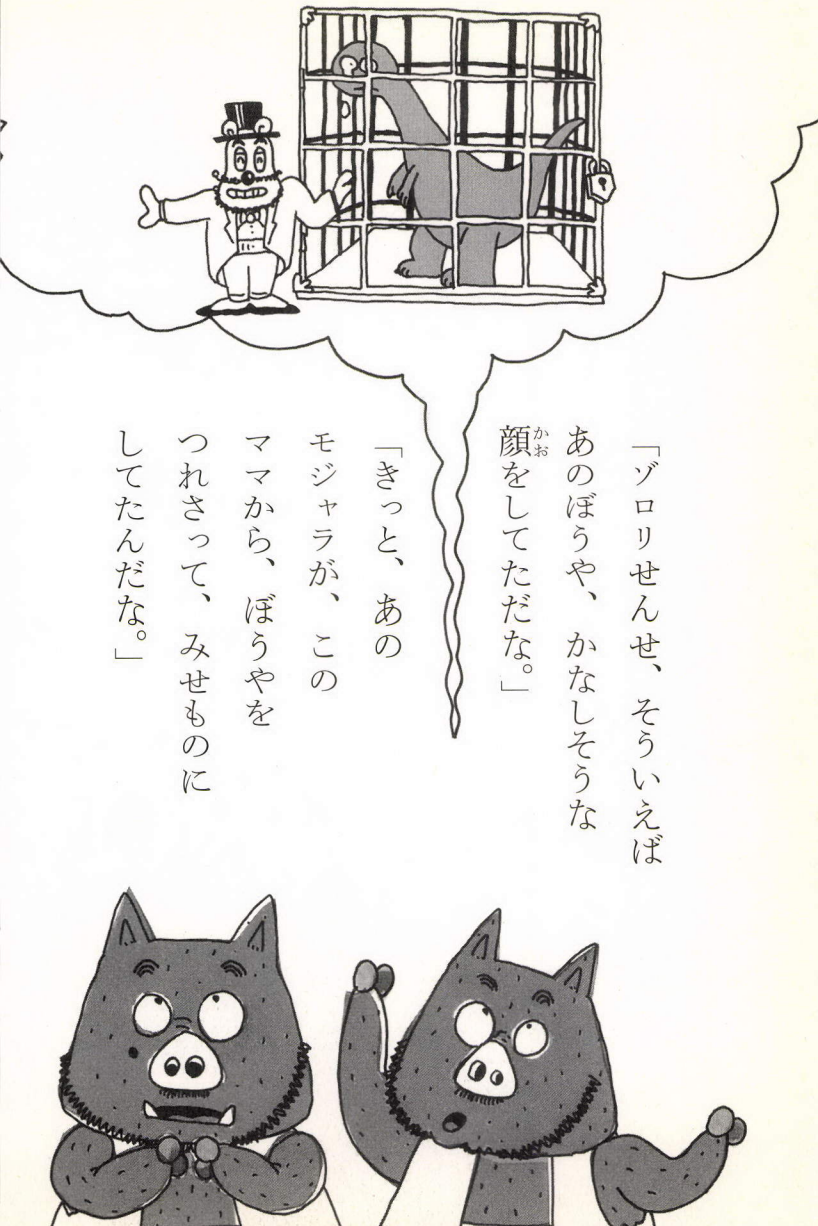
きょうりゅうは、せなかに
ゾロリたちをのせると、
海にはいり、全速力で
あのドームへむかって
およぎだしたのです。



「しんぱいするなよ、
ママさん。おれさまが
ぼうやをかならず
つれもどして
やるからな。」
ゾロリがいうと、
「わたしだって、こんな
ところでまってなんかいられませんわ。
いっしょにつれていってください。」

「そうか、ママがいなくて、
さびしかったのか。
おれさまには、ママのいない
さびしさが、だれよりも
よーくわかるんだ、グスン。
こどもをぬすむなんて、
ゆるせーん。」





「ゾロリせんせ、そういえば
あのぼうや、かなしそうな
顔をしてただな。」

「きっと、あの
モジャラが、この
ママから、ぼうやを
つれさって、みせものに
してたんだな。」

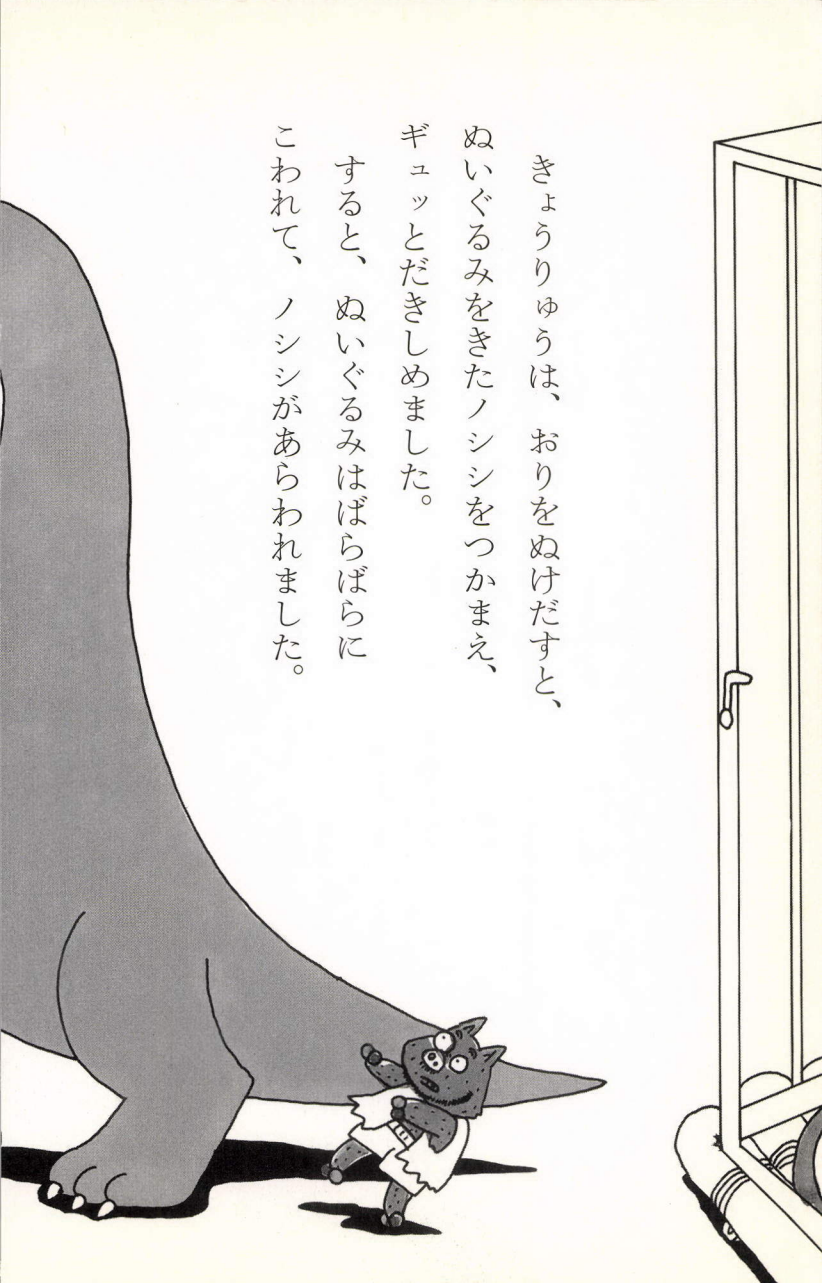
「ぼうやだって？
もしかしたら、あの
ドームで見た
きょうりゅうは……。」
「えっ、わたしのぼうやを、
どこで見たのですか？」
きょうりゅうは、長い首をのばして、
ゾロリの顔をのぞきこみました。

「グスン。わたしのぼうやを
知りませんか。もう、いなくなって、
一週間もたちます。
しんぱいで、夜も
ねむれないんです。」

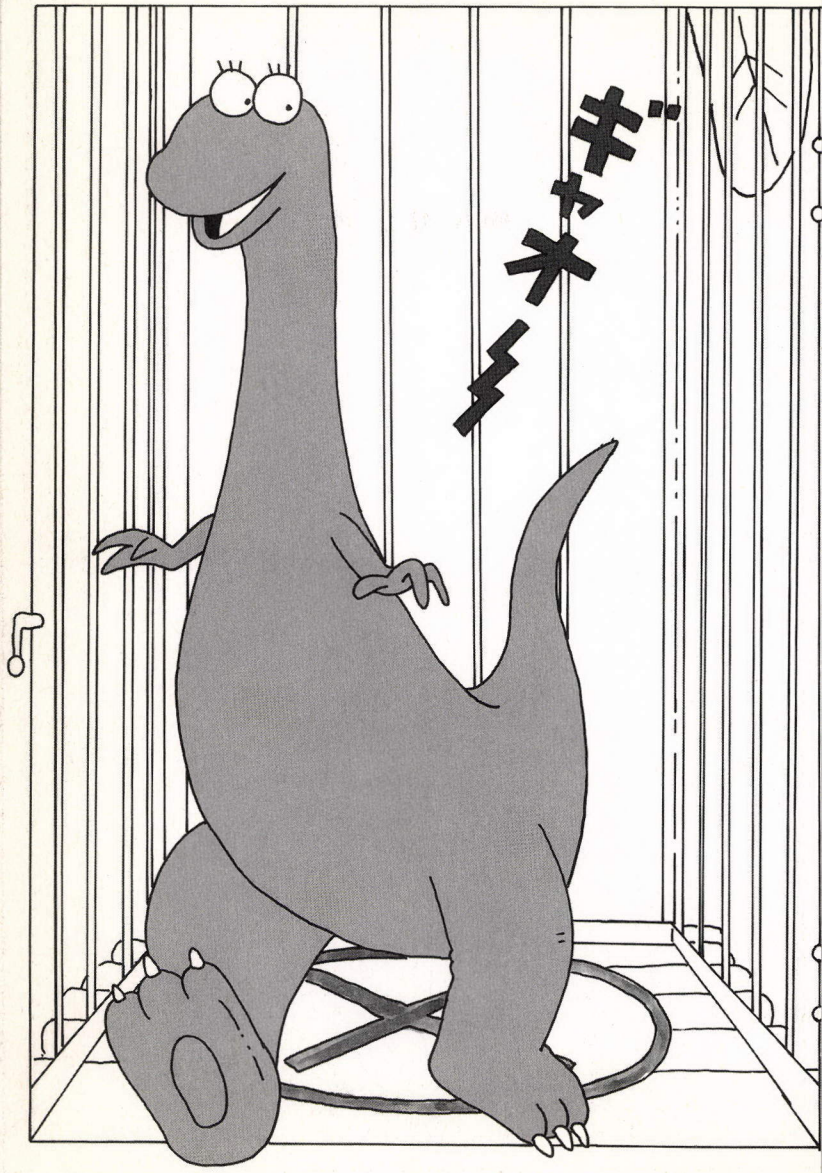
と、泣きだしました。
きょうりゅうのなみだは、
大きなすいかほどのつぶになって、
ばらばらふってきます。
「なんだなんだ。どうしたんだ。どうして
泣くんだい？」
ゾロリはなみだをよけながら、
きょうりゅうにたずねました。

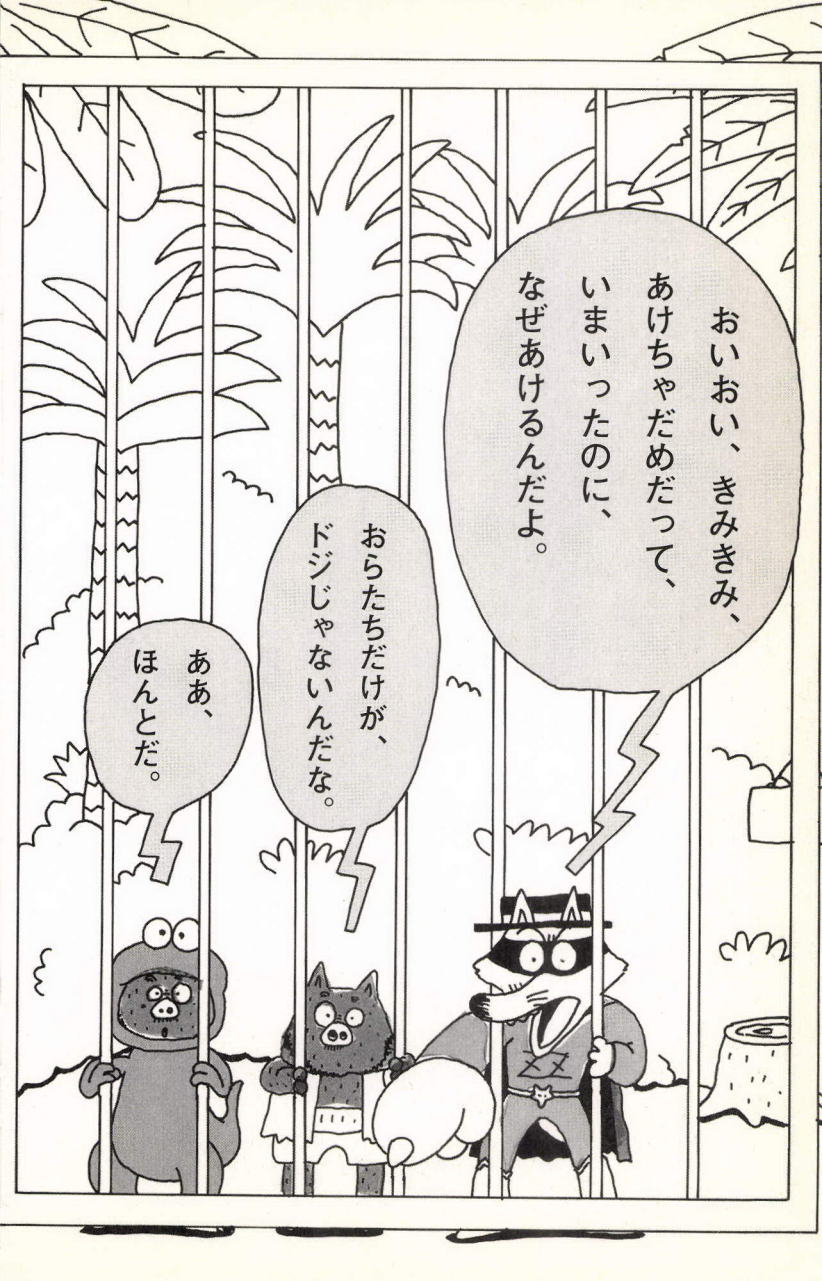
わたしのぼうやじゃ
なかったのね、うわーん!!
びちゃん

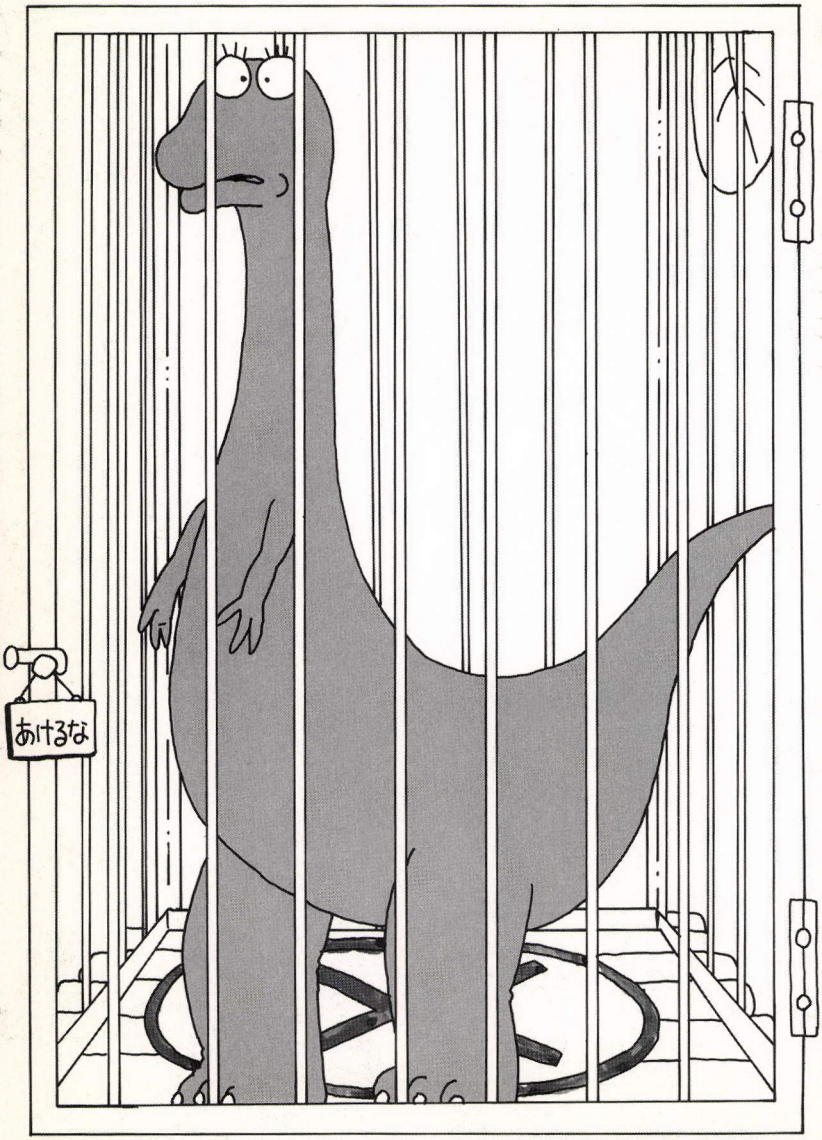
ノシシを見つめたきょうりゅうは、
目を見ひらき、大きな口をあけて——



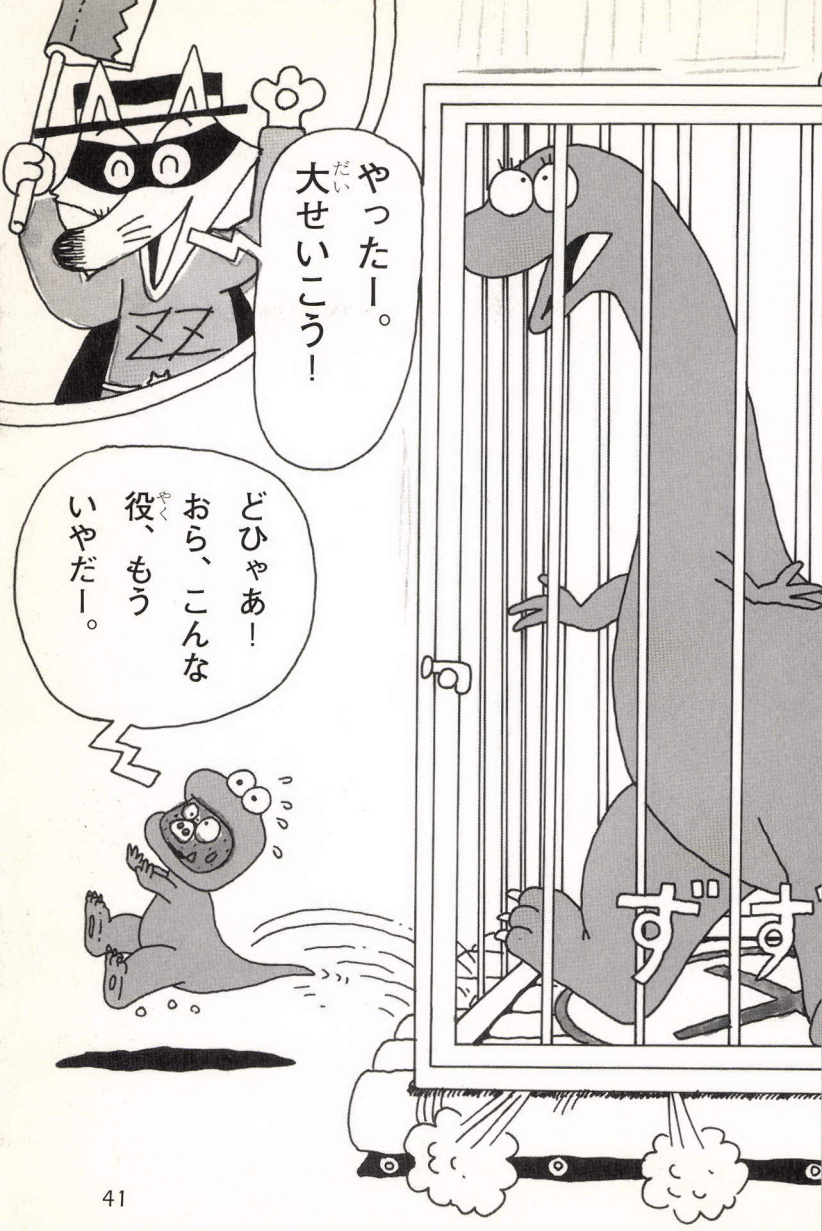
きょうりゅうは、おりをぬけだすと、
ぬいぐるみをきたノシシをつかまえ、
ギュッとだきしめました。
すると、ぬいぐるみはばらばらに
こわれて、ノシシがあらわれました。


ギャギギ


おいおい、きみきみ、あけちゃだめだって、いまいったのに、なぜあけるんだよ。
おらたちだけが、ドジじゃないんだな。
ああ、ほんとだ。


あけるな

おいみんな、おれさま
このとおり、大きょうりゅうを
つかまえたぜ。あしたの朝、
つれてかえるから、みんなも
このきょうりゅうが
にげださないように、ちゃんと
見はっていてくれよ。
いっとくけどな、けっして
このおりをあけちゃだめだぜ、
わかったな!!


やったー。
大せいこう！
どひゃあ！
おら、こんな
役、もう
いやだー。
ずず

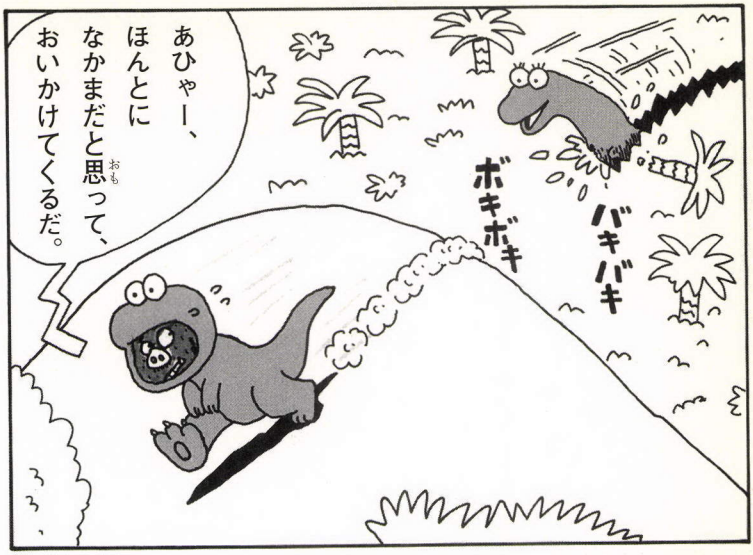
よし、いまだ！
うわっ！
ぶちっ
ぷっ
ずーずーん

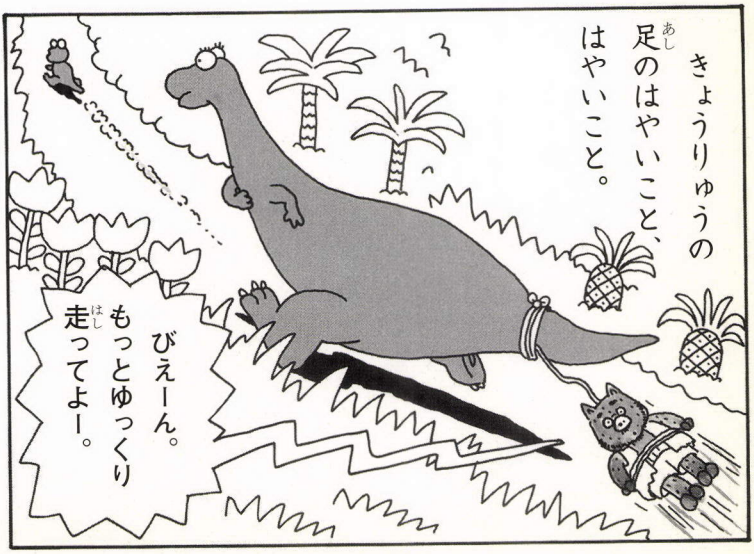
あっという
まに、ノシシは
おいつかれて
しまいました。

ひえーっ！

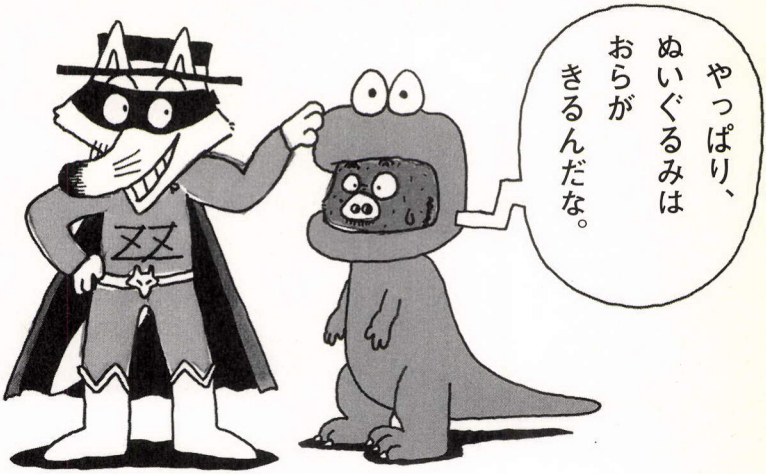
ノシシ、
そこだ、そこ
までおびき
よせるんだ。

もう
だめ――。
つかまる
かまれる
食べられるー。

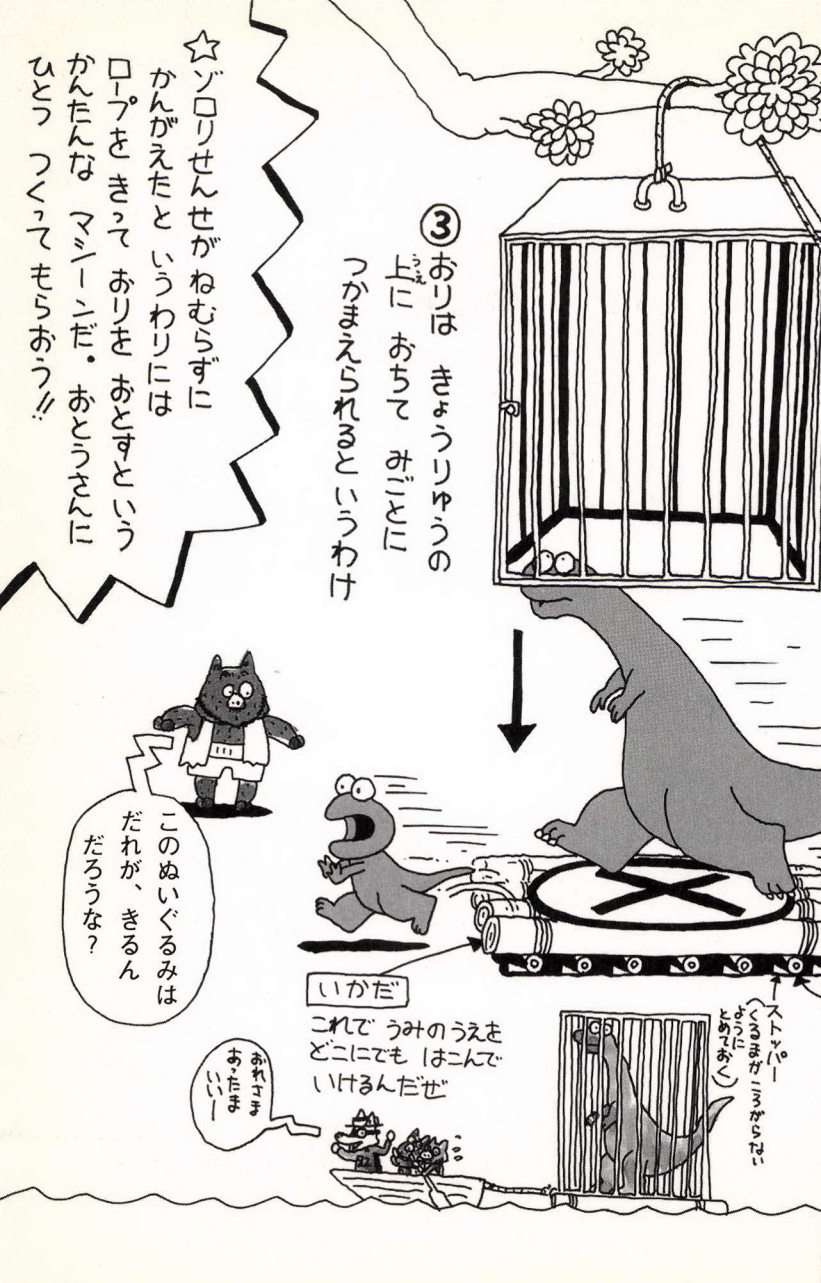

あひゃー、ほんとになかまだと思って、おいかけてくるだ。
ボキボキ
バキバキ


きょうりゅうの足のはやいこと、はやいこと。
びえーん。もっとゆっくり走ってよー。

ノシシは
見晴らしのいい、
丘の上に
立ちました。
すると、十分も
たたないうちに
大きょうりゅうに
見つかったのです。
あっ！



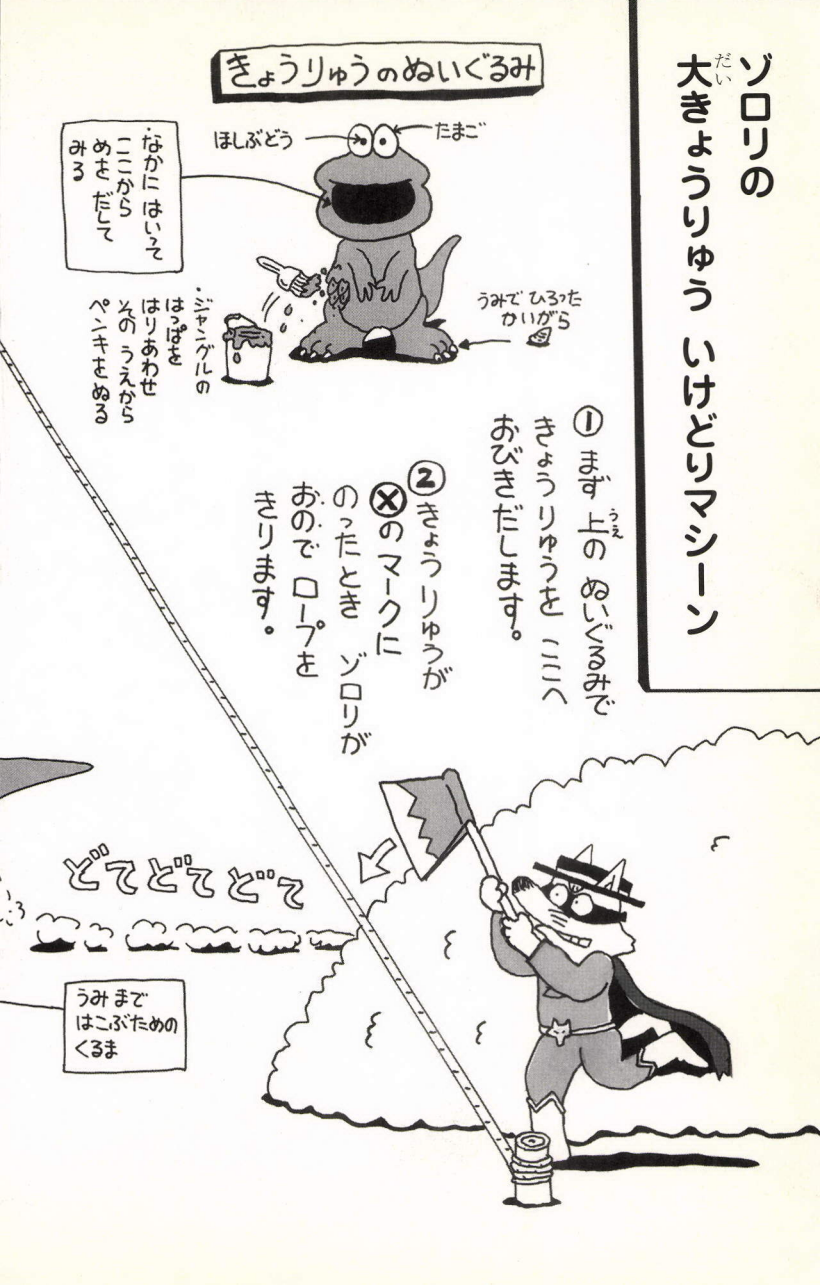
「さあ　ノシシ、おまえを
見(み)れば、あのきょうりゅうは
きっと、なかまだと思(おも)って
ついてくるはずだ。
このおりまで、うまく
おびきよせろよ。
イシシのいのちもかかった、
たいせつな役目(やくめ)だからな。
がんばるんだぜ。」

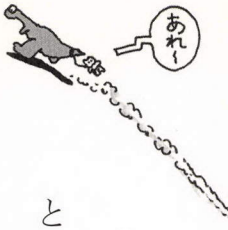

③おりは きょうりゅうの
上に おちて みごとに
つかまえられるというわけ
☆ゾロリせんせが ねむらずに
かんがえたと いうわりには
ロープを きって おりを おとすという
かんたんな マシーンだ。おとうさんに
ひとう つくって もらおう!!
このぬいぐるみは
だれが、きるん
だろうな?
いかだ
これで うみのうえを
どこにでも はこんで
いけるんだぜ
おれさま
あったま
いいー
ストッパー
(くるまが ころがらない
ようにとめておく)

ゾロリの大きょうりゅう いけどりマシーン

①まず 上の ぬいぐるみで きょうりゅうを ここへ おびきだします。

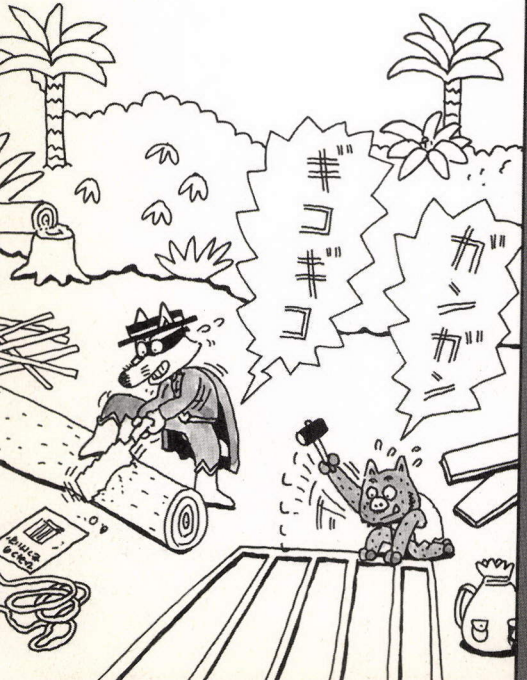
②きょうりゅうが ⊗のマークに のったとき ゾロリが おので ロープを きります。





ゾロリは、ひみつの設計図をリュックから
とりだし、にたりとわらいました。

こうして、ゾロリと
ノシシは、ジャングルの
木を切り、きょうりゅう
いけどりマシーンを
つくりはじめたのです。



「ゾロリせんせ、イシシが
さらわれただ。ど、どうしよう。」
「だいじょうぶ。おれさまが、きのう
ねずに考えた、『きょうりゅう
いけどりマシーン』で、かならず
つかまえてみせるぜ。もちろん、
イシシもぶじに
たすけだしてやるさ。」

クエー！

イシシが
じまん話をいい
おわらないうち
に——

おくへときえて
いきました。

こらあ、
おいらが
つかまえた
のに、かってに
歩くなあ。

ゾロリせんせ、こんなことは朝(あさ)めしまえ。おいらにまかせといて……。

きょうりゅうは、ノッシノッシと、歩(ある)きだしました。すると、もちろんイシシもいっしょにひっぱられて、ジャングルの

あちゃ！

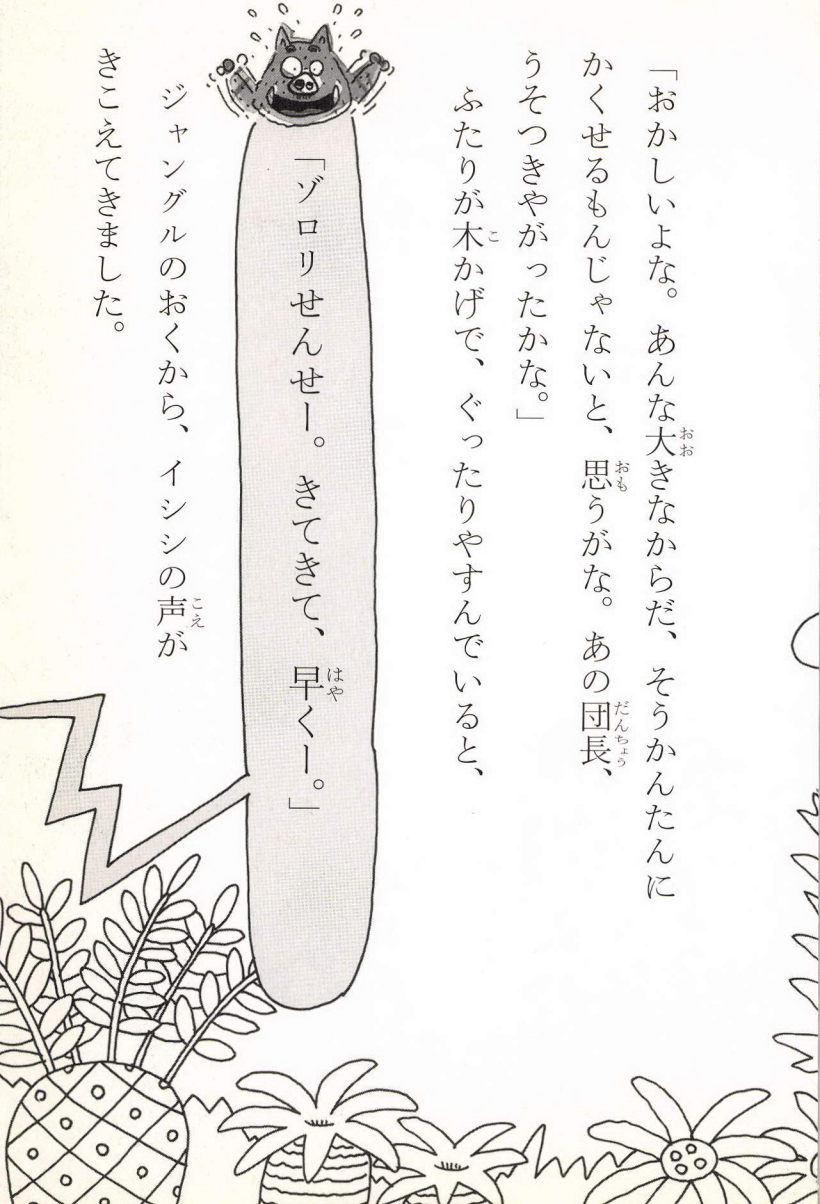
イシシ！

自分のおなかと
きょうりゅうの
しっぽとを、
しっかりむすんで
いたのです。

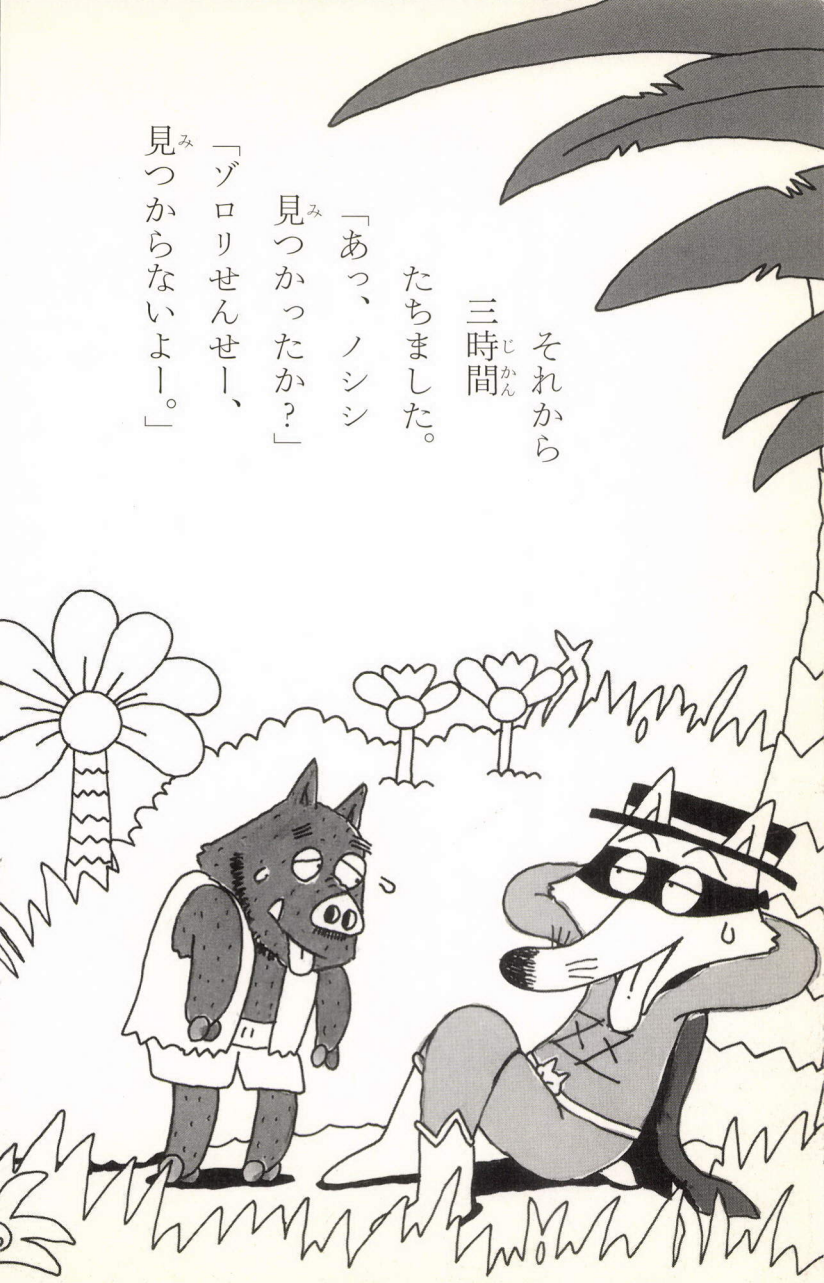
声のするほうへ
とんでいくと、イシシが
とくいそうに立っています。
「どうです。おら、ひとりで
きょうりゅうつかまえただよ。」
なるほど、イシシは
きょうりゅうが
にげないように、ロープで

「おかしいよな。あんな大きなからだ、そうかんたんにかくせるもんじゃないと、思うがな。あの団長、うそつきやがったかな。」

ふたりが木かげで、ぐったりやすんでいると、



ジャングルのおくから、イシシの声がきこえてきました。



それから
三時間
たちました。
「あっ、ノシシ
見つかったか？」
「ゾロリせんせー、
見つからないよー。」

ゾロリは、ジャングルのまわりから、さがすことにしました。

おれさま、ここでさがすから。

いってきまーす。

イシシとノシシは、ジャングルの中をさがします。

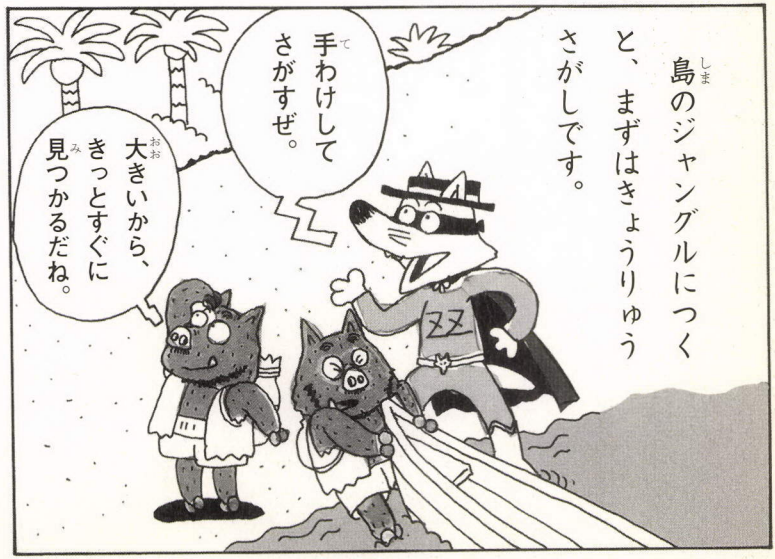
おら、こっちさがすだ。

じゃ、おら、あっちいくだ。

つぎの朝、ゾロリたちは
きょうりゅうのすむ
おっとっ島へ
むかいました。

こんな小さな
ボートで、きょう
りゅうつれてこれ
るんだか……。

おれさまに、
まかせておけ。

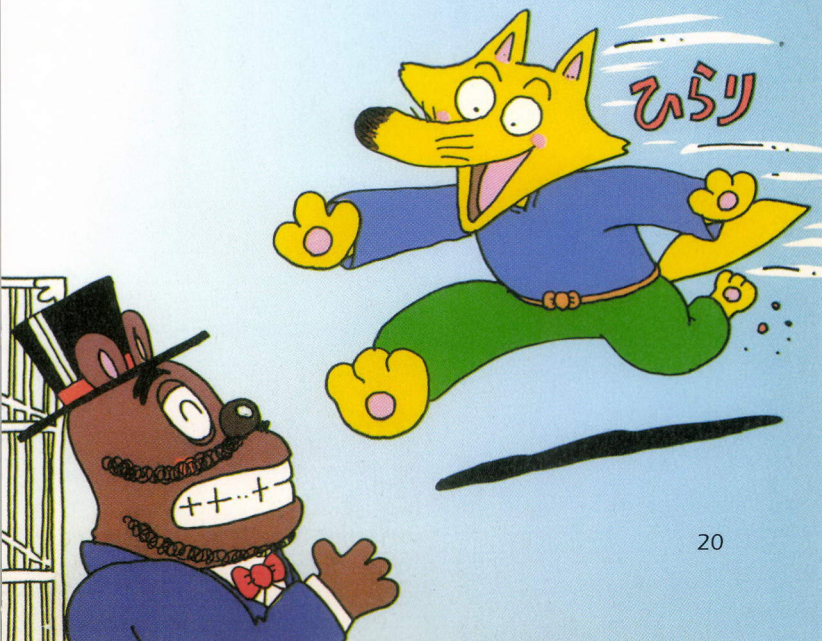


ゾロリは、夜があけるまで、ひみつの設計図をかいていたのです。

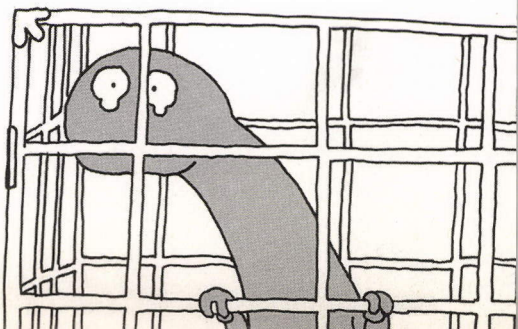
その夜、ゾロリはきょうりゅうを
つかまえにいくじゅんびを、
はじめました。

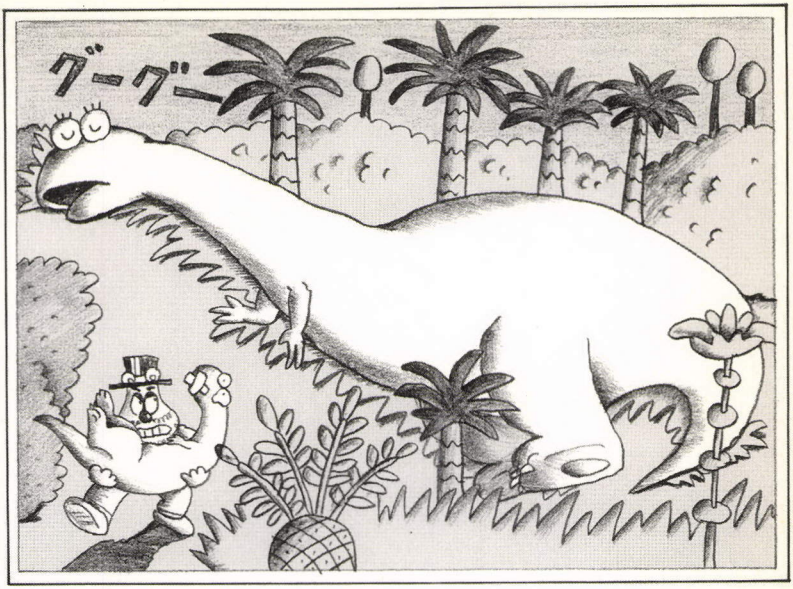
「ファファファ、なにをおっしゃる、
きつねさん、この力もちのわたしでさえ、
あまりの大きさに、つれてこられなかったの
ですぞ。あなたのようなやせっぽちに、
なにができるというんです。」
「なに、おれさまは、力じゃなくて、
頭をつかうのさ。頭をな。このゾロリさまに、
不可能は、ないのだあ——。」
ゾロリの声が、ドームにこだましました。

ぶたいにとびだして
きたのは、ゾロリです。
「十年もまっていられるか。
おれさまが、すぐにでも、ここに
その大きょうりゅうをつれて
きて、みんなをおどろかせて
やるぜ!!」



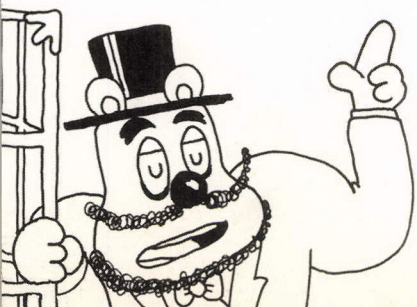
そこで、こどものきょうりゅうをつれかえり、
そだてることにしたのです。
十年たてば、この小さなきょうりゅうも、
見あげるような大きょうりゅうにそだつのです。
みなさん、十年間、このショーにかよって、
きょうりゅうの成長を、見まもろうでは
ありませんか。」
「おいおい。ちょっとまった!!」





スクリーンに写真がうつしだされました。

「わたしは、あの巨大なきょうりゅうを見つけたのですが、とてもつかまえられるものではありませんでした。



モジャラは
おちついて、
いいました。
みなさん、おしずかに。
このこどもが、りっぱな
きょうりゅうだという
しょうこを、いま
お見せいたしますから。

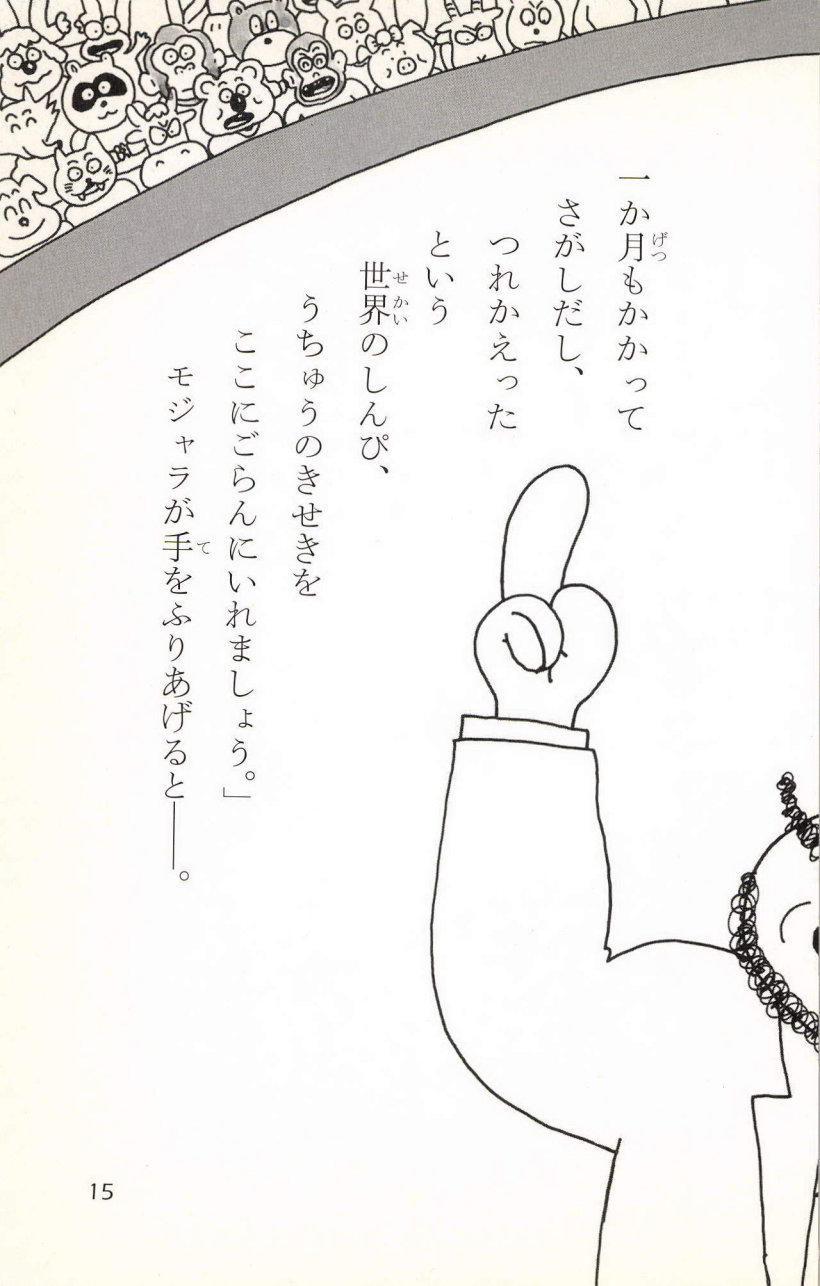
おれたち三人分のお金かえせ！

ぶたいのまんなかに、おりがあらわれました。おりの中には、小さなきょうりゅうがかなしそうな目をして、立っています。

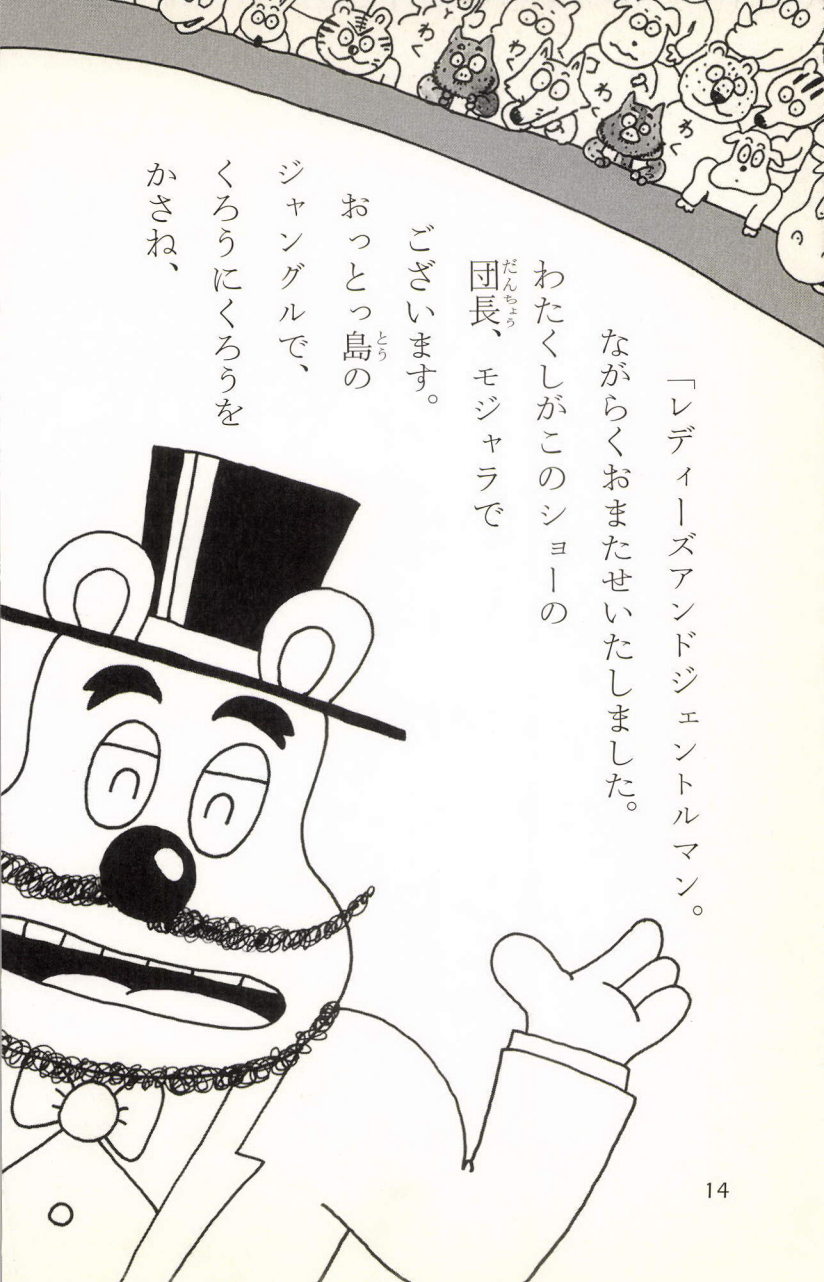
「えーっ、なんだ。ありゃ、トカゲじゃないのか？」

「きょうりゅうを見せろ、きょうりゅうだ。」

みんなは大さわぎです。しかし、



一か月もかかって
さがしだし、
つれかえった
という
世界のしんぴ、
うちゅうのきせきを
ここにごらんにいれましょう。」
モジャラが手をふりあげると――。



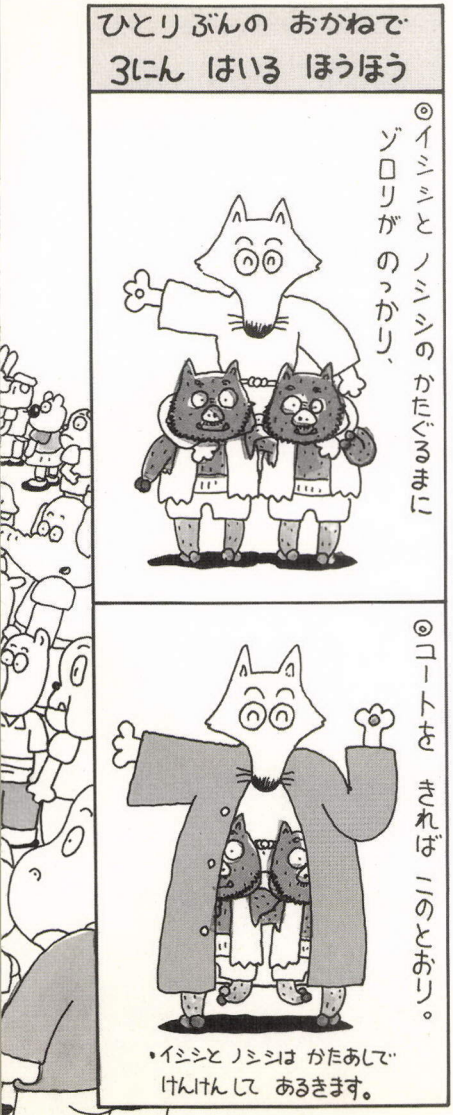
「レディーズアンドジェントルマン。
ながらくおまたせいたしました。
わたくしがこのショーの
団長、モジャラで
ございます。
おっとっ島の
ジャングルで、
くろうにくろうを
かさね、

きみが三人を見つけたころに、
そろそろショーがはじまるよ。

ドームにうまくもぐりこんだ
ゾロリとイシシ、ノシシが
どこにいるか、さがしてごらん。

モジャラドーム
大きょうりゅうショー
夏なのにコートなんかきて、どうしたんですか。
いや、おれさまさむがりなのよ。でへへへ。

ドームのまわりは、まぼろしのきょうりゅうをひとめ見ようと、ものすごい人だかりです。ゾロリたちは、ひとり分のお金で、ドームにはいろうと、こんなことを考えました。

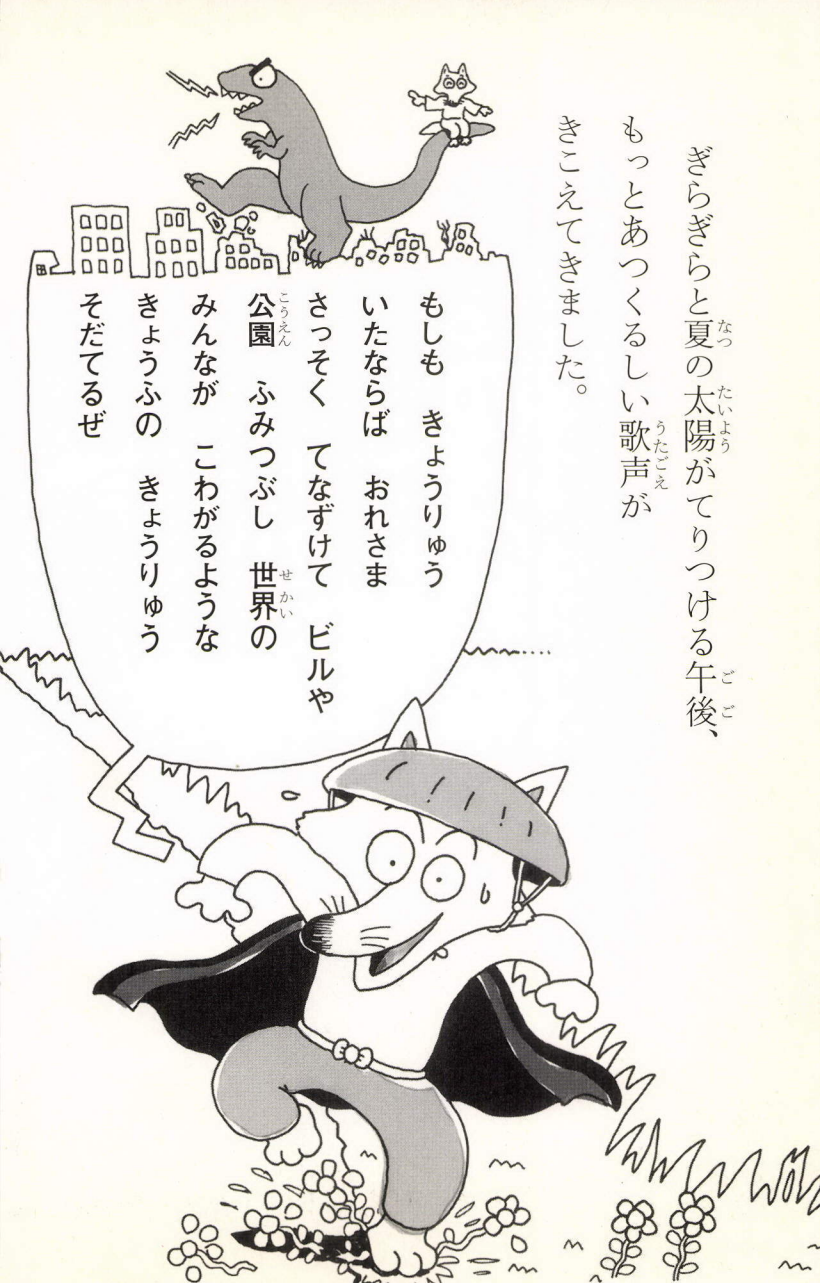


大きょうりゅう
☆まぼろしの きょうりゅうが
みなみの しまに いきのこっていた!!
わたしが こいつを くろうして つかまえて きました
このショーの しゅさいしゃ
モジャラ だんちょう
ギャオ
バキバキバキ
あ、ゾロリせんせ、大きょうりゅうは あのドームに いるらしいだよ。

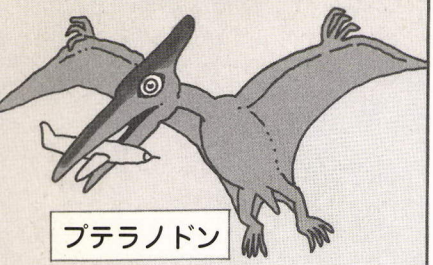
ショー
●えいがやアニメでしか みることの できなかった
きょうりゅうが いま あなたの めのまえに
あらわれる!!
ばしょ モジャラ ドーム
にゅうじょうりょう おとな 500えん
こども 250えん
なんということだ。
おれさまがのぞんで
いたとおりの
きょうりゅうが、
生きていたなんて。
どこだ、どこだ。
どこにいるんだ?
うわあ、
こいつを仲間にして、
大あばれすれば、
みんな、
大よわりだな。

と、うたっていた三人が
おどろいて、立ちつくしたのは、
こんなかんばんを見つけたからです。

ぎらぎらと夏の太陽がてりつける午後、
もっとあつくるしい歌声が
きこえてきました。



かいけつゾロリの大きょうりゅう



プテラノドン

12m
そらの だい かいじゅうだ。

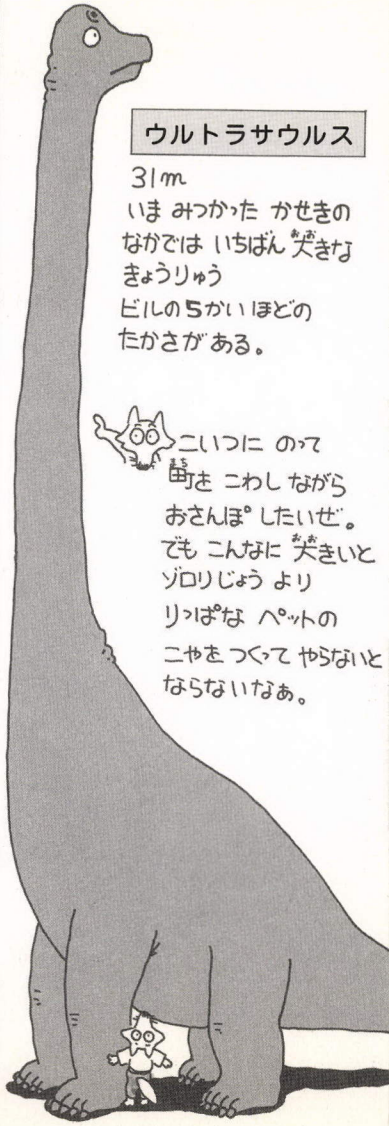
こいつに のって ジェットきを
つかまえて みたいぜ。

カツドン

13〜14cm

テンドン

13〜14cm



ウルトラサウルス

31m
いま みつかった かせきの
なかでは いちばん 大きな
きょうりゅう
ビルの5かい ほどの
たかさが ある。

こいつに のって
町を こわし ながら
おさんぽ したいぜ。
でも こんなに 大きいと
ゾロリじょう より
りっぱな ペットの
こやを つくって やらないと
ならないなぁ。

☆おまけページ・1

ゾロリがペットにしたい きょうりゅう図鑑

きょうりゅうの
くびわは、
このぐらいの
大きさで
だいじょうぶかな。

くびわだけで
この重さじゃ。

さんぽさせるの
たいへんそうだな。

ティラノサウルス

10～15m

にくしょくで あばれんぼう
だったらしい。

町じゅうを おおあばれ させてみたい。

パキケファロサウルス

4.5～8m

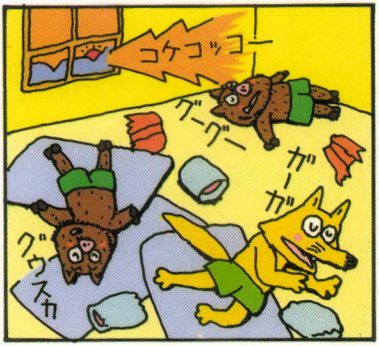
あたまの ほねの あつさが 25cm
もあって ずつきが
とくいだったらしい。

バキッ

ビルを ずつきで こわさせたいぜ。

かいけつゾロリの
大きょうりゅう

きょうはあついから
パンツだけで
ねちゃおうぜ。
おらたちも
そうするだ。
おやすみ
なさーい。


コケコッコー
グーグー
ガーガ
グウスカ

おなかをだしてねると
おなかピーピーに
なるって、知って
たか？
テテテ。
ゾロリせんせー
まだだかー。
早く
かわってー。

ゾロリ 2 in 1

かいけつゾロリの大きょうりゅうきょうふのゆうえんち

作・絵　原　ゆたか

ポプラ ポケット文庫

ゾロリ 2 in 1

かいけつゾロリの 大きょうりゅう きょうふのゆうえんち

作・絵　原 ゆたか

2 in 1